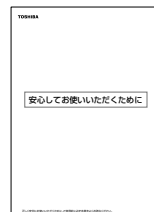
# マニュアルの使いかた

## 安心してお使いいただくために

●パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
ご使用前に必ずお読みください。

## 取扱説明書

●Windowsのセットアップ
●パソコンの各部名称
●バッテリで使う方法
●困ったときは
●リカバリ（再セットアップ）　など

## オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。
オンラインマニュアルでは、『取扱説明書』をさらに詳しく、次の内容を加えて説明しています。
●パソコンの基本機能
●通信機能
●周辺機器の接続
●アプリケーションについて
●システム環境の変更　など
またQ&A集にも、項目を多数加えています。

## リリース情報

●本製品を使用するうえでの注意事項など
必ずお読みください。
本製品の電源を入れた状態で次の操作を行うと表示されます。
［スタート］→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリック

# もくじ

# 3章 パソコンの基本操作を覚えよう ........................ 35

## 4章 ネットワークの世界へ ....................................... 67



## 5章 周辺機器を使って機能を広げよう ....................... 81

## 11章 登録とケア －廃棄と譲渡－ ........ 199



## 付録 ........ 215

# はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

## 記号の意味

| | |
|---|---|
| ⚠ 危 険 | “取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。 |
| ⚠ 警 告 | “取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。 |
| ⚠ 注 意 | “取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。 |
| お願い | データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。 |
| メモ | 知っていると便利な内容を示します。 |
| 役立つ操作集 | 知っていると役に立つ操作を示します。 |
| 参照 | このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。<br>このマニュアルへの参照の場合 ..................................................「　」<br>他のマニュアルへの参照の場合 ..................................................『　』 |

＊1　重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2　傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊3　物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

## 用語について

本書では、次のように定義します。

**システム**
特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows XPです。

**アプリケーションまたはアプリケーションソフト**
アプリケーションソフトウェアを示します。

**Windows XP**
特に説明がない場合は、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system日本語版を示します。

**Microsoft IME**
Microsoft® IME 2002／ナチュラル インプット2002またはMicrosoft® IME 2003／ナチュラル インプット2003を示します。

**ドライブ**
DVDスーパーマルチドライブを示します。

参照 詳細について 「3章 4 CDやDVDを使う」

**Office搭載モデル**
Microsoft® Office Personal Edition 2003がプレインストールされているモデルを示します。

**OneNote搭載モデル**
Microsoft® Office OneNote® 2003がプレインストールされているモデルを示します。

**USBメモリ同梱モデル**
USBフラッシュメモリが同梱されているモデルを示します。

**PSAW61RDWTS4LGモデル**
モデル名が「PSAW61RDWTS4LG」のモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、『dynabook Satellite AW6シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

## 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- 本書は、コントロールパネルの操作方法についてカテゴリ表示を前提に記載しています。クラシック表示になっている場合は、カテゴリ表示に切り替えてから操作説明を確認してください。

参照 カテゴリ表示とクラシック表示 『ヘルプとサポート センター』

## Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Vista、Outlookは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、インテル、インテル Core、Centrino、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- MagicGate、メモリースティック、メモリースティックロゴ、メモリースティック Duo、メモリースティックPRO、メモリースティックPRO Duoは、ソニー株式会社の商標です。
- xD-ピクチャーカード™は、富士写真フイルム株式会社の商標です。
- i.LINKとi.LINKロゴは商標です。
- Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- ConfigFreeは株式会社東芝の登録商標です。
- Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビ システムズ社）の米国ならびに他の国における商標です。
- InterVideo、WinDVDはInterVideo,Inc.の登録商標または商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- McAfee、VirusScanおよびマカフィーは米国法人McAfee,Inc.またはその関係会社の登録商標です。
- Javaはサンマイクロシステムズ社の米国および他の国における登録商標または商標です。
- TruSurround XT、WOW HD、WOW XT、Circle Surround Xtract、SRS及び(●)® 記号はSRS Labs, Inc.の商標です。
  TruSurround XT、WOW HD、WOW XT、Circle Surround Xtract、TruBass、SRS 3D、Definition及びFOCUS技術はSRS Labs, Inc.のライセンスに基づき製品化されています。
- gooスティックは、NTTレゾナント株式会社の商標です。
- OCNはNTTコミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ODNは日本テレコム株式会社の商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

## プロセッサ(CPU)に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- AC アダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高 1,000 メートル（3,280 フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温５～30℃（高所の場合 25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。
この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC あんしんサポート 0120-97-1048 にお問い合わせください。

## インテル Centrino Duo モバイル・テクノロジーについて

次の３つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino Duo モバイル・テクノロジー搭載と呼びます。

- インテル Core Duo プロセッサー
- モバイル インテル 945 Express チップセット・ファミリー
- インテル PRO/Wireless 3945ABG ネットワーク・コネクション・ファミリ

## 著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

## リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

①［スタート］→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をクリックする

## ワイド画面における画面の引き伸ばしについて

1. 本製品は、各種の画面モード切り換え機能を備えています。テレビ番組等ソフトの映像比率と異なるモードを選択されますと、オリジナルの映像とは見え方に差が出ます。この点にご注意の上、画面モードをお選びください。
2. 本製品を営利目的、または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテル等において、画面モード切り換え機能（ワイドモード、ワイドズーム等）等を利用して、画面の引き伸ばし等を行いますと、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害するおそれがありますので、ご注意願います。

## お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または同梱のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされている、または同梱のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- 本製品に内蔵されている画像を、本製品での壁紙以外の用途に使用することを禁じます。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書は表示されませんが、リカバリを行った場合には使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書兼お客様登録カード』は、「東芝保証書」と「お客様登録カード」を中央の切り取り線で切り離せます。
  「東芝保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』または弊社ホームページで登録できます。

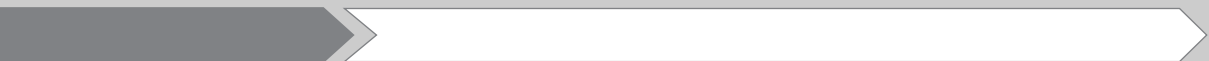
参照 詳細について 「11章 1 お客様登録の手続き」

# 1 章

# パソコンの準備 －セットアップ－

この章では、Windows のセットアップ、電源の切りかた／入れかたなど、お買い上げいただいてから実際に使い始めるまでの準備について説明しています。

# Windows を使えるようにする

（ルビ：Windows＝ウィンドウズ）

## － Windows のセットアップ －

初めて電源を入れたときは、Windows のセットアップを行う必要があります。
Windows のセットアップは、パソコンを使えるようにするために必要な操作です。
セットアップには約 10 分かかります。

作業を始める前に、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』を必ず読んでください。特に電源コードや AC アダプタの取り扱いについて、注意事項を守ってください。

**お願い**　セットアップをするときの注意

■周辺機器は接続しないでください■

- セットアップは AC アダプタと電源コードのみを接続して行います。
  セットアップが完了するまでは、プリンタ、マウスなどの周辺機器や LAN ケーブルは接続しないでください。

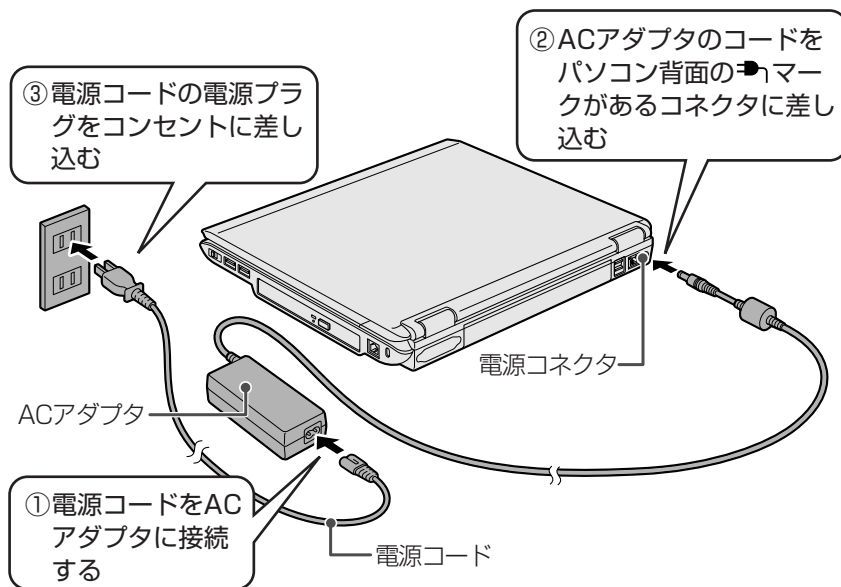
■途中で電源を切らないでください■

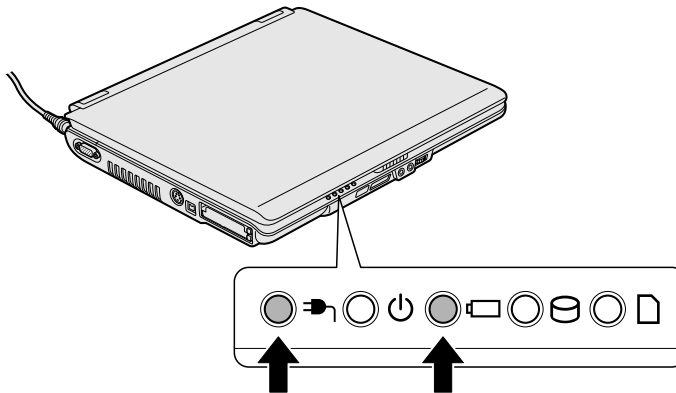
- セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動できない原因になり、修理が必要となることがあります。

■操作は時間をあけないでください■

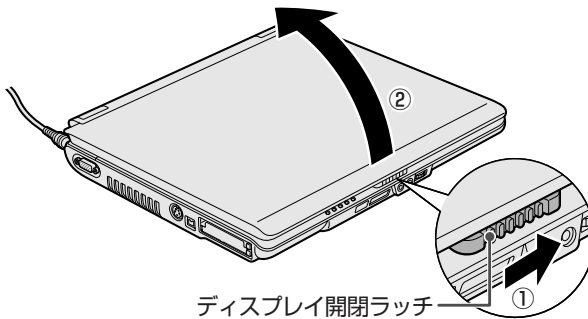
- セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。
  30 分以上タッチパッドやキーを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなる場合がありますが、故障ではありません。
  もう 1 度表示するには、Shift キーを押すか、タッチパッドをさわってください。

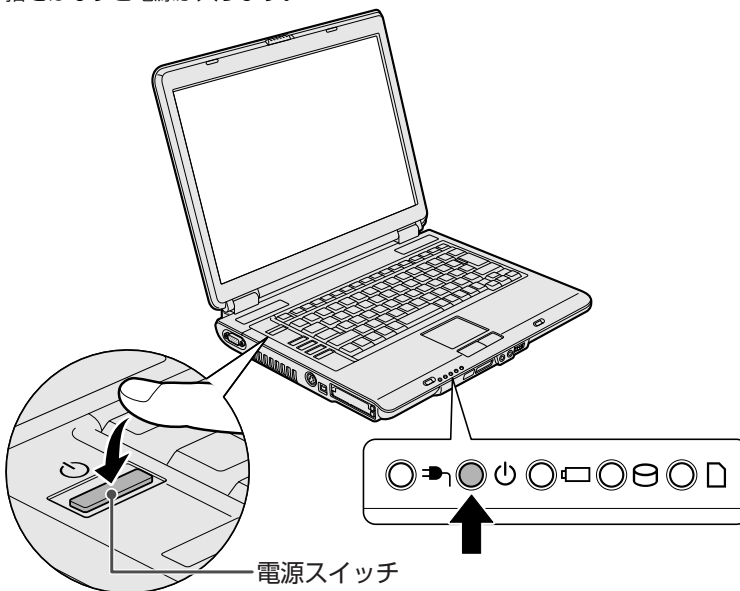
## ① 電源コードと AC アダプタを接続する

次の図の①→②→③の順で行ってください。

### 接続すると

DC IN LEDが青色に点灯します。また、Battery LEDがオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

## ② 電源を入れる

**1 パソコン本体正面のディスプレイ開閉ラッチをスライドし①、ディスプレイを開ける②**

ディスプレイを開閉するときは、傷や汚れがつくのを防ぐために、液晶ディスプレイ部分には触れないようにしてください。
片手でパームレスト（キーボードの手前部分）をおさえた状態で、ゆっくり起こしてください。

**2 電源スイッチを約2秒間押し、指をはなす**

指をはなすと電源が入ります。

## ③ Windows のセットアップ

次の手順に従ってセットアップを行ってください。
パソコンが起動したら、［Microsoft Windows へようこそ］画面が表示され、音楽が流れます。

音量は本体前面にあるボリュームダイヤルで調節できます。

参照 音量の調節について 「3 章 6 サウンド機能」

### 1 ［次へ］ボタンをクリックする

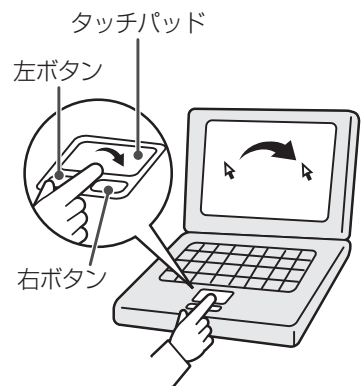
画面右下の ? ボタンをクリックするかF1キーを押すと、Windows セットアップのヘルプが表示されます。

［使用許諾契約］画面が表示されます。

### 役立つ操作集

**クリックとは？**

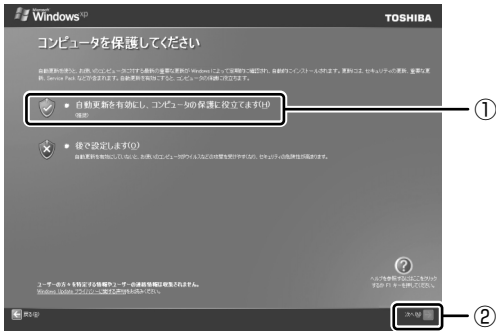
タッチパッドに指をおいて、上下左右に動かすと、指の動きにあわせてディスプレイ上の「 」（ポインタ）が動きます。
目的の位置にポインタをあわせたあと、左ボタンを 1 回押す操作を「クリック」といいます。

参照 詳しい使いかた 「3 章 3 ポインタを動かす／ファイルを開く」

### 2 ［使用許諾契約］の内容を確認して［同意します］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

（表示例）

契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできず、Windows を使用することはできません。
▼ ボタンをクリックすると契約書の続きを表示できます。

［コンピュータを保護してください］画面が表示されます。

**3**　**［自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

［コンピュータに名前を付けてください］画面が表示されます。

**4**　**［このコンピュータの名前］にコンピュータ名を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②**

半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。
企業で本製品を使用する場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。
［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面が表示されます。［インターネットに接続する方法を指定してください。］画面ではなく［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示されることもあります。
画面が表示される前に、［インターネット接続を確認しています］画面が表示されることがあります。そのまま次の画面が表示されるのをお待ちください。
インターネット接続の設定は、セットアップ完了後に行えるので、ここでは省略した場合について説明します。

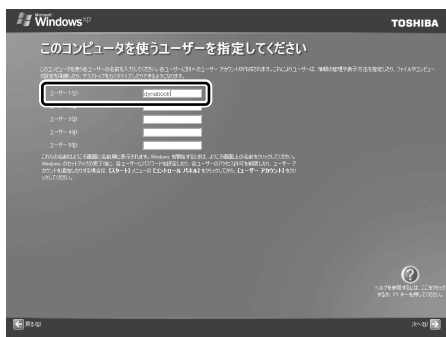
**5**　**［省略］ボタンをクリックする**

［インターネット接続が選択されませんでした］画面が表示された場合も、［省略］ボタンをクリックしてください。

［Microsoft にユーザー登録する準備はできましたか？］画面が表示されます。
マイクロソフト社へのユーザ登録は、市販の Windows XP を購入された場合のみ必要ですので、ここでは省略した場合について説明します。

**6**　［いいえ、今回はユーザー登録しません］の左にある○をクリックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［このコンピュータを使うユーザーを指定してください］画面が表示されます。

**7**　［ユーザー 1］欄に使う人の名前を入力する

［ユーザー 1］欄にポインタをあわせてクリックすると、「｜」（カーソル）が点滅します。

参照　入力に使うキーの位置について 「3 章 2 キーボード」

Windows XP では複数のユーザを設定し、それぞれのユーザごとに別々の環境を構築できますが、ここでは 1 人の名前だけ入力した場合について説明します。

**メモ**　ローマ字入力で入力する場合

- 半角英数字で「dynabook」と入力したいときは、はじめにキーボードの(半／全)キーを押して、日本語入力システム Microsoft IMEの日本語入力モードをオフにしてから、(D)(Y)(N)(A)(B)(O)(O)(K)と押します。
キーを押しても文字が表示されない場合は、［ユーザー］欄に「｜」（カーソル）が表示され点滅していることを確認してください。表示されていないときは、［ユーザー］欄をクリックしてください。
文字の入力を間違えたら、(BackSpace)キーを押して入力ミスした文字を削除します。

**8**　［次へ］ボタンをクリックする

［設定が完了しました］画面が表示されます。

**9**　［完了］ボタンをクリックする

（表示例）

Windows のセットアップが終了するとパソコンの電源が切れ、しばらくすると自動的に電源が入ります。
続いて、パソコンの環境を整える操作を行います。

## ④ パソコンの環境を整える

パソコンの電源が入ると、パソコンを診断しているメッセージが表示されます。診断が終了すると、［PC診断］画面が表示されます。

### 1 ［次へ］ボタンをクリックする

パソコンの環境設定が始まります。しばらくするとパソコンの環境設定が終了したメッセージが表示されます。

### 2 ［再起動］ボタンをクリックする

パソコンの電源が切れ、しばらくすると自動的に電源が入ります。



### 役立つ操作集

日付と時刻の設定

購入後初めてセットアップを終えたあとは、次の手順で日付と時刻をあわせます。

①［スタート］ボタンをクリックし、表示されたメニューから［コントロールパネル］をクリックする
②［ 日付、時刻、地域と言語のオプション］をクリックする
③［ 日付と時刻］をクリックする
［日付と時刻のプロパティ］画面が表示されます。

④［日付］欄の  または  をクリックして年号をあわせる
⑤［日付］欄の  をクリックして月をあわせる
⑥［日付］欄のカレンダーで日をクリックする
⑦［時刻］欄の  または  をクリックして時刻をあわせる
変更する時／分／秒をクリックしてから、 または  をクリックします。
⑧［OK］ボタンをクリックする

時刻は、画面右下の［通知領域］に表示されています。日付は、時刻表示部分にポインタをあわせるとしばらくして表示されます。正しく設定されているかどうか確認してください。

# 電源を切る方法と入れる方法

## ① 電源を切る

パソコンの電源を切るときは、まず Windows を終了し、そのあとパソコン本体の電源を切ります。
電源を切る手順を覚えましょう。
間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失うおそれがあります。

**お願い** 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED、ブリッジメディア LED、ディスクトレイ LED が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

**1** ［スタート］ボタンをクリックする

**2** ［終了オプション］をクリックする

［コンピュータの電源を切る］画面が表示されます。

**3** ［電源を切る］をクリックする

Windows を終了したあと、パソコン本体の電源が自動的に切れます。
パソコン本体の電源が切れると、Power LED が消灯します。

**お願い** 電源を切ったあとは

- パソコン本体に接続している機器（周辺機器）の電源は、パソコン本体の電源を切ったあとに切ってください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。強く閉じると衝撃でパソコン本体が故障する場合があります。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。

## ② 電源を入れる

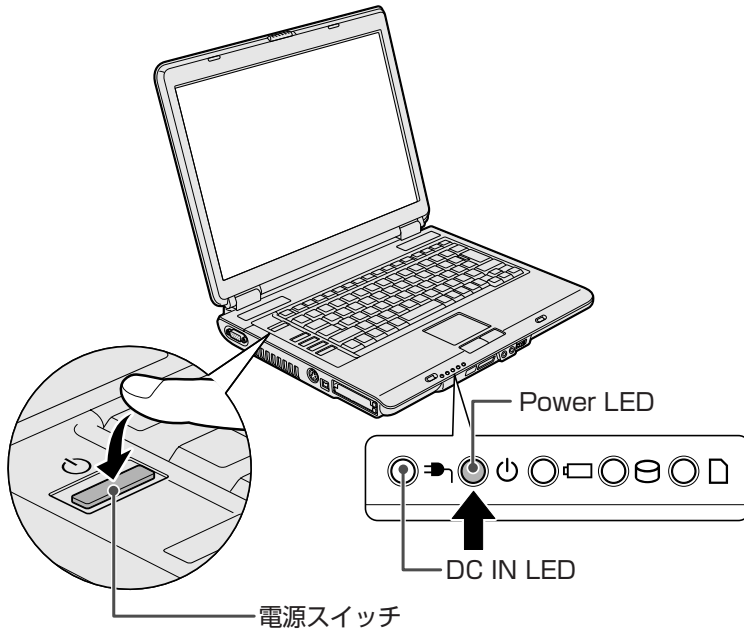
Windows セットアップを終えたあとは、次の手順で電源を入れます。

**お願い**　電源を入れる前に

- 各スロットにメディアなどをセットしている場合は取り出してください。
- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、パソコン本体より先に周辺機器の電源を入れてください。



**1 電源スイッチを約2秒間押し、指をはなす**

指をはなすと電源が入ります。

Windows が起動し、デスクトップ画面が表示されます。

## 電源に関する表示

電源の状態はシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。
電源に関係あるインジケータとそれぞれの意味は次のとおりです。

| | 状態 | パソコン本体の状態 |
|---|---|---|
| DC IN LED | 青の点灯 | AC アダプタを接続している |
| | オレンジの点滅 | 異常警告（AC アダプタ、バッテリまたはパソコン本体の異常）* |
| | 消灯 | AC アダプタを接続していない |
| Power LED | 青の点灯 | 電源 ON |
| | オレンジの点滅 | スタンバイ中 |
| | 消灯 | 電源 OFF、休止状態 |

＊ 電源に関するトラブルについては、「9 章 3 Q&A 集」を参照してください。

【 ユーザパスワードを設定している場合 】

● ユーザパスワードを設定している場合
電源を入れると次のメッセージが表示されます。

パスワードを入力して下さい。 [ ]

設定したユーザパスワードを入力し、Enterキーを押してください。

参照 パスワードについて 「8 章 4 パスワードセキュリティ」

● HDD パスワードを設定している場合
電源を入れると次のメッセージが表示されます。

HDD パスワードを入力して下さい。 [ ]

設定したHDDパスワードを入力し、Enterキーを押してください。

メモ

● パスワードの入力ミスを３回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。
● ユーザパスワードと HDD ユーザパスワードの両方を設定してある場合は、パスワード→ HDD パスワードの順に認証が求められます。ただし、パスワードと HDD ユーザパスワードが同一の文字列の場合は、パスワードの認証終了後、HDD パスワードの認証は省略されます。

参照 パスワードについて 「8 章 4 パスワードセキュリティ」

【 メッセージが表示される場合 】
不明なメッセージについては、「9 章 3 Q&A 集 メッセージ」をご覧ください。

## 1 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

【 一時的に変更する 】
電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

**1** **キーボードの(F12)キーを押しながら電源スイッチを押し、「TOSHIBA」画面が表示されてから手をはなす**

**2** **起動したいドライブを(↓)または(↑)キーで選択し、(Enter)キーを押す**

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

【 あらかじめ設定しておく 】
「東芝 HW セットアップ」の［OS の起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更 「8 章 2 東芝 HW セットアップを使う」

# パソコンの使用を中断する／電源を切る

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。
再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断したときの状態が再現されます。

**お願い** 操作にあたって

中断する前に
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スタンバイまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。書き込み途中のデータがある状態でスタンバイまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

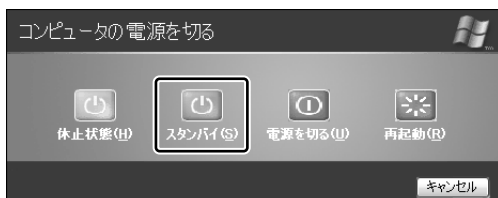
中断したときは
- スタンバイ中に次のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  ・スタンバイ中にメモリの取り付け／取りはずしをすること
  ・スタンバイ中にバッテリパックをはずすこと
  また、スタンバイ中にバッテリ残量が減少したときも同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しないときは、電源スイッチを５秒以上押していったん電源を切った後、もう一度電源を入れてください。この場合、スタンバイ前の状態は保持できていません（ResumeFailure で起動します）。
- スタンバイ中や休止状態では、バッテリや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。
- パソコン本体を航空機や病院に持ち込むとき、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与えることがあります。

## ① スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。
スタンバイはすばやく状態が再現されますが、休止状態よりバッテリを消耗します。バッテリを使い切ってしまうと保存されていないデータは消失するので、AC アダプタを取り付けて使用することを推奨します。

### 1 スタンバイの実行方法

**1** ［スタート］ボタンをクリックし①、［終了オプション］をクリックする②

**2** ［スタンバイ］をクリックする

メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

**3** Power ⏻ LED がオレンジ点滅しているか確認する

- Fn＋F3キーを押して、スタンバイを実行することもできます。

## ② 休止状態

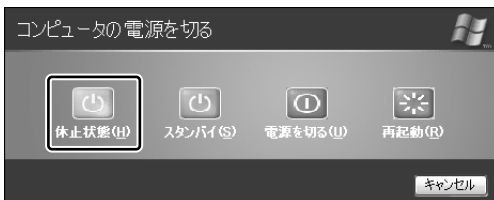
パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を復元できます。
購入時の設定では、バッテリが消耗すると、パソコン本体は自動的に休止状態になります。休止状態が無効な場合はそのまま電源が切れるため、作業中のデータが消失するおそれがあります。バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることを推奨します。
購入時は、休止状態が有効に設定されています。

### 1 休止状態の実行方法

**1** 休止状態を有効に設定する

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
② ［電源オプション］をクリックする
③ ［休止状態］タブで［休止状態を有効にする］をチェックする
④ ［OK］ボタンをクリックする
　休止状態が有効になります。

**2** ［スタート］ボタンをクリックし①、［終了オプション］をクリックする②

**3** ［休止状態］をクリックする

Disk LED が点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

- Fn＋F4キーを押して、休止状態にすることもできます。

## ③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。
休止状態にするには、あらかじめ設定が必要です。購入時は、休止状態が有効に設定されていますが、解除した場合は「本節 ②-1 休止状態の実行方法」の手順 1 を参照して、設定してください。

### 1 電源スイッチを押す

**1 電源スイッチを押したときの動作を設定する**

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック➝［東芝省電力］をクリックする
② ［アクション設定］タブの［電源ボタンを押したとき］で［入力を求める］［スタンバイ］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する
［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。
③ ［OK］ボタンをクリックする

**2 電源スイッチを押す**

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
手順 1 の②で［入力を求める］を選択したときは、［コンピュータの電源を切る］画面が表示されます。［何もしない］を選択したときは、電源スイッチを押しても何も動作しません。

### 2 ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じることによって［スタンバイ］［休止状態］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。購入時には［休止状態］に設定されています。変更する場合は次の手順を行ってください。

**1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する**

① ［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック➝［東芝省電力］をクリックする
② ［アクション設定］タブの［コンピュータを閉じたとき］で［スタンバイ］［休止状態］のいずれかを選択する
［何もしない］に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
③ ［OK］ボタンをクリックする

**2 ディスプレイを閉じる**

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。
手順 1 の②で［スタンバイ］または［休止状態］を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

# Windows のワンポイント



## 1 わからない操作があったとき

Windows XP の使いかたについては、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。
Windows XP の最新情報やアップデートの情報は次のホームページから確認できます。

- Windows XP について
  URL：http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/
- Windows XP のアップデート
  URL：http://windowsupdate.microsoft.com/

## 2 ちょっと便利な補助機能

画面を見る、音声を聞く、キーボードやマウスを操作するなどのパソコンでの作業が難しい場合、Windows XP では［ユーザー補助の設定ウィザード］または［ユーザー補助のオプション］でユーザを補助します。

### ユーザー補助の設定ウィザード

［ユーザー補助の設定ウィザード］では、ユーザー補助に関する質問が表示されます。
質問の回答にあわせ、自動的にパソコンを設定します。

**1** **［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする**

**2** **［ ユーザー補助のオプション］をクリックする**

**3** **［Windows を構成して、ユーザーの視覚、聴覚、四肢の状態に合わせて使用する］をクリックする**

### ユーザー補助のオプション

［ユーザー補助のオプション］では、直接設定することができます。

**1** **［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする**

**2** **［ ユーザー補助のオプション］をクリックする**

**3** **［ ユーザー補助のオプション］をクリックする**

詳しくは、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして『ヘルプとサポート センター』を起動し、「ヘルプトピックを選びます」の［ユーザー補助］をクリックして、説明をお読みください。

# 2章

# 買い替えのお客様へ

すでに使っていたパソコンの使用環境を、新しいパソコンでも引き続き利用するために必要な手順や、前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC 引越ナビ」について説明します。

# パソコンを買い替えたときは

新しいパソコンに買い替えたかたは、今まで使っていたパソコンと同じように使うために使用環境を整えましょう。
Windows セットアップを完了してから行ってください。また、インターネット接続やアプリケーションのインストール、データの移行を行う前にウイルスチェックソフトをインストールすることをおすすめします。

参照 ウイルスチェックソフトについて 「7 章 3 マカフィー・ウイルススキャンによるウイルス対策」

## 周辺機器を使えるようにする

【 仕様を確認する 】
今まで使っていた周辺機器を本製品に接続して使用するには、次の点を確認してください。

①本製品の仕様を確認する
本製品に、その周辺機器を使用するためのインタフェース（コネクタなど）が装備されているか、確認してください。
②Windows XP に対応している機器か確認する
『周辺機器に付属の説明書』や機器のメーカのホームページで、その周辺機器が対応しているシステムを確認してください。Windows XP に対応していない場合は、本製品に接続して使用できません。

参照 使用できる周辺機器について 「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

【 周辺機器を接続する 】
①今まで使っていたパソコンから周辺機器を取りはずす
『周辺機器に付属の説明書』や『パソコンに付属の説明書』を確認し、周辺機器を取りはずしてください。
②本製品にドライバやソフトをインストールする
機器に CD などでドライバが添付されている場合や、メーカのホームページで Windows XP 用のドライバがダウンロードできる場合は、本製品にダウンロードしてください。
③本製品に周辺機器を取り付ける
「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」を確認し、周辺機器を取り付けてください。

周辺機器を取り付けたあと、動作に問題ないか確認してください。

## メールやインターネットの設定をする

Windows セットアップが完了したばかりの状態では、メールやインターネットは使用できません。
プロバイダとの契約時に送られてきた説明書などを確認し、もう一度設定してください。

## アプリケーションをインストールする

今まで使っていたパソコンで使用していたアプリケーションを引き続き使用する場合は、インストールします。
『アプリケーションに付属の説明書』やメーカのホームページで、そのアプリケーションが対応しているシステムを確認してください。
Windows XP に対応していない場合は、本製品では使用できません。また、本製品に最新版のアプリケーションが入っている場合は、本製品のアプリケーションを使用することをおすすめします。

①今まで使っていたパソコンからアプリケーションをアンインストールする
②本製品にインストールする
アンインストール／インストール手順は、『アプリケーションに付属の取扱説明書』を確認してください。

## データの移行をする

データの移行とは、パソコンに保存されているデータを CD ／ DVD などのメディアやネットワークを介して別のパソコンに移すことをさします。データのコピーともいいます。

今まで使っていたパソコンで作成したデータやフォルダを本製品にコピーします。データを作成したアプリケーションが本製品にインストールされていることを確認してください。

- 本製品には、「Internet Explorer」や「Outlook Express」の設定、作成したデータなどをまとめて移行できる「PC 引越ナビ」が用意されています。

# 前のパソコンのデータを移行する

**－ PC 引越ナビ －**

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC 引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間が簡略化することができるアプリケーションです。事前に次の点を確認しておくと、よりスムーズに操作ができます。

ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「本製品」として説明します。

## パソコンの仕様を確認する

【 前のパソコンの動作環境を確認する 】
「PC 引越ナビ」を使用したデータや設定の移行は、すべてのパソコン間で行えるものではありません。前のパソコンが次の条件に合った仕様かを確認してください。

- システム＊1
  Windows 98 SE ／ Windows Me ／ Windows 2000 ／ Windows XP Home Edition ／ Windows XP Professional

＊1 マイクロソフト社が提供している最新の Service Pack を適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以外のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。
システムの正式名称は次のとおりです。
Windows 98 SE .... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows Me .......... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000 ..... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版

参照 「Internet Explorer」のバージョン確認とバージョンアップ方法について
「付録 5 Internet Explorer のバージョンについて」

【 使用できるメディアや環境を確認する 】
設定・データの移行をするには、次の方法があります。

- メディアを使用する
- ネットワーク（LAN）を使用する
- クロスケーブル（LAN）を使用する

前のパソコンと、本製品の仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

「PC 引越ナビ」で使用できるメディアは次のとおりです。

- CD-R
- CD-RW
- DVD-R
- DVD-RW
- DVD+R
- DVD+RW
- DVD-RAM
- USB フラッシュメモリ

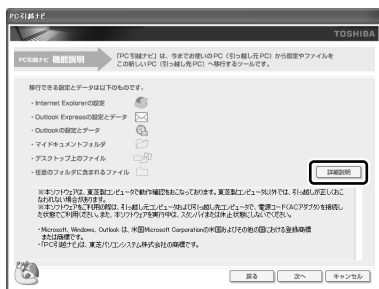
前のパソコンでどのメディアが使用できるかを確認し、移行に使用するメディアを選択し、必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なメディアは、あらかじめフォーマットしておいてください。
移行するファイルや設定内容に比べて、メディアの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のメディアを移行用に使用することをおすすめします。

## 移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」で移行できる設定とデータは、次のものです。

- Internet Explorerの設定
  - ・［お気に入り］フォルダの設定
  - ・ホームページ（スタートページ）の設定
  - ・ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定
- Outlook Expressの設定
  初期状態で登録されているメインユーザの次のデータを移行できます。
  - ・アドレス帳の内容
  - ・メールデータ
  - ・アカウント情報（メールアカウント、ニュースアカウント、ディレクトリサービスアカウント）
- Microsoft Outlookの設定
  ＊ Office搭載モデルのみ、「Microsoft Outlook」が用意されています。それ以外のモデルには、「Microsoft Outlook」は同梱およびインストールされておりません。
  以前にご使用されていたパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータを本製品に移行したい場合は、「PC引越ナビ」をご使用される前に市販の「Microsoft Outlook」を本製品にインストールする必要があります。
  - ・個人用フォルダに含まれるデータ
  - ・電子メールアカウント設定（ExchangeServer、POP3、IMAP、HTTP）
  - ・その他の設定（個人アドレス帳、仕訳ルール、署名）
- ［マイドキュメント］フォルダに保存されているファイル
  「PC引越ナビ」を起動したときのユーザ名の［マイドキュメント］を移行できます。
- デスクトップ上のファイル
  「PC引越ナビ」を起動したときのユーザ名のデスクトップ上のファイルを移行できます。
- 任意のフォルダに含まれるファイル
  移行したいファイルを指定することができます。指定はフォルダ単位で行います。

### メモ

- 移行できる設定やデータについて、詳しくは、「PC引越ナビ」の［詳細説明 引っ越し可能なデータ］画面で確認してください。
  ［PC引越ナビ　機能説明］画面で［詳細説明］ボタンをクリックすると表示されます。

### お願い　操作にあたって

注意制限事項については、「PC引越ナビ ご使用にあたっての注意制限事項」を参照してください。
次の手順で、表示することができます。

①［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする
②［セットアップ画面へ］をクリックする
③［東芝ユーティリティ］タブをクリックする
④画面左側の［PC引越ナビ］をクリックし、画面右側の［「PC引越ナビ」をご使用の前にお読みください（注意制限事項）。］をクリックする

- 「こん包プログラム」が作成するこん包ファイルが分割する場合、分割した1つのこん包ファイルの最大は、2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大65,000ファイルです。
- 「こん包プログラム」からこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさの約2.3倍の空き容量が、保存先の装置に必要です。
- すべてのパソコンでの動作確認は行っていません。したがって、すべてのパソコンでの動作保証はできません。

### 1 起動方法

**1** **［スタート］→［すべてのプログラム］→［PC 引越ナビ］をクリックする**

［PC 引越ナビ使用許諾］画面が表示されます。内容を確認してください。

**2** **［同意する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする**

使用許諾契約に同意しないと、「PC 引越ナビ」を使用することはできません。

「PC 引越ナビ」が起動し、説明画面が表示されます。内容を確認し、［次へ］ボタンをクリックしてください。



## 操作の流れ

設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで詳細の操作は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
本製品と、前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

**移行方式を決める**　＊本製品で操作します。
いくつかある移行方式のなかから、前のパソコンと本製品の仕様や、移行するデータの容量を元に移行方式を選択します。

▼

**「こん包プログラム」をコピーする**　＊本製品で操作します。
「こん包プログラム」は複数のファイルを一つにまとめるプログラムです。移行方法をネットワークにした場合は、本製品の共有フォルダにコピーしてください。
移行方法をメディアにした場合は、メディアにコピーしてください。

▼

**「こん包プログラム」を実行する**　＊前のパソコンで操作します。
コピーした「こん包プログラム」を実行し、移行する複数のデータを1つのファイル（「こん包ファイル」）にまとめます。

▼

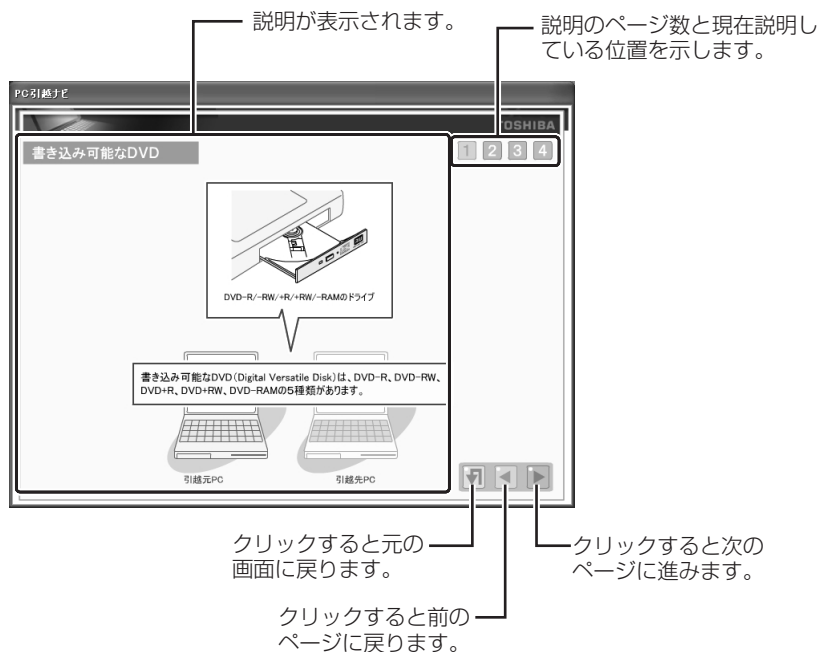
**「こん包ファイル」をコピーする**　＊前のパソコンで操作します。
作成した「こん包ファイル」をコピーします。
移行方法をネットワークにした場合は、本製品の共有フォルダにコピーしてください。
移行方法をメディアにした場合は、メディアにコピーしてください。
移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。
すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。

▼

**「こん包ファイル」を開梱する**　＊本製品で操作します。
コピーした「こん包ファイル」を本製品で開き、コピーします。

## 説明画面について

【 操作に困ったとき 】
［説明］ボタン、または［詳細説明］ボタンをクリックすると、表示している画面の詳細説明が表示されます。

【 説明画面の操作方法 】
画面の構造は、次のとおりです。

# 3章

# パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

# 各部の名称

## ー 外観図 ー

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページを確認してください。

**メモ**

- 本製品に表示されている、コネクタ、LED、スイッチのマーク（アイコン）、およびキーボード上のマーク（アイコン）は最大構成を想定した設計となっています。ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。

## ① 前面図

ディスプレイ開閉ラッチ

ディスプレイ（➲ P.57）
表示装置です。

次頁の「電源スイッチ・ボタン」を確認してください。

スピーカ

RGBコネクタ（➲ P.101）
外部ディスプレイと接続して、パソコンの映像を外部ディスプレイに表示します。

通風孔
パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさがないでください。

S-Video出力コネクタ（➲ P.93）
S端子ケーブルを接続して、パソコンの映像をテレビに表示します。

i.LINK（IEEE1394）コネクタ（➲ P.91）
ビデオカメラなど、i.LINK（IEEE1394）対応機器を接続します。

ExpressCardスロット（上段）（➲ P.107）
ExpressCardをセットします。

スピーカ

キーボード（➲ P.40）

タッチパッド（➲ P.46）
パッドの上を指でなぞって、パソコンを操作します。

左ボタン（➲ P.46）
項目を選択します。

右ボタン（➲ P.46）
メニューを表示します。

ボリュームダイヤル
音量を調整します。
左に回すと音量が小さくなります。
右に回すと音量が大きくなります。

ヘッドホン出力端子（➲ P.104）
ヘッドホンを接続します。

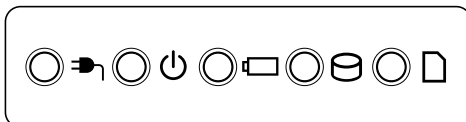
マイク入力端子（➲ P.103）
マイクロホンを接続します。

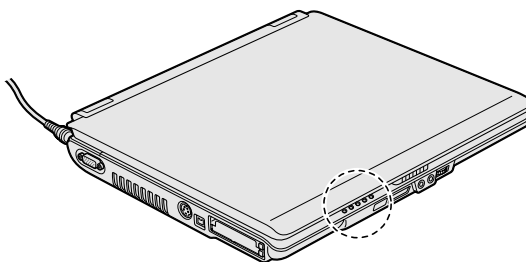
ブリッジメディアスロット（➲ P.60）
SDカード、メモリースティック、マルチメディアカード、xD-ピクチャーカードなどをセットします。

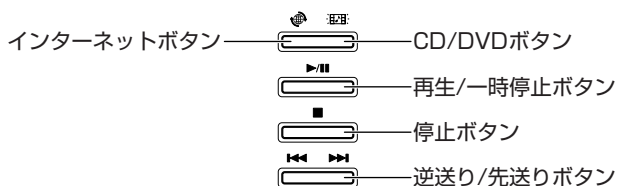
システムインジケータ
次頁の説明を参照してください。

PCカードスロット（下段）（➲ P.105）
PC カードをセットします。

## 1 システムインジケータ

システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。

| | | |
|---|---|---|
| | DC IN LED | 電源コード接続の状態　参照 P.22 |
| | Power LED | 電源の状態　参照 P.22 |
| | Battery LED | バッテリの状態　参照 P.111 |
| | Disk LED | ハードディスクドライブにアクセスしている |
| | ブリッジメディア LED | ブリッジメディアスロットにアクセスしている　参照 P.63 |

ディスプレイを閉じたとき
各 LED は、ディスプレイを閉じた状態でも確認することができます。

## 2 電源スイッチ・ボタン

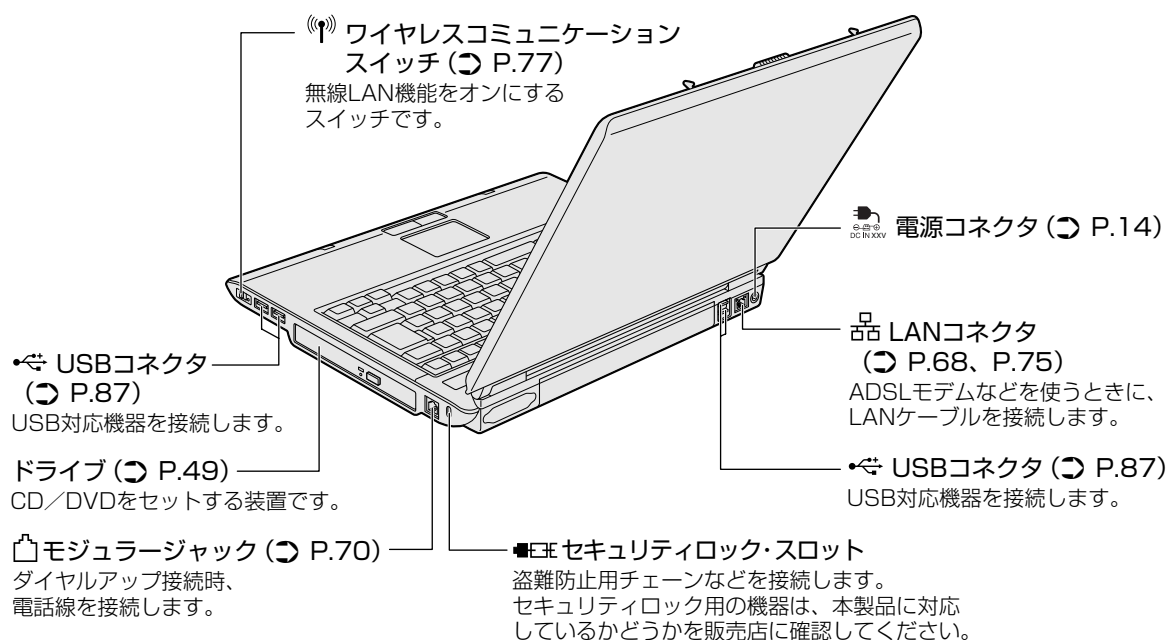
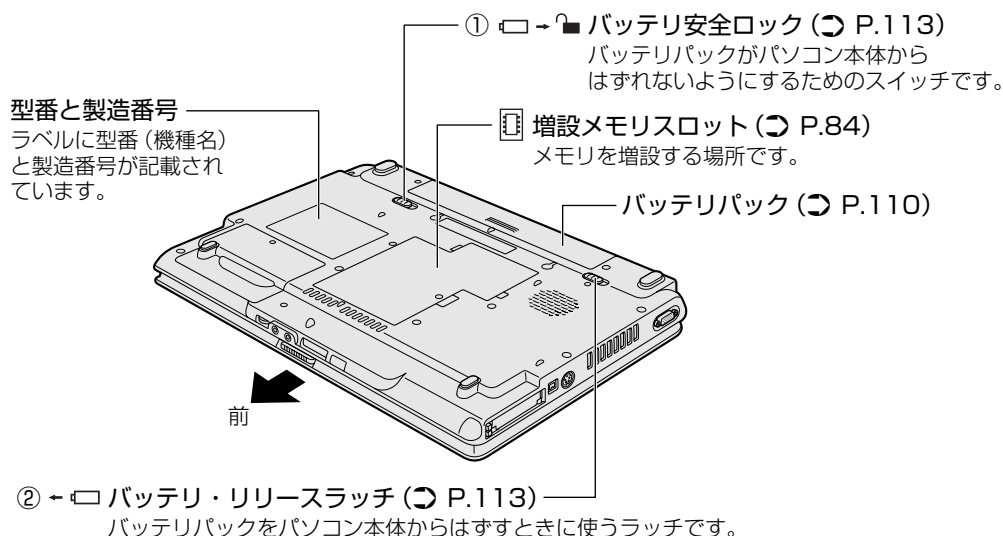
パソコンで DVD-Video を見たり音楽を聴いたりするとき、ボタンを使用すると簡単に操作することができます。

### ボタンの操作方法

操作するボタンを、指で押してください。押したボタンに割り当てられている機能を実行します。ボタンに割り当てられている機能は「東芝コントロール」で変更できます。詳しくは、「本章 8 ボタンを設定する」を参照してください。

### ボタンの機能

それぞれのボタンの機能は、次のようになっています。

| | |
|---|---|
| インターネットボタン | Internet Explorer を起動します。 |
| CD/DVD ボタン | 音楽や映像を再生するアプリケーションを起動します。<br>ドライブに DVD がセットされている場合は「WinDVD」を、DVD 以外がセットされている、または何もセットされていない場合は「Windows Media Player」を起動します。 |
| 再生 / 一時停止ボタン | アプリケーションを再生、一時停止または一時停止を解除します。 |
| 停止ボタン | そのとき操作しているアプリケーションを停止します。 |
| 逆送りボタン | そのとき再生している音楽や映像のトラック／チャプタを 1 つ前またはトラック／チャプタの先頭に戻します。 |
| 先送りボタン | そのとき再生している音楽や映像のトラック／チャプタを 1 つ進めます。 |

## ② 背面図

## ③ 裏面図

通風孔は、パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさがないでください。

### ⚠ 警 告

- **必ず、本製品付属のACアダプタを使用すること**
  本製品付属以外のACアダプタを使用すると電圧や（+）（−）の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- **パソコン本体にACアダプタを接続する場合、必ず「1章 1 Windowsを使えるようにする」に記載してある順番を守って接続すること**
  順番を守らないと、ACアダプタのDC出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、ACアダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

### ⚠ 注 意

- **お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜くこと**
  電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

### お願い

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

【電源コードの仕様】
本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。
使用できる電圧（AC）は、100Vです。
必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

＊ 取得規格は、電気用品安全法です。

その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

【ACアダプタの仕様】
パソコン本体裏面の、型番が記載してあるラベルにDC電源の仕様が記載されています。ラベルの「定格電圧」「定格電流」と同じ数値が記載されている、同梱のACアダプタをご使用ください。

# 2 キーボード

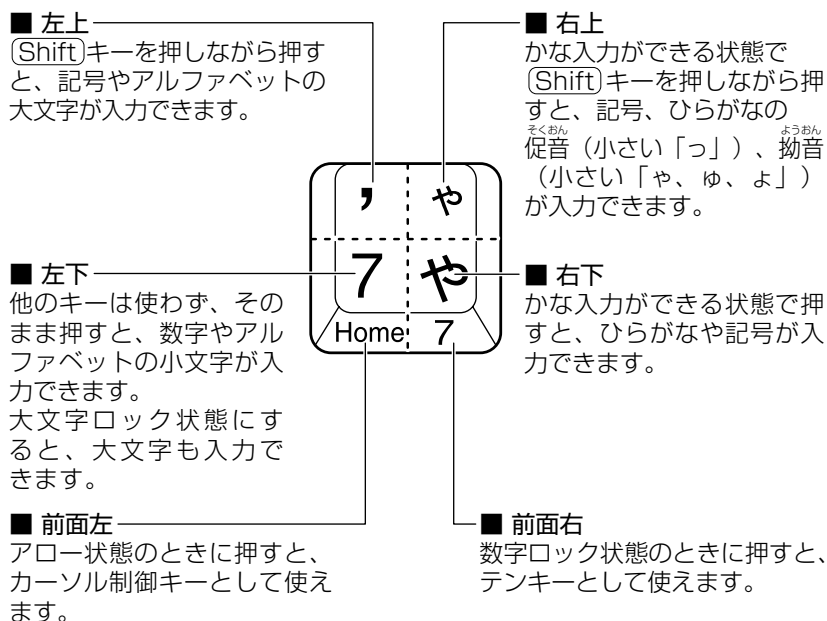
ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。

## ① キーボード図

＊ モデルによっては、キーボードのマーク（アイコン）や文字のサイズが異なるものがあります。

Arrow Mode(アローモード)LED
文字入力のアロー状態を示す
Numeric Mode(ニューメリックモード)LED
文字入力の数字ロック状態を示す
PrtSc(プリントスクリーン)
<SysRq(システムリクエスト)>キー
Pause(ポーズ)<Break(ブレーク)>キー
Ins(インサート)キー
文字の入力モードを挿入／上書きに
切り替えるときなどに使う
Del(デリート)キー
文字を削除するときなどに使う
BackSpace
(バックスペース)キー
Enter(エンター)キー
作業を実行するときなどに使う
オーバレイキー
Shift(シフト)キー
矢印キー
カーソル移動などに使う
また、[Fn（エフエヌ）] キー
との組み合わせにより、
特殊機能を実行するときに使う
Ctrl(コントロール)キー
アプリケーションキー
タッチパッド手前の右ボタンやマウスの右ボタンを
押すことと同じ動作を行いたいときに使う
Alt(オルト)キー
カタカナ／ひらがな<ローマ字>キー
変換キー

【 文字キー 】

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。
文字キーに印刷されている２～６種類の文字や記号は、キーボードの文字入力の状態によって変わります。

参照 アロー状態、数字ロック状態 「本節 ② -Fnキーを使った特殊機能キー」

## ② キーを使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。いくつかのキーを組み合わせて押すと、いろいろな操作が実行できます。

【 Fnキーを使った特殊機能キー 】

| キー | 内容 |
|---|---|
| Fn＋Esc<br>〈スピーカのミュート〉 | 内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にします。<br>元に戻すときは、もう１度Fn＋Escキーを押します。 |
| Fn＋Space<br>〈本体液晶ディスプレイの解像度切り替え〉 | Fnキーを押したまま、Spaceキーを押すたびに本体液晶ディスプレイの解像度を切り替えます。 |
| Fn＋F1<br>〈インスタントセキュリティ機能〉 | 画面右上にカギアイコンが表示された後、画面表示がオフになります。<br>解除するには、次の操作を行ってください。<br>① Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタッチパッドを操作する<br>② ユーザ名選択画面が表示されたら、ログオンするユーザ名をクリックする<br>③ Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面にWindowsのログオンパスワードを入力し、Enterキーを押す<br>パスワードによる保護を設定（［画面のプロパティ］の［スクリーンセーバー］タブで、［パスワードによる保護］または［再開時にようこそ画面に戻る］をチェック）しておくと、セキュリティを強化できます。 |
| Fn＋F2<br>〈省電力モードの設定〉 | Fn＋F2キーを押すと、設定されている「東芝省電力」の省電力プロファイルが表示されます。<br>Fnキーを押したまま、F2キーを押すたびに省電力プロファイルが切り替わります。 |

| キー | 内容 |
|---|---|
| Fn+F3<br>〈スタンバイ機能の実行〉 | Fn+F3キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックするとスタンバイ機能が実行されます。*1 |
| Fn+F4<br>〈休止状態の実行〉 | Fn+F4キーを押し、表示される画面で［はい］ボタンをクリックすると休止状態が実行されます。*1 |
| Fn+F5<br>〈表示装置の切り替え〉 | 表示装置を切り替えます。<br>参照 詳細について「5章5 パソコンの画面をテレビに映す」 |
| Fn+F6<br>〈本体液晶ディスプレイの輝度を下げる〉 | Fnキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。 |
| Fn+F7<br>〈本体液晶ディスプレイの輝度を上げる〉 | Fnキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。 |
| Fn+F8<br>〈無線通信機能を切り替える〉 | ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、Fnキーを押したまま、F8キーを押すたびに使用する無線通信機能の有効／無効を切り替えます。<br>＊ 本機能はサポートしておりません。 |
| Fn+F9<br>〈タッチパッド オン／オフ機能〉 | タッチパッドからの入力を無効にできます。再び有効にするには、もう1度Fn+F9キーを押します。<br>参照 「本章3-② タッチパッドをもっと使いやすくしよう」 |
| Fn+F10<br>〈オーバレイ機能〉 | キー前面左に印刷された、カーソル制御キーとして使用できます（アロー状態）。アロー状態を解除するには、もう1度Fn+F10キーを押します。<br>Arrow Mode LEDが点灯します。 |
| Fn+F11<br>〈オーバレイ機能〉 | キー前面右に印刷された、数字などの文字を入力できます（数字ロック状態）。数字ロック状態を解除するには、もう1度Fn+F11キーを押します。アプリケーションによっては異なる場合があります。<br>Numeric Mode LEDが点灯します。 |
| Fn+F12<br>〈スクロールロック状態〉 | 一部のアプリケーションで、↑↓←→キーを画面スクロールとして使用できます。ロック状態を解除するには、もう1度Fn+F12キーを押します。 |
| Fn+↑<br>〈PgUp（ページアップ）〉 | 一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、↑キーを押すと、前のページに移動できます。 |
| Fn+↓<br>〈PgDn（ページダウン）〉 | 一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、↓キーを押すと、次のページに移動できます。 |
| Fn+←<br>〈Home（ホーム）〉 | 一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、←キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。 |
| Fn+→<br>〈End（エンド）〉 | 一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、→キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。 |
| Fn+1<br>〈縮小〉 | デスクトップや一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、1キーを押すと、画面やアイコンなどが縮小されます。 |
| Fn+2<br>〈拡大〉 | デスクトップや一般的なアプリケーションで、Fnキーを押したまま、2キーを押すと、画面やアイコンなどが拡大されます。 |

＊1 表示される画面で［今後、このメッセージを表示しない。］をチェックすると、次回以降メッセージ画面は表示されません。

## 役立つ操作集

### 「TOSHIBA Smooth View」

「TOSHIBA Smooth View」は、キーボードを使って、最前面に表示されているアプリケーションの画面やデスクトップ上のアイコンを拡大／縮小表示できるアプリケーションです。
ご購入時の状態では、「TOSHIBA Smooth View」は自動的に起動し、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。終了した場合、もう 1 度起動するには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Smooth View］をクリックしてください。

### 「Fn-esse」

「Fn-esse」は、Fnキーと特定のキーを押すと、簡単にアプリケーションを起動できるアプリケーションです。あらかじめ特定のキーと起動するアプリケーションの設定が必要です。
起動するには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Fn-esse］をクリックしてください。

【 Windowsキーを使ったショートカットキー 】

| キー | 操作 |
|---|---|
| Windows+R | ［ファイル名を指定して実行］画面を表示する |
| Windows+M | すべての画面を最小化する |
| Shift+Windows+M | Windows+Mで最小化したすべての画面を元に戻す |
| Windows+F1 | 『ヘルプとサポート センター』を起動する |
| Windows+E | ［マイコンピュータ］画面を表示する |
| Windows+F | ファイルまたはフォルダを検索する |
| Ctrl+Windows+F | 他のコンピュータを検索する |
| Windows+Tab | タスクバーのボタンを順番に切り替える |
| Windows+Break | ［システムのプロパティ］画面を表示する |

【 特殊機能キー 】

| 特殊機能 | キー | 操作 |
|---|---|---|
| タスクマネージャの起動 | Ctrl+Alt+Del | ［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。<br>アプリケーションやシステムの強制終了を行います。 |
| 画面コピー | PrtSc | 現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。 |
| | Alt+PrtSc | 現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。 |

## ③ キーシフトインジケータの切り替え

キーシフトインジケータは、どんな文字が入力できる状態かを示します。
各インジケータの役割と切り替え方法は、次の表のようになっています。それぞれの状態がオンになっているとき、LEDが点灯します。

【 キーシフトインジケータ 】

| LED | 切り替えキー | 文字入力の状態 |
|---|---|---|
| Caps Lock LED | Shift＋CapsLock 英数 | **大文字ロック状態**<br>文字キーで英字の大文字が入力できます。 |
| Arrow Mode LED | Fn＋F10 | **アロー状態**<br>オーバレイキーで、キーの前面左側に印刷されたカーソル制御ができます。 |
| Numeric Mode LED | Fn＋F11 | **数字ロック状態**<br>オーバレイキーで、キーの前面右側に印刷された数字などの文字が入力できます。 |

それぞれの文字入力状態を解除するには、切り替えキーをもう 1 度押して LED を消灯します。
すべてのキーを大文字ロック状態で使用する場合は、アロー状態と数字ロック状態は解除してください。

## ④ 日本語を入力するには

本製品には、日本語入力システム Microsoft IME が搭載されています。
日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。

起動したときは、英数字の入力ができるようになっています。半／全キーを押すと、日本語を入力できるようになります。

日本語入力に切り替わると、Microsoft IME ツールバーは次のように表示されます。

（表示例）

### 入力モード

ローマ字入力が既定値になっています。
ローマ字入力とかな入力はAlt＋カタカナ／ひらがなキーを押すと切り替えられます。
または、次の方法で設定することもできます。
①ツールバーの［ツール］アイコン（ ）をクリックして表示されたメニューから［プロパティ］をクリックする
②［全般］タブで［ローマ字入力／かな入力］の設定をする

### 漢字変換

入力した文字を漢字変換するには、Spaceキーを押します。
目的の漢字ではない場合は、もう 1 度Spaceキーを押すと、候補の一覧が表示されます。
↑↓キーで選択し、Enterキーを押します。

### ヘルプの起動方法

**1** **［ヘルプ］ボタン（ ）をクリック→［Microsoft(R)IME スタンダード］→［目次とキーワード］をクリックする**

3章 パソコンの基本操作を覚えよう

# ポインタを動かす／ファイルを開く

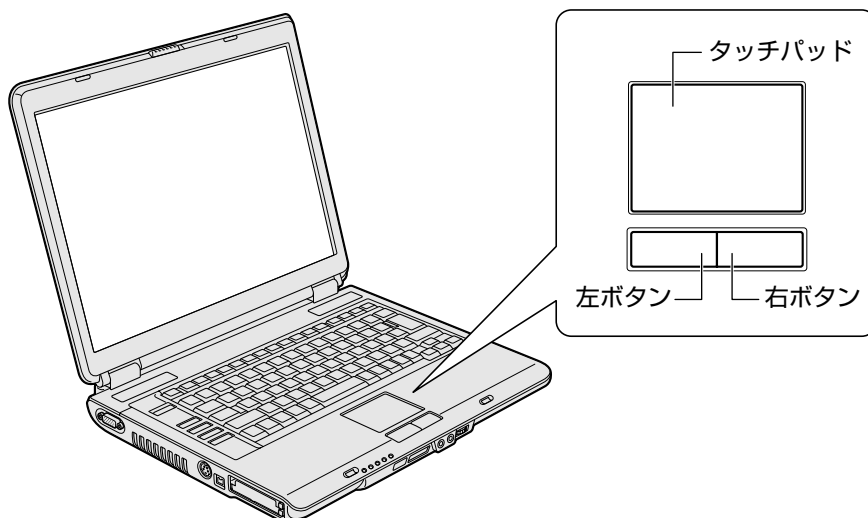
**― タッチパッド ―**

## ① タッチパッドで操作する

電源を入れて Windows を起動すると、パソコンのディスプレイに が表示されます。この矢印を「ポインタ」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインタ」を動かしながらパソコンを操作していきます。
パソコン本体には、「ポインタ」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインタを動かし、パソコンを操作してみましょう。

**お願い** 操作にあたって

- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。

## ② タッチパッドをもっと使いやすくしよう

タッチパッドやポインタの設定は、［マウスのプロパティ］で行います。

### 1 この画面で設定する

**1** ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

**2** ［ プリンタとその他のハードウェア］をクリックする

**3** ［ マウス］をクリックする

［マウスのプロパティ］画面が表示されます。

**4** 各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをクリックする

各機能の設定については、ヘルプを参照してください。
［キャンセル］ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

### ヘルプの起動方法

**1** ［マウスのプロパティ］画面を起動後、画面右上の ? をクリックする

ポインタが に変わります。

**2** 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

### 役立つ操作集

タッチパッドを無効／有効にするには

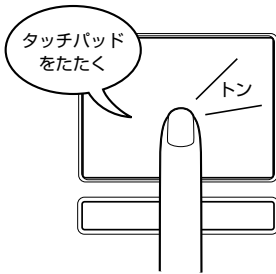
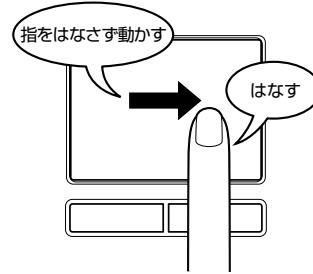
［デバイス設定］タブの［無効］ボタンをクリックすると、タッチパッドからの操作ができなくなります。［有効］ボタンをクリックすると、タッチパッドが使用可能になります。

タッチパッドの無効／有効は、(Fn)＋(F9)キーでも切り替えることができます。

## ③ タッピング機能

タッチパッドを指で軽くたたくことをタッピングといいます。
タッピング機能を使うと、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

### 1 タッピングの方法

【 クリック / ダブルクリック 】
タッチパッドを 1 回軽くたたくとクリック、
2 回たたくとダブルクリックができます。

【 ドラッグアンドドロップ 】
タッチパッドを続けて 2 回たたき、
2 回目はタッチパッドから指をはなさずに目的の位置まで移動し、
指をはなします。

### 役立つ操作集

PadTouch 機能を使う

本製品には、「PadTouch（パッドタッチ）」が搭載されています。「PadTouch」は、タッチパッドの操作により、画面に表示された「テーブル」を使ってさまざまな機能を簡単に実行できるアプリケーションです。次のようなときに使用すると便利です。

- ウィンドウでデスクトップが隠れているときに、デスクトップ上のファイルを開きたい
- Internet Explorer の［お気に入り］に登録されているホームページを開きたい
- 現在実行中のウィンドウの一覧を表示して、アクティブなウィンドウを切り替えたい

「PadTouch」は、パソコンに電源を入れると自動的に起動し、通知領域にアイコン（ ）が表示されます。
購入時の状態では、無効に設定されています。有効に設定するには、通知領域のアイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから［有効にする］をクリックします。
詳しい操作方法については「PadTouch」のヘルプを参照してください。
ヘルプを起動するには、通知領域の［PadTouch］アイコンを右クリックし、表示されたメニューから［ヘルプ］をクリックします。

# CD や DVD を使う

**－ ドライブ －**

本製品には、DVD スーパーマルチドライブが 1 台内蔵されています。
ドライブには次のマークが入っています。

＊ マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R＊1、DVD+RW、DVD+R＊2、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。

＊1 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL（Dual Layer DVD-R）を含みます。
＊2 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL（DVD+R Double Layer）を含みます。

『安心してお使いいただくために』に、CD ／ DVD を使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD ／ DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

**お願い** DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD 再生」プロファイルに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- Region（リージョン）コードは 4 回まで変更できますが、通常は出荷時のままご利用ください。出荷時の状態では、Region コードが「2」に設定されておりますので、Region コードが「2」または「ALL」の DVD-Video をご使用ください。

## ① 使えるメディアを確認しよう

使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。

○：使用できる　×：使用できない

| | 読み出し | 書き込み回数 |
|---|---|---|
| CD-R | ○ | 1 回 |
| CD-RW | ○ | 繰り返し書き換え可能＊1 |
| DVD-R＊3 | ○＊2 | 1 回 |
| DVD-RW | ○ | 繰り返し書き換え可能＊1 |
| DVD+R | ○＊2 | 1 回 |
| DVD+RW | ○ | 繰り返し書き換え可能＊1 |
| DVD-RAM | ○ | 繰り返し書き換え可能＊1 |

＊1 実際に書き換えできる回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。
＊2 メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。
＊3 DVD-R DL の場合、追記データの書き込み／読み出しはできません。

**メモ** 書き込みできるアプリケーション

- 書き込みに使用できる、本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。
  - TOSHIBA（トウシバ） Disc（ディスク） Creator（クリエイタ）

参照 「7 章 1-① TOSHIBA Disc Creator」

  - TOSHIBA（トウシバ） Direct（ダイレクト） Disc（ディスク） Writer（ライタ）

参照 「7 章 1-② TOSHIBA Direct Disc Writer」

- メディアにデータを書き込むとき、メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

## ② 使えるCDを確認しよう

【 読み出しできるCD 】
対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- 音楽用CD
  8cmまたは12cmの音楽用CDが聴けます。
- フォトCD
  普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
  使用するシステムに適合するISO 9660フォーマットのものが使用できます。
- CDエクストラ
  記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

【 書き込みできるCD 】

- CD-R
  書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- CD-RW

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

CD-Rメディア：最大24倍速

最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応したCD-Rメディアを使用してください。
マルチスピードCD-RWメディア ： 最大4倍速
High-Speed CD-RWメディア ： 最大10倍速
Ultra Speed CD-RWメディア ： 最大16倍速

Ultra Speed+CD-RWメディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

### お願い　CD-RW、CD-Rについて／CD-RW、CD-Rの使用推奨メーカ

- CD-RW、CD-Rに書き込む際には、次のメーカのメディアを使用することを推奨します。
  CD-RW（マルチスピード、High-Speed）
  ：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
  CD-RW（Ultra-Speed）
  ：三菱化学メディア（株）
  CD-R ：太陽誘電（株）、三菱化学メディア（株）、（株）リコー
  これらのメーカ以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- CD-Rに書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずCD-RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
  「TOSHIBA Direct Disc Writer」でCD-RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- CD-RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照　エラーチェックの方法 「9章 3 Q&A集 その他-Q セーフモードで起動した」

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

## ③ 使えるDVDを確認しよう

**お願い**　DVDの書き込み速度

- 本製品のドライブでは、次のメディアを使用できます。
  ・書き込み8倍速までのDVD-R／DVD+Rメディア
  ・書き込み4倍速までのDVD-R DL、DVD+R DLメディア
  ・書き換え6倍速までのDVD-RWメディア
  ・書き換え8倍速までのDVD+RWメディア
  ・書き換え5倍速までのDVD-RAMメディア
  これらより速い書き込み倍速に対応したメディアを使用することはできません。

【 読み出しできるDVD 】
対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- DVD-ROM
- DVD-Video（映像再生用です。映画などが収録されています。）
- DVD-R、DVD-R DL（format1）
- DVD+R、DVD+R DL
- DVD-RW
- DVD+RW
- DVD-RAM（2.6GB、5.2GBのDVD-RAMは除きます。）

【 書き込みできるDVD 】

- DVD-R
  書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。DVD-Rは、DVD-R for General Ver2.0規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-R DL
  DVD-R DLは、DVD-Rの記録層を2つにして、片面に2層分の記録が可能な規格のことです。
  既存の1層のDVD-Rメディアの記録容量4.7GBの約1.8倍となる、8.5GB分の記録容量を実現します。例えば、MPEG2の4Mbpsの映像データで、1層のDVD-Rメディアの時が約2時間分ならDVD-R DLは約3.6時間分の記録が可能になります。
  ただし、Format1対応のため追記ができません。1層のDVD-Rメディアに収まる容量のデータを保存する場合は、追記できる1層のDVD-Rを使用することをおすすめします。
- DVD-RW
  DVD-RWは、DVD-RW Ver1.1またはVer1.2規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD+R
  書き込みは1回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- DVD+R DL
  DVD+R DLとは、DVD+Rの記録層を2つにして、片面に2層分の記録が可能な規格のことです。
  既存の1層のDVD+Rメディアの記録容量4.7GBの約1.8倍となる、8.5GB分の記録容量を実現します。例えば、MPEG2の4Mbpsの映像データで、1層のDVD+Rメディアの時が約2時間分ならDVD+R DLは約3.6時間分の記録が可能になります。
- DVD+RW
- DVD-RAM（2.6GB、5.2GBのDVD-RAMは除きます。）
  DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0、Ver2.1、Ver2.2規格に準拠したメディアを使用してください。

【 DVD-RAMの種類 】
DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。
カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる　×：使用できない

| DVD-RAMの種類 | 本製品の対応 |
|---|---|
| カートリッジなし＊1 | ○ |
| カートリッジタイプ（取り出し不可） | × |
| カートリッジタイプ（取り出し可能）＊2 | ○ |

＊1　一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。
＊2　2.6GB、5.2GBのディスクは書き込みできません。

## お願い　DVDについて ／DVDの使用推奨メーカ

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカのメディアを使用することを推奨します。

  DVD-RAM　：日立マクセル（株）、松下電器産業（株）
  DVD-RW　：日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
  DVD-R　　：松下電器産業（株）、太陽誘電（株）、日立マクセル（株）
  DVD-R DL：三菱化学メディア（株）
  DVD+RW　：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
  DVD+R　　：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
  DVD+R DL：三菱化学メディア（株）

  これらのメーカ以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「TOSHIBA Disc Creator」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。
  「TOSHIBA Direct Disc Writer」でDVD-RW、DVD+RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域なども必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法 「9章 3 Q&A集 その他-Q セーフモードで起動した」

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。

## メモ

- 市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。
  一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。
- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できないこともあります。また、作成したDVD+R DLメディア、DVD-R DLメディアを再生するときは、それぞれのメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

## ④ CD／DVDのセットと取り出し

CD／DVDのセットと取り出しについて説明します。
CD／DVDは、パソコン本体に装備されているドライブにセットして使用します。
同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に、CD／DVDを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
操作を始める前にその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

**お願い**　操作にあたって

- ディスクトレイ内のレンズおよびその周辺に触れないでください。ドライブの故障の原因になります。
- ディスクトレイLEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD／DVDを取り出す操作をしないでください。CD／DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- 電源が入っているときには、イジェクトホールを押さないでください。回転中のCD／DVDのデータやドライブが壊れるおそれがあります。

参照　イジェクトホールについて 「本項 2- ディスクトレイが出てこない場合」

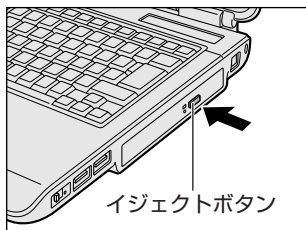
- ドライブのトレイを開けたときに、CD／DVDが回転している場合には、停止するまでCD／DVDに手を触れないでください。ケガのおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD／DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。
- CD／DVDをディスクトレイにセットするときは、無理な力をかけないでください。
- CD／DVDを正しくディスクトレイにセットしないとCD／DVDを傷つけることがあります。

**メモ**　チェック

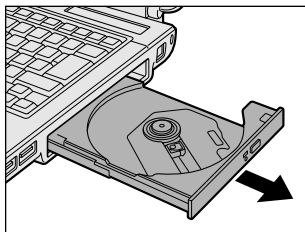
- 傷ついたり汚れのひどいCD／DVDの場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- CD／DVDの特性やCD／DVDへの書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。

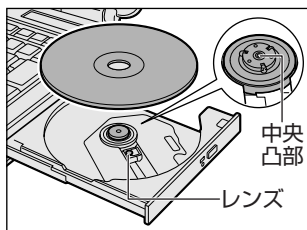
### 1　CD／DVDのセット

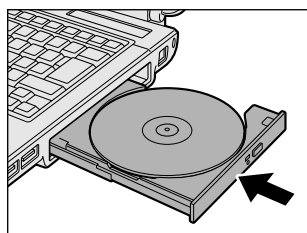
**1　パソコン本体の電源を入れる**

**2　イジェクトボタンを押す**

イジェクトボタンを押したら、ボタンから手をはなしてください。ディスクトレイが少し出てきます（数秒かかることがあります）。

※ 搭載されているドライブによってイジェクトボタンの位置は異なります。

**3　ディスクトレイを引き出す**

CD／DVDをのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

**4** 文字が書いてある面を上にして、CD ／ DVD の穴の部分をディスクトレイの中央凸部に合わせ、上から押さえてセットする

「カチッ」と音がして、セットされていることを確認してください。

**5** 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

## 2 CD ／ DVD の取り出し

**1** パソコン本体の電源が入っているか確認する

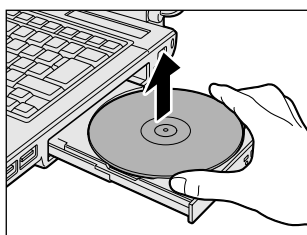
電源が入っていない場合は電源を入れてください。

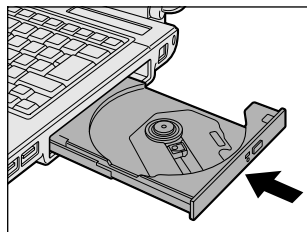
**2** イジェクトボタンを押す

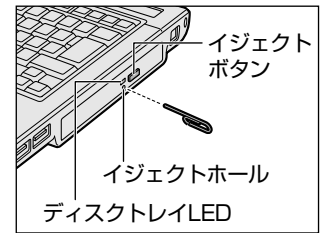
ディスクトレイが少し出てきます。

**3** ディスクトレイを引き出す

CD ／ DVD をのせるトレイがすべて出るまで、引き出します。

**4** CD ／ DVD の両端をそっと持ち、上に持ち上げて取り出す

CD ／ DVD を取り出しにくいときは、中央凸部を少し押してください。簡単に取り出せるようになります。

**5** 「カチッ」と音がするまで、ディスクトレイを押し戻す

【 ディスクトレイが出てこない場合 】
電源を切っているときは、イジェクトボタンを押してもディスクトレイは出てきません。
電源が入らない場合は、イジェクトホールを、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）で押してください。
次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンを押した後すぐにディスクトレイは出てきません。ディスクトレイ LED の点滅が終了したことを確認してから、イジェクトボタンを押してください。

- 電源を入れた直後
- ディスクトレイを閉じた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係の LED が点灯しているとき

※ 搭載されているドライブによってイジェクトボタン、イジェクトホール、ディスクトレイ LED の位置は異なります。



## ⑤ DVD-RAM を使うときは

ここでは、DVD-RAM に書き込みをする前に必要な操作について説明します。

### 1 フォーマットとは

新品の DVD-RAM は、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。
フォーマットとは、DVD-RAM にデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAM を使えるようにすることです。
フォーマットされていない DVD-RAM は、フォーマットしてから使用してください。ここでは、ファイルシステムとフォーマット方法について簡単に説明します。詳細は PDF マニュアルを確認してください。

参照 「本項 2- PDF マニュアルを見る方法」

**お願い** フォーマットを行うにあたって

- フォーマットを行うと、その DVD-RAM に保存されていた情報はすべて消去されます。一度使用した DVD-RAM をフォーマットする場合は注意してください。

#### ファイルシステム

DVD-RAM をフォーマットするときにファイルシステムを選択します。
ファイルシステムは、書き込むデータの種類や書き込み後のメディアを使用する機器に応じて選択します。また、映像データを書き込むときは、書き込み用のアプリケーションによって指定されている場合があります。
選択できるファイルシステムは「UDF2.0」「UDF1.5」「FAT32」です。

【 UDF2.0 】
-VR フォーマットに対応したファイルシステムです。
家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性があります。

【 UDF1.5 】
本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出しできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP＊1／2000＊2 がインストールされたパソコン＊3 でもデータを読み出すことができます。
家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

【 FAT32 】
本製品で使用しているシステムの標準の機能で読み出し／書き込みできるファイルシステムです。このファイルシステムのメディアは、本製品以外の Windows XP＊1／Me＊4／98 SE＊5 がインストールされたパソコン＊3 でもデータを読み出すことができます。
家庭用 DVD ビデオレコーダとの互換性はありません。

＊1　Windows XP.......... Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition 2005 operating system 日本語版、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版、または Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版
＊2　Windows 2000 .... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
＊3　DVD-RAM ドライブが搭載されていないパソコンで DVD-RAM を読み出すためには、DVD-RAM の読み出しに対応した DVD ドライブが搭載されている必要があります。
＊4　Windows Me ......... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
＊5　Windows 98 SE ... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版

## 2 フォーマット方法

Windowsでのフォーマット方法を簡単に説明します。

**1 フォーマットするDVD-RAMをセットする**

参照 DVD-RAMのセット「本節 ④-1 CD／DVDのセット」

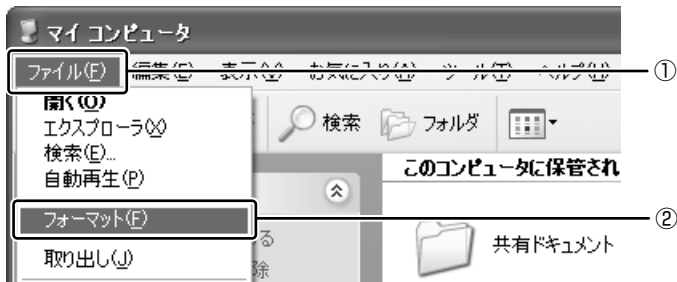
**2 ［スタート］→［マイ コンピュータ］をクリックする**

［マイ コンピュータ］画面が表示されます。

**3 ［ DVD-RAMドライブ］をクリックする**

［DVD-RAMドライブ］が選択され、アイコンの色が反転します。

**4 メニューバーの［ファイル］をクリックし①、表示されたメニューから［フォーマット］をクリックする②**

アイコンを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。

［DVDForm］画面が表示されます。

**5 ［ドライブ］と［フォーマット種別］を選択する**

映像を書き込み、家庭用DVDビデオレコーダで再生するためのDVD-RAMを作成する場合は、［ユニバーサルディスクフォーマット（UDF2.0)］を選択してください。
パソコンで使用するためのDVD-RAMを作成する場合は、［ユニバーサルディスクフォーマット（UDF1.5)］を選択してください。

**6 ボリュームラベル名を入力する**

UDF形式を選択した場合は、必ず入力してください。

**7 ［開始］ボタンをクリックする**

物理フォーマットを行う場合は、［物理フォーマットを実行する］をチェックしてから、［開始］ボタンをクリックしてください。
物理フォーマットを行うと、DVD-RAM上の全セクタを検査し、不良セクタの代替処理を行います（通常は行う必要はありません)。物理フォーマットを行う場合は、フォーマットが完了するまでに時間がかかります。

メッセージが表示されます。

**8 メッセージの内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする**

フォーマットが開始されます。

画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

**9 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする**

これで、フォーマットは完了です。
他のDVD-RAMも続けてフォーマットする場合は、DVD-RAMを入れ替えて、手順5から実行します。
フォーマットを終了する場合は、［DVDForm］画面で［閉じる］ボタンをクリックしてください。

## PDFマニュアルを見る方法

**1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［DVD-RAM］→［DVD-RAMドライバー］→［DVD-RAMディスクの使い方］をクリックする**

「Adobe Reader」が起動し、PDFマニュアルが表示されます。

# 画面を見やすく調整する

**－ ディスプレイ －**

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイ（1280×800ドット）を内蔵しています。ドットは画素数を表します。
テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 テレビの接続について 「5章5 パソコンの画面をテレビに映す」

参照 外部ディスプレイの接続について 「5章6 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す」

### 表示について

TFTカラー液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの画素（ドット）が存在することがあります（有効ドット数の割合は99.99%以上です。有効ドット数の割合とは、「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」です）。また、見る角度や温度変化によって色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

## ① 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。
購入時の設定では、「東芝省電力」で、ACアダプタ接続時は「8」（最高輝度）に、バッテリ駆動時はバッテリの残容量に応じて「4」から「2」に変化するように設定されています。
明るさを変えたい場合は、次の方法でお好みの明るさに調整してください。

**【 輝度の調整方法 】**

Fn+F6 ： Fnキーを押したまま、F6キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ下がります。
表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。

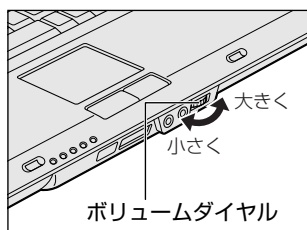
Fn+F7 ： Fnキーを押したまま、F7キーを押すたびに本体液晶ディスプレイの輝度が1段階ずつ上がります。
表示される画面のアイコンで輝度の状態を確認できます。

# 6 サウンド機能

本製品はサウンド機能を内蔵し、スピーカがついています。

## ① スピーカの音量を調整する

標準で音声、サウンド関係のアプリケーションがインストールされています。
スピーカの音量は、ボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調整できます。

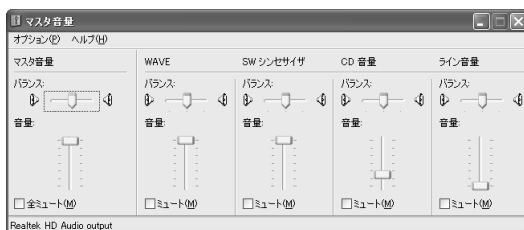
### 1 ボリュームダイヤルで調整する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。

### 2 ボリュームコントロールで調整する

再生したいファイルごとに音量を調整したい場合、次の方法で調整できます。

**1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする**

**2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調整する**

（表示例）

つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。［ミュート］をチェックすると消音（ミュート）となります。

詳しくは『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

【 音楽／音声を再生するとき 】
ボリュームコントロールの各項目では次の音量が調整できます。

| | |
|---|---|
| マスタ音量 | 全体の音量を調整する |
| WAVE | MP3 ファイル、Wave ファイル、音楽 CD（Windows Media Player の場合）、DVD-Video など |
| CD 音量 | 音楽 CD（Windows Media Player 以外の場合） |

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『ボリュームコントロールのヘルプ』を確認してください。

## ② 音楽／音声の録音レベルを調整する

録音レベルの調整は、次のように行います。

### 1 パソコン上で録音するとき

**1** **［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする**

**2** **メニューバーの［オプション］→［プロパティ］をクリックする**

**3** **［ミキサーデバイス］で［Realtek HD Audio input］を選択する**

**4** **［表示するコントロール］で表示項目を確認する**

［マイクボリューム］がチェックされていることを確認します。

**5** **［OK］ボタンをクリックする**

**6** **［録音コントロール］画面で、使用するデバイスの［選択］をチェックする**

［マイクボリューム］：マイクから録音するとき

**7** **選択したデバイスのつまみで音量を調節する**

同時に２つのデバイスを選択することはできません。
録音したい音楽／音声がボリュームコントロールの［WAVE］対応の場合、録音するときも［WAVE］の音量により影響を受けます。

## ③ 音質を調整する

「TOSHIBA Virtual Sound」は、SRS社のSRS WOW HD（エスアールエス・ワウ・エイチディ）やSRS TruSurround XT（エスアールエス・トゥルーサラウンド・エックスティ）技術、Circle Surround Xtract（サークル・サラウンド・エクストラクト）技術を使い、音楽や音声を聴く環境にあわせて、サウンドの音質を調整するユーティリティです。SRS WOW HDやSRS TruSrround XT技術、Circle Surround Xtract技術の音響強化機能を利用して、お好みの音質でサウンドをお楽しみいただけます。

### 1 起動

**1** **［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Virtual Sound］をクリックする**

「TOSHIBA Virtual Sound」が起動します。

［詳細設定を開く］ボタンをクリックすると、さらに詳細な調節を行うことができます。

機能や操作の詳細は「TOSHIBA Virtual Sound」のヘルプを確認してください。

### 2 ヘルプの起動

**1** **「TOSHIBA Virtual Sound」を起動後、［ヘルプ］ボタンをクリックする**

# いろいろなメディアカードを使う

**－ ブリッジメディアスロット －**

本製品では次のメディアをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SD メモリカード
- メモリースティック PRO
- メモリースティック
- xD- ピクチャーカード
- マルチメディアカード

## ① SD メモリカードを使う前に

**お願い**　SD メモリカードの使用にあたって

- 本製品は、2GB までの SD メモリカードを使用できます。
- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべての SD メモリカードの動作保証はできません。
- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

新品の SD メモリカードは、SD メモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、SD メモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SD メモリカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、「東芝 SD メモリカードフォーマット」または SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。
「東芝 SD メモリカードフォーマット」については、「本項 - 東芝 SD メモリカードフォーマットを使ってフォーマットする」をご覧ください。

**お願い**

- Windows 上（[マイコンピュータ] 画面）で SD メモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤなど他の機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、その SD メモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1 度使用した SD メモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

### 東芝 SD メモリカードフォーマットを使ってフォーマットする

「東芝 SD メモリカードフォーマット」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントのみ使用できます。

**お願い**

- 「東芝 SD メモリカードフォーマット」以外の、SD メモリカードを使用するアプリケーションはあらかじめ終了させてください。

**1** **SDメモリカードをセットする**

**2** **［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［SDメモリカードフォーマット］をクリックする**

**3** **［ドライブ］で、SDメモリカードのドライブを選択し、必要に応じて［フォーマットオプション］でフォーマットの種類を設定する**

- 簡易フォーマット
  ファイルの削除のみを行い、すべての領域の初期化は行われません。
- 完全フォーマット
  SDメモリカードのすべての領域を初期化します。簡易フォーマットに比べて、フォーマットに時間がかかります。

**4** **［スタート］ボタンをクリックする**

メッセージが表示されます。

**5** **メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする**

フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

**6** **［OK］ボタンをクリックする**

## ② メモリースティックを使う前に

本製品のブリッジメディアスロットでは、Memory Stick Specification V1.3準拠のメモリースティックを取り付けて使用できます。
使用できるメモリースティックの種類は次のとおりです。

- メモリースティック
- メモリースティックPRO

### お願い　メモリースティックの使用にあたって

- 本製品は、次の容量までのメモリースティックを使用できます。
  - ・メモリースティック　　：256MBまで
  - ・メモリースティックPRO ：2GBまで
- 本製品は、メモリースティックDuo、メモリースティックPRO Duoとメモリースティックアダプタには対応していません。
- 本製品は、著作権保護技術MagicGateには対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

新品のメモリースティックは、メモリースティックの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、メモリースティックにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メモリースティックを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、メモリースティックを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。
メモリースティックを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

## ③ xD-ピクチャーカードを使う前に

本製品のブリッジメディアスロットでは、xD-ピクチャーカードを取り付けて使用できます。

**お願い** xD-ピクチャーカードの使用にあたって

- 本製品は、1GBまでのxD-ピクチャーカードを使用できます。
- すべてのxD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのxD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

新品のxD-ピクチャーカードは、xD-ピクチャーカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、xD-ピクチャーカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、xD-ピクチャーカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、xD-ピクチャーカードを使用する機器（デジタルカメラなど）で行ってください。
xD-ピクチャーカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

## ④ マルチメディアカードを使う前に

本製品のブリッジメディアスロットでは、マルチメディアカードを取り付けて使用できます。

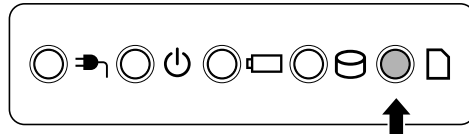
**お願い** マルチメディアカードの使用にあたって

- 本製品は、1GBまでのマルチメディアカードを使用できます。
- 本製品は、著作権保護機能付きのマルチメディアカードであるSecureMMCには対応していません。
- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

新品のマルチメディアカードは、マルチメディアカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、マルチメディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、マルチメディアカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、マルチメディアカードを使用する機器（デジタルカメラなど）で行ってください。
マルチメディアカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

# ⑤ メディアのセットと取り出し

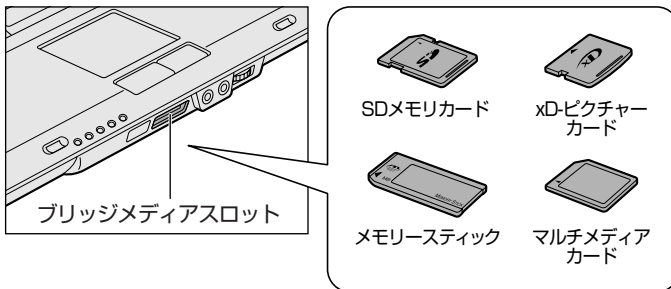
## ブリッジメディアスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアとデータをやり取りしているときは、ブリッジメディア ▯ LED が点灯します。

**お願い** 操作にあたって

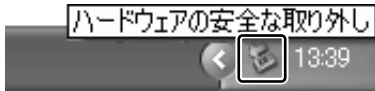
- ブリッジメディア ▯ LED が点灯中は、電源を切ったり、メディアを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアが壊れるおそれがあります。
- メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアが壊れるおそれがあります。
- スタンバイ中は、メディアを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアを取り出す場合は、必ず使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアが壊れるおそれがあります。

### 1 セットする

**1 メディアの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する**

奥まで挿入します。

## 2 取り出す

### 1 メディアの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする

② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずすメディア）- ドライブを安全に取り外します］をクリックする
XXXX 部分は、メディアの種類によって異なります。

SD メモリカード　　　　: SD Memory Card または Secure Digital Storage Drive
メモリースティック　　 : MemoryStick0 Device
メモリースティック PRO : MemoryStickPro0 Device
xD- ピクチャーカード　 : XD0 Device
マルチメディアカード　 : MMC1 Device

③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

メディアに保存しているファイルなどを開いていると、取りはずしができません。ファイルを閉じてから、操作をやり直してください。

### 2 メディアを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

## 3 セットしたメディアの内容を見る

著作権保護*[1] を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

＊1 SD メモリカード、メモリースティックの場合

### 1 ［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする

［マイコンピュータ］画面が表示されます。

### 2 メディアのアイコンをダブルクリックする

SD メモリカード　　　　: SD 記憶装置デバイス
メモリースティック　　 : Memory Stick
メモリースティック PRO : リムーバブル ディスクまたは Memory Stick PRO Card
xD- ピクチャーカード　 : リムーバブル ディスクまたは XD Picture Card
マルチメディアカード　 : リムーバブル ディスクまたは MMC Card

セットしたメディアの内容が表示されます。

# 8 ボタンを設定する

ボタンを使って、アプリケーションを起動したり、操作したりすることができます。
起動するアプリケーションは、「東芝コントロール」で自由に変更できます。

購入時に設定されているアプリケーションは次のとおりです。

- インターネットボタン
  「Internet Explorer」
- CD/DVD ボタン
  ドライブに DVD-Video がセットされている場合　：「InterVideo WinDVD」
  ドライブに DVD-Video 以外がセットされている場合 ：「Windows Media Player」

## 1 ボタンに割り当てるアプリケーションを変更する

各ボタンを押したときに起動するアプリケーションを設定することができます。

**1 ［コントロールパネル］を開き、［ プリンタとその他のハードウェア］をクリックする**

**2 ［ 東芝コントロール］をクリックする**

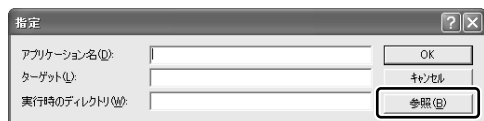
［東芝コントロールのプロパティ］画面が表示されます。

**3 ［ボタン］タブで設定を変更したいボタン名の右下の ボタンをクリックする**

ボタンに設定できる動作の一覧が表示されます。
購入時の状態で、CD/DVD ボタンは［CD/DVD］に設定されています。これは、ドライブにセットされているメディアをチェックして、「東芝コントロール」の［メディアアプリケーション］タブの、［CD オーディオコントロール］と［DVD ビデオコントロール］で設定されているアプリケーションを起動する設定です。
アプリケーションは、［メディアアプリケーション］タブで確認できます。

**4 ［アプリケーションの指定 ...］を選択する**

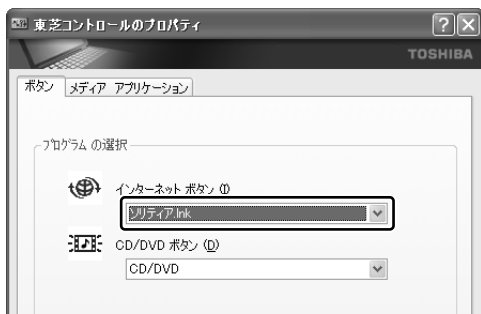
［指定］画面が表示されます。
このとき、他の項目を選択した場合は手順 8 に進んでください。

**5 ［参照］ボタンをクリックする**

［ファイルを開く］画面が表示されます。

**6** **ボタンに設定したいアプリケーション名をクリックし、［開く］ボタンをクリックする**

［指定］画面に戻ります。
［アプリケーション名］に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。

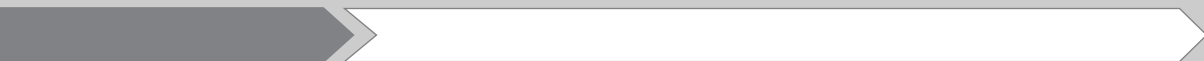
**7** **［OK］ボタンをクリックする**

［東芝コントロールのプロパティ］画面に戻ります。
割り当てたいボタンの欄に、選択したアプリケーション名が表示されていることを確認してください。

（表示例）

**8** **［OK］ボタンをクリックする**

# 4章

# ネットワークの世界へ

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。
ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときについて紹介します。

# インターネットへ接続する

インターネットにパソコンをつなぐと、ホームページを閲覧したり、オンラインショッピングやメールのやりとりができるようになります。
インターネットへの接続はADSLや光ファイバーなどを使った高速の「ブロードバンド接続」と一般の電話回線を使った低速の「ダイヤルアップ接続」などがあります。
接続に必要なネットワーク機器や設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。
コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。
本製品には、ウイルスチェックソフト「マカフィー・ウイルススキャン（McAfee VirusScan）／マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス（McAfee Personal Firewall Plus）」が用意されています。
「7章 3 マカフィー・ウイルススキャンによるウイルス対策」をお読みになり、必ずウイルスチェックソフトの設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

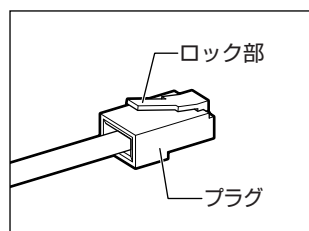
## ① ブロードバンドで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用するLAN（ラン）機能が内蔵されています。
本製品のLANコネクタとADSLモデムやケーブルモデムなどをLANケーブルで接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。
また、本製品のLAN機能は、Fast Ethernet（ファストイーサネット）（100BASE-TX）、Ethernet（イーサネット）（10BASE-T）に対応しています。LANコネクタにLANケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。Fast Ethernet、Ethernetは、ご使用のネットワーク環境（接続機器、ケーブル、ノイズなど）により、自動で切り替わります。

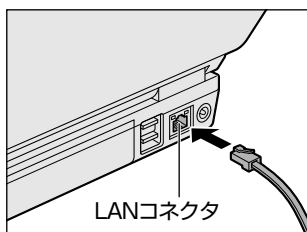
### 1 LANケーブルを接続する

**お願い** LANケーブルの使用にあたって

- LANケーブルは市販のものを使用してください。モジュラーケーブルは、アナログ電話回線専用です。LANコネクタには接続できません。
- LANケーブルをパソコン本体のLANコネクタに接続した状態で、LANケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LANコネクタが破損するおそれがあります。

LANインタフェースを100BASE-TX規格（100Mbps）で使用するときは、必ずカテゴリ5（CAT5）以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。
10BASE-T規格（10Mbps）で使用するときは、カテゴリ3（CAT3）以上のケーブルが使用できます。
カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、大きい数字ほど性能が高くなります。

LANケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。
また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

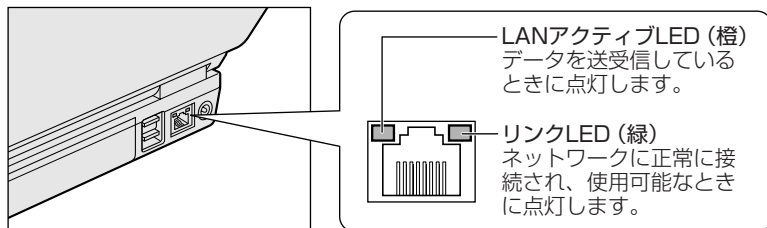
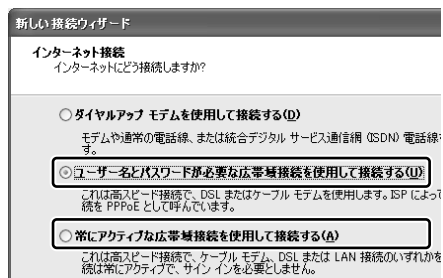
**1** パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

**2** LAN ケーブルのプラグをパソコン本体の LAN コネクタに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
LAN ケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、LAN ケーブルのほうが大きいです。ケーブルを接続するときは、LAN コネクタとプラグの大きさをよくご確認のうえ、接続してください。

**3** LAN ケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器の名称や以降の設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

### 動作状態を確認するには

LAN コネクタの両脇に、LAN インタフェースの動作状態を示す 2 つの LED があります。

## 2 ADSL接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダに ADSL 接続するための一般的な方法について説明します。
接続に必要な設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。
プロバイダから、接続に必要な CD-ROM などが支給されている場合は、そちらをご利用ください。
設定は「コンピュータの管理者アカウント」で行ってください。「制限付きアカウント」では作成できません。

**1** ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする

**2** ［ ネットワーク接続］をクリックする

**3** 画面左側の［ネットワークタスク］で［新しい接続を作成する］をクリックする

［新しい接続ウィザードの開始］画面が表示されます。

**4** ［次へ］ボタンをクリックする

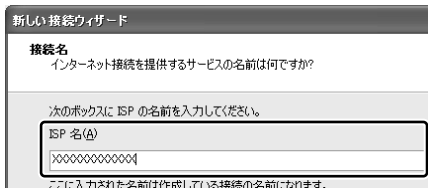
［ネットワーク接続の種類］画面が表示されます。

**5** ［インターネットに接続する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

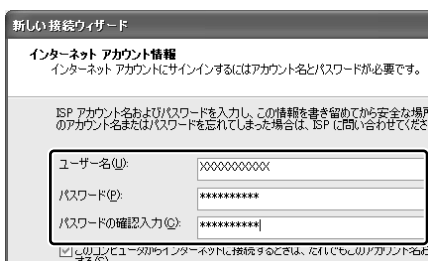
［準備］画面が表示されます。

**6** ［接続を手動でセットアップする］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする

［インターネット接続］画面が表示されます。

**7** **ご契約のタイプにあわせて項目を選択し、[次へ] ボタンをクリックする**

- インターネット接続にユーザー名やパスワードの入力が必要な場合：
  (例:フレッツ ADSL など)
  [ユーザー名とパスワードが必要な広帯域接続を使用して接続する]をチェックしてください。
- インターネット接続にユーザー名やパスワードの入力が不要の場合：
  (例:Yahoo! BB など)
  [常にアクティブな広帯域接続を使用して接続する] をチェックしてください。こちらを選択した場合、以降は表示される画面の指示に従ってください。

[接続名] 画面が表示されます。

**8** **[ISP名] に任意の名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックする**

[インターネットアカウント情報] 画面が表示されます。

**9** **[ユーザー名] にプロバイダのアカウント名、[パスワード] と [パスワードの確認入力] にパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする**

アカウント名、パスワードなどについては契約しているプロバイダに問い合わせください。
ここでパスワードの入力を行わなかった場合、インターネット接続時にパスワードの入力が必要になります。

[新しい接続ウィザードの完了] 画面が表示されます。

**10** **[完了] ボタンをクリックする**

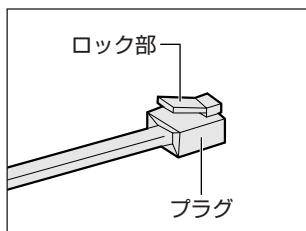
[XXXXX へ接続] 画面が表示されます。
インターネットへ接続する場合は [接続] ボタンをクリックし、接続しない場合は画面を閉じてください。

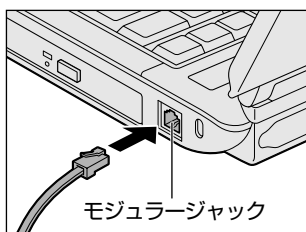
## ② ダイヤルアップで接続する

本製品の内蔵モデムを使って、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続することができます。内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90 に準拠しています。通信先のプロバイダが V.90 以外の場合は、最大 33.6kbps で接続されます。

**お願い** 内蔵モデムの使用にあたって

- モジュラーケーブルは市販のものを使用してください。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切りはなす構造のもの）を使用してください。

## 1 モジュラーケーブルを接続する

モジュラーケーブルをはずしたり差し込むときは、モジュラープラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックプラグのロック部を押しながらはずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

**1** **モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む**

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。
LAN ケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、モジュラーケーブルのほうが小さいです。ケーブルを接続するときは、プラグとモジュラージャックの大きさをよくご確認のうえ、接続してください。

**2** **もう一方のモジュラーケーブルのプラグを電話機用モジュラージャックに差し込む**

## 2 ダイヤルアップ接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダにダイヤルアップ接続するための方法について説明します。
設定は「コンピュータの管理者アカウント」で行ってください。「制限付きアカウント」では作成できません。
設定に必要なアカウント名、パスワード、アクセスポイントの電話番号などについては、契約しているプロバイダに問い合わせてください。

**1** **［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする**

**2** **［ ネットワーク接続］をクリックする**

**3** **画面左側の［ネットワークタスク］で［新しい接続を作成する］をクリックする**

［新しい接続ウィザードの開始］画面が表示されます。

**4** **［次へ］ボタンをクリックする**

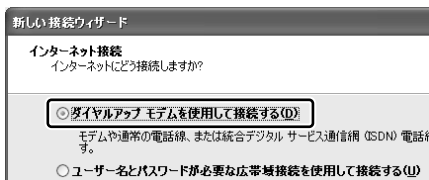
［ネットワーク接続の種類］画面が表示されます。

**5** **［インターネットに接続する］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックする**

［準備］画面が表示されます。

**6** **［接続を手動でセットアップする］ をチェックし、［次へ］ ボタンをクリックする**

［インターネット接続］画面が表示されます。

**7** **［ダイヤルアップモデムを使用して接続する］ をチェックし、［次へ］ ボタンをクリックする**

［接続名］画面が表示されます。

## 8 ［ISP 名］へ任意の名前を入力し、［次へ］ボタンをクリックする

［ダイヤルする電話番号］画面が表示されます。

## 9 ［電話番号］にプロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、［次へ］ ボタンをクリックする

電話番号などについては、契約しているプロバイダに問い合わせてください。

［インターネットアカウント情報］画面が表示されます。

## 10 ［ユーザー名］ にプロバイダのアカウント名、 ［パスワード］と［パスワードの確認入力］にパスワードを入力し、［次へ］ボタンをクリックする

アカウント名、パスワードなどについては契約しているプロバイダに問い合わせください。
ここでパスワードの入力を行わなかった場合、インターネット接続時にパスワードの入力が必要になります。

［新しい接続ウィザードの完了］画面が表示されます。

## 11 ［完了］ボタンをクリックする

［XXXXX へ接続］画面が表示されます。
インターネットへ接続する場合は［ダイヤル］ボタンをクリックし、接続しない場合は画面を閉じてください。

# 3 海外でインターネットに接続するときには

本製品の内蔵モデムで使用できる国／地域については、「付録 3 技術基準適合について」を参照してください。

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。
本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

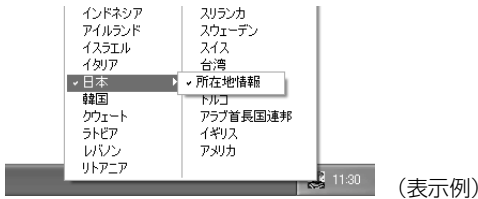
地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。
「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで起動してください。それ以外のユーザが起動しようとすると、エラーメッセージが表示され、起動できないことがあります。

## 設定方法

## 1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［Modem Region Select］をクリックする

［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）が通知領域に表示されます。

**2** **通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）をクリックする**

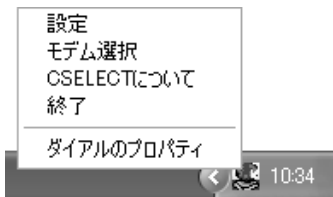
内蔵モデムがサポートする地域のリストが表示されます。
その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。
上の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
現在設定されている地域名と、サブメニューの所在地情報名にチェックマークがつきます。

（表示例）

**3** **使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする**

［地域名を選択した場合］
　［新しい場所設定作成］画面が表示されます。［OK］ボタンをクリックすると、［電話とモデムのオプション］画面が表示されて、新しく所在地情報を作成します。
　新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

［所在地情報名を選択した場合］
　その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。
　選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

## その他の設定

**1** **通知領域の［Internal Modem Region Select Utility］アイコン（ ）を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する**

**【 設定 】**
チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

| | |
|---|---|
| 自動起動モード | システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行なわれます。 |
| 地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する | 地域選択後、［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面が表示されます。 |
| 場所設定による地域選択 | ［電話とモデムのオプション］の所在地情報名が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報名から地域選択ができるようになります。 |
| モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示 | モデムの地域設定と、［電話とモデムのオプション］の現在の場所設定の地域コードが違っている場合にメッセージ画面を表示します。 |

**【 モデム選択 】**
COMポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

**【 ダイアルのプロパティ 】**
［電話とモデムのオプション］の［ダイヤル情報］画面を表示します。

## 役立つ操作集

ConfigFree

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。
詳細については、「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。
「ConfigFree」は、コンピュータの管理者のユーザアカウントで使用してください。

● ファーストユーザーズガイドの起動方法
① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree ファーストユーザーズガイド］をクリックする

● 「ConfigFree」の起動方法
購入時の状態では、Windowsを起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン（ ）が表示されています。
「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。
① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ネットワーク］→［ConfigFree］をクリックする

# 家庭内ネットワークで広がる世界

家族がそれぞれ別のパソコンでインターネットやプリンタを使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

## ① LAN 接続はこんなに便利

家族がそれぞれ自分専用のパソコンを持っていて、家庭内に複数のパソコンがあったり、ひとりで複数のパソコンを持っている場合には、LAN（Local Area Network）を使うと便利です。
パソコン同士をつないで LAN を構築すれば、USB フラッシュメモリなどのメディアを介さずにパソコン同士で直接データのやりとりができたり、インターネットやプリンタ、スキャナーなどの周辺機器を複数のパソコンで共有して、同時に使うことができます。
LAN 機能にはケーブルを使った有線 LAN と、ケーブルを使わない無線 LAN があります。
有線 LAN の機能や LAN ケーブルの接続については、「本章 1-① ブロードバンドで接続する」を参照してください。
ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

## ② ワイヤレス（無線）LAN を使う

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。
無線 LAN アクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

### 1 無線 LAN モジュールの確認

本書では、内蔵された無線 LAN モジュールの種類によって説明が異なる項目があります。
使用しているパソコンに合った説明をご覧ください。
使用しているパソコンに内蔵された無線 LAN モジュールの種類は、次の手順で確認できます。

**1 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をクリックする**

**2 表示されたメニューから［デバイス］→［設定を開く］をクリックする**

**3 ［デバイス設定］タブの［デバイスリスト］で［ワイヤレスネットワーク接続］アイコン（ ）を選択し、［詳細］でアダプタ名を確認する**

アダプタ名が示すモジュールは、それぞれ次のようになります。

- 「Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection」の場合
  IEEE802.11a、IEEE802.11b および IEEE802.11g に対応したモジュールです。
  このモジュールを、「Intel a/b/g モジュール」または「IEEE802.11abg モジュール」と呼びます。
- 「Atheros AR5006EG Wireless Network Adapter」の場合
  IEEE802.11b および IEEE802.11g に対応したモジュールです。
  このモジュールを、「Atheros b/g モジュール」または「Atheros IEEE802.11bg モジュール」と呼びます。

## 2 無線LANの概要

本製品の無線LANモデルには、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値54Mbps無線LAN対応（IEEE802.11a、IEEE802.11gの場合）*[1]
- 規格値11Mbps無線LAN対応（IEEE802.11bの場合）*[1]
- 周波数チャネル選択（2.4GHz帯／5GHz帯）
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- 暗号化方式（WEP、TKIP、AES）

＊1 表示の数値は、無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

【 無線LANの種類 】
無線LANは、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11gに準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11aは、屋外では使用できません。
- IEEE802.11a／IEEE802.11gでは「直交周波数分割多重方式」（Orthogonal Frequency Devision Multiplexing, OFDM）、IEEE802.11bでは「直接拡散方式」（Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS）を採用し、IEEE802.11に準拠する他社の無線LANシステムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance認定のWi-Fi（Wireless Fidelity）ロゴを取得しています。
  Wi-Fiロゴは、IEEE802.11に準拠する他社の無線LAN製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

### お願い 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

・通信内容を盗み見られる
　悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、
　　IDやパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報
　　メールの内容
　などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
・不正に侵入される
　悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、
　　個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
　　特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
　　傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
　　コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
　などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

### お願い セキュリティ機能

- セキュリティ機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。
  不正アクセスを防ぐために、ネットワーク名（SSID）の設定や、暗号化機能（WEP、WPA）を設定されることを強くおすすめします。
  また、お使いの無線LANアクセスポイントで、登録したMACアドレスのみ接続可能にする設定などの対策も有効です。
  公共の無線LANアクセスポイントなどで使用される場合は、「Windows セキュリティセンター」の「Windows ファイアウォール」やファイアウォール機能のあるウイルスチェックソフトを使用して、不正アクセスを防止してください。

**お願い** 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録4-5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録4-6 ご使用になれる国／地域について」を確認してください。

## 3 無線LANを使ってみよう

**⚠警告**

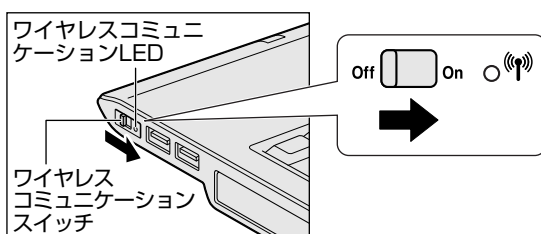
- **パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ること**
  ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

**お願い** 操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

ここでは、無線LANの一般的な設定方法について説明します（Windows XP Service Pack2が適用された環境の設定方法です）。

ウィザードから設定する場合は、「本項4 ウィザードから設定する」をご覧になり、設定を行ってください。

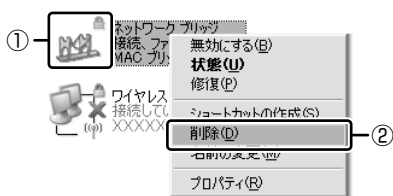
**1 本体右側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする**

ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。
無線LAN機能が起動します。
無線LAN機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。
利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

**2 ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックし、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする**

**3 ［ ネットワーク接続］をクリックする**

**4 ［ネットワーク接続］画面に［ネットワークブリッジ］アイコンがあるか確認する**

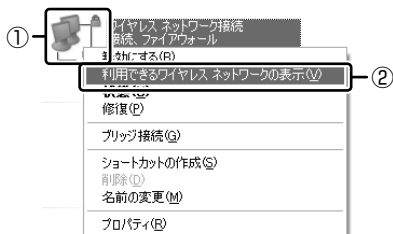
［ネットワークブリッジ］アイコンが表示されている場合は手順5へ、表示されていない場合は、手順7へ進んでください。

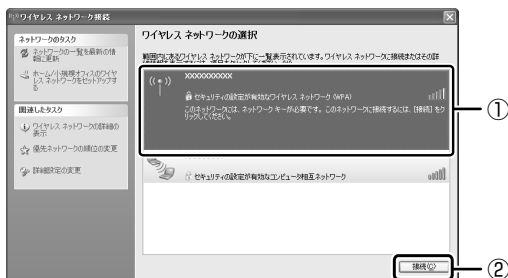
## 5 ［ネットワークブリッジ］アイコンを右クリックし①、表示されたメニューから［削除］をクリックする②

通常ネットワークブリッジは使用しませんが、設定を行っている場合は削除しないでください。ここでの手順は一般的な無線 LAN の設定方法になります。

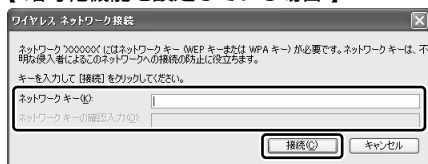
［接続の削除の確認］画面が表示されます。

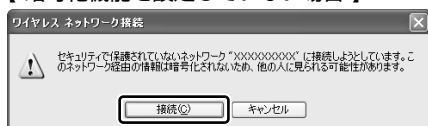
## 6 ［はい］ボタンをクリックする

削除には約 30 秒かかります。

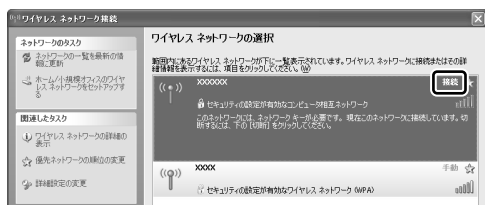
## 7 ［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンを右クリックし①、表示されたメニューから［利用できるワイヤレスネットワークの表示］をクリックする②

［ワイヤレスネットワーク接続］画面が表示されます。

## 8 ［ワイヤレスネットワークの選択］の使いたいネットワークを選択し①、［接続］ボタンをクリックする②

［ワイヤレスネットワークの設定］に使いたいネットワークが表示されない場合は、「本項 4 ウィザードから設定する」をご覧になり、設定を行ってください。

【 暗号化機能を設定している場合 】

「ネットワーク 'XXXXXX（接続するネットワーク名）' にはネットワークキー（WEP キーまたは WPA キー）が必要です・・・」のメッセージ画面が表示されます。
［ネットワークキー］と［ネットワークキーの確認入力］にキーを入力し、［接続］ボタンをクリックしてください。

【 暗号化機能を設定していない場合 】

「セキュリティで保護されていないネットワーク ' XXXXXX（接続するネットワーク名）' に接続しようとしています・・・」のメッセージ画面が表示されます。［接続］ボタンをクリックしてください。

参照 暗号化について 「本項 4 ウィザードから設定する」

正常に接続されるとネットワーク名の右側に「接続」または「接続済み」と表示されます。

**9** ［ワイヤレスネットワーク接続］画面を閉じる

**10** ［ネットワーク接続］画面で［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンをダブルクリックする

［ワイヤレスネットワーク接続の状態］画面が表示されます。

**11** ［サポート］タブで［IP アドレス］で取得している IP アドレスが正常な範囲のものか確認する

一般的に正常な範囲のアドレスは「192.168.XXX.XXX」の範囲です。

## 役立つ操作集

**通信状態を確認する**

［ワイヤレスネットワーク接続］アイコンをクリックすると［ワイヤレスネットワーク接続の状態］画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

## 4 ウィザードから設定する

ここでは、ウィザードから設定する方法について説明します。
「本項 3 無線 LAN を使ってみよう」から設定できない場合などにウィザードから設定してください。

**1** ［コントロールパネル］を開き、［ ネットワークとインターネット接続］をクリックする

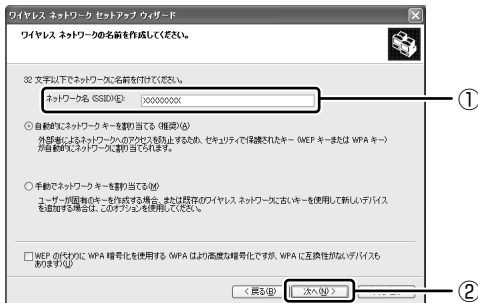
**2** ［ ワイヤレス ネットワーク セットアップ ウィザード］をクリックする

［ワイヤレスネットワークセットアップウィザードの開始］画面が表示されます。

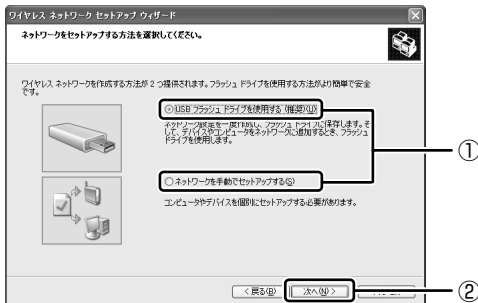
**3** ［次へ］ボタンをクリックする

［ワイヤレスネットワークの名前を作成してください。］画面が表示されます。
パソコン本体に無線 LAN ネットワークを設定してある場合は、［タスクを選択してください。］画面が表示されるので、指示に従ってください。
手順 4 または手順 5 に進みます。

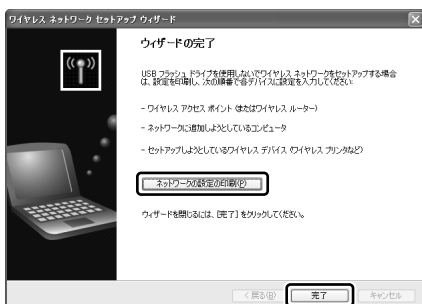
### 4 ネットワーク名を入力し①、［次へ］ボタンをクリックする②

WPA でご使用になる場合は、［WEP の代わりに WPA 暗号を使用する］をチェックしてください。
すでに無線 LAN ネットワークの環境がある場合など、ユーザがネットワークキーを任意で入力したい場合は、［手動でネットワークキーを割り当てる］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックしてください。［ワイヤレスネットワークのための WEP キーを入力してください。］画面が表示されます。［WEP の代わりに WPA 暗号化を使用する］をチェックしている場合は、［ワイヤレスネットワークのための WPA キーを入力してください。］画面が表示されます。画面の指示に従ってください。

［ネットワークをセットアップする方法を選択してください。］画面が表示されます。

### 5 目的の方法をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

他のコンピュータやデバイスを無線 LAN ネットワークに追加する方法を選択します。

USB フラッシュメモリを使用して、無線 LAN ネットワークを簡単で安全にセットアップしたい場合は、［USB フラッシュドライブを使用する］をチェックしてください。USB フラッシュメモリでセットアップするための画面が表示されるので、指示に従ってください。
それ以外の場合は、［ネットワークを手動でセットアップする］をチェックしてください。

［ウィザードの完了］画面が表示されます。

### 6 ［完了］ボタンをクリックする

（表示例）

手動で無線 LAN ネットワークのセットアップを行う場合は、［ネットワークの設定の印刷］ボタンをクリックしてください。ネットワークキーなどの設定が記載されている［無題 - メモ帳］画面が表示されます。
他のパソコンを無線 LAN ネットワークに加える場合は、［無題 - メモ帳］に記載されている内容を保存し、設定を行ってください。

## ヘルプの起動

ワイヤレスネットワークの詳しい情報は『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

# 5章

# 周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

# 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を広げることができます。
周辺機器には、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぐ外付け方式のものと、パソコンのカバーを開けて、パソコンの中に取り付ける内蔵方式のものがあります。

本製品に接続して使うことができる周辺機器には、おもに次のようなものがあります。

【 外付け方式のもの 】
- キーボード
- テレビ
- オーディオ機器（音楽プレイヤ）
- ハードディスク
- マウス
- ディスプレイ
- ハブ
- テンキーパッド
- フロッピーディスクドライブ
- プロジェクタ
- フラッシュメモリ
- トラックボール
- プリンタ
- スキャナ
- モデム

【 内蔵方式のもの 】
- メモリ
- バッテリ

周辺機器によっては、インタフェースなどの規格が異なることがあります。インタフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、その周辺機器で何をしたいのか、目的をはっきりさせて、その目的にあった周辺機器をお選びください。そして、本製品に対応しているかどうかを、その周辺機器のメーカに確認したうえで、ご購入ください。

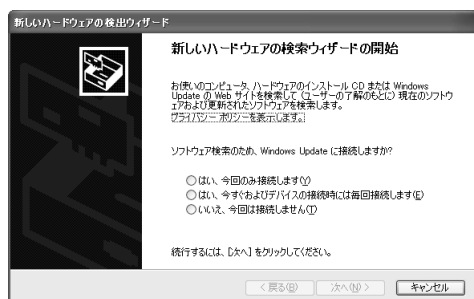
**お願い** 取り付け／取りはずしにあたって

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタからACアダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
  - ・作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
  - ・ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

参照 コネクタの種類について 「付録 2 各インタフェースの仕様」

## ①　ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールを行います。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【 自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合 】

Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかると、自動的にインストールを開始します。［新しいハードウェアの検出ウィザード］画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。

【 自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合 】
［ハードウェアの追加ウィザード］を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。［ハードウェアの追加ウィザード］は、次のように起動します。

①［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
②［関連項目］の［ハードウェアの追加］をクリックする

# パソコンの動作をスムーズにする

## － メモリの増設 －

ハードディスクの大きさがデータの保存容量を決めるのに対し、メモリ容量はハードディスクからデータを取り出し、作業するエリアの大きさに影響します。画像編集など、一度に大きなデータを扱う作業を行う場合は、メモリ容量が大きいほうがスムーズに作業を行うことができます。メモリを増設して、快適なパソコンにしましょう。
増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。
本製品にはPC2-4200対応、DDR2 SDRAM仕様の2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があります。メモリが取り付けられていないスロットに別売りの増設メモリを取り付けたり、取り付けられているメモリを別売りの増設メモリと付け換えることができます。
増設メモリは、容量によって次の3タイプがあります。

1GB　　：PAME1003
512MB：PAME5123
256MB：PAME2563

取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて、最大2GBまでです。
別売りの増設メモリ1GB（タイプ1）：PAME1003をスロットAに取り付けるときは、あらかじめ取り付けられているメモリを取りはずしてください。

### ⚠ 警告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと**
  内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

### ⚠ 注意

- **ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないこと**
  火災、感電の原因となります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- **増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行うこと**
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- **電源を切った直後に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないこと**
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後30分以上たってから行ってください。

### お願い　操作にあたって

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミや油が付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、東芝製オプションを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。

**お願い**　静電気について

- 増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって回復不能な損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

## 1 メモリを増設する

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 メモリを取りはずす」

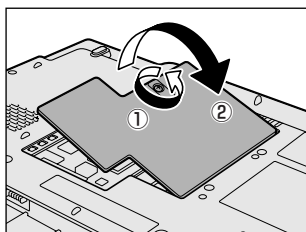
### 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

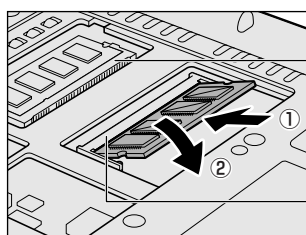
参照 電源の切りかた 「1 章 2 電源を切る方法と入れる方法」

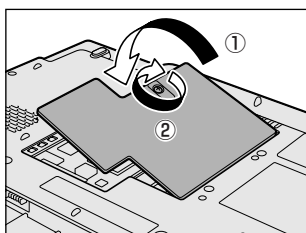
### 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

### 3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす

参照 バッテリパックの取りはずし 「6 章 1-③ バッテリパックを交換する」

### 4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ①、カバーをはずす②

増設メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

### 5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。
このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

### 6 増設メモリカバーをつけて①、手順 4 でゆるめたネジ 1 本をとめる②

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

### 7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け 「6 章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について 「本節 3 メモリ容量を確認する」

## 2 メモリを取りはずす

**1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る**

参照 電源の切りかた 「1 章 2 電源を切る方法と入れる方法」

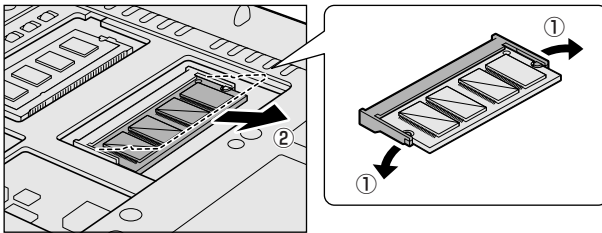
**2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす**

**3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす**

参照 バッテリパックの取りはずし 「6 章 1-③ バッテリパックを交換する」

**4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ、カバーをはずす**

増設メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

**5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②**

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

**6 増設メモリカバーをつけて、手順 4 でゆるめたネジ 1 本をとめる**

増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

**7 バッテリパックを取り付ける**

参照 バッテリパックの取り付け 「6 章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

## 3 メモリ容量を確認する

メモリ容量は「東芝 PC 診断ツール」で確認することができます。

【 確認方法 】
①[スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
②[基本情報] タブで [物理メモリ] の数値を確認する

# USB対応機器を使う

USB（ユーエスビー）対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応プリンタ
- USB対応スキャナ
- USBフラッシュメモリ　など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細については、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

**お願い**　操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

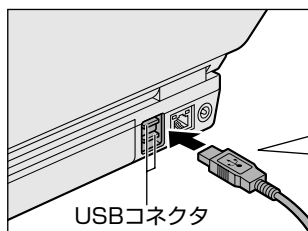
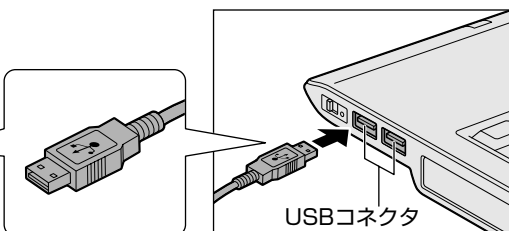


## 1 取り付け

**1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む**

この手順が必要ない機器もあります。

**2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む**

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【背面】　【右側面】

## 2 取りはずし

**お願い**　取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MOドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

**1 USB対応機器の使用を停止する**

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする
② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずすUSB対応機器）を安全に取り外します］をクリックする
③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコンが表示されないUSB対応機器は、手順1の①～③は必要ありません。

**2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く**

## ① USBフラッシュメモリを使う

USBメモリ同梱モデルには、USBフラッシュメモリが同梱されています。
USBコネクタに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

### 1 取り付け

**お願い** 操作にあたって

- 本製品に同梱されているUSBフラッシュメモリを、本製品以外のパソコンで使用する場合には、まれにスタンバイ・休止状態からの復帰ができないことがあります。本製品以外のパソコンでご使用の際には、スタンバイまたは休止状態にさせないことをおすすめいたします。

**お願い** 静電気に関するご注意

USBフラッシュメモリをご使用になる際は、以下の項目に注意してお使いください。

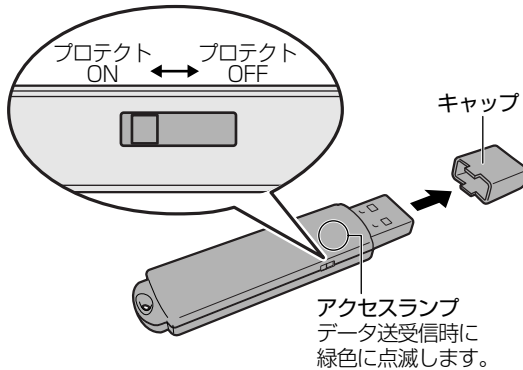
- ホコリ・ゴミが付着している状態で、取り付けないでください。
- USBフラッシュメモリに触れる前に、身近な金属（ドアノブやアルミサッシなど）に手を触れて、身体の静電気を取り除くようにしてください。
- USBフラッシュメモリのデータおよびパソコン内のデータ（ハードディスクなど）は、必ず他のメディア（CDまたはDVDなど）にバックアップしてください。
  次のような場合に、データが消失・破損するおそれがあります。
  ・USBフラッシュメモリを落としたり、強い衝撃を与えたとき
  ・静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  ・故障したとき
  ・USBフラッシュメモリへのアクセス中に、取りはずしやパソコンの電源をOFFにするなど、誤った使いかたをしたとき
  上記の場合に限らず、バックアップの作成を怠ったために、データを消失、破損した場合、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

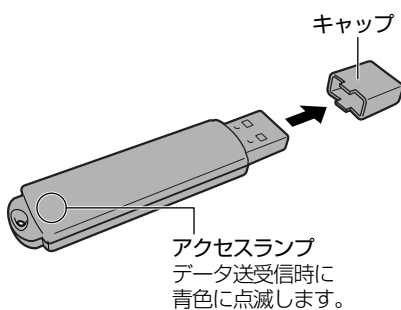
**お願い** 認識されない場合の対応

- USBフラッシュメモリが認識されない場合は、USBフラッシュメモリをパソコンから抜き、再度接続してください。

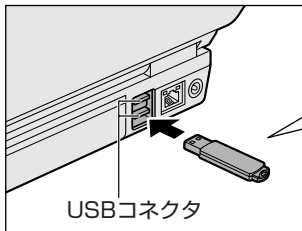
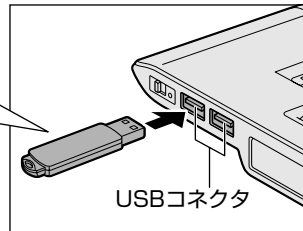
**1** USBフラッシュメモリのキャップを取りはずす

USBメモリ同梱モデルには、次のいずれかのUSBフラッシュメモリが同梱されています。

● プロテクト付きのUSBフラッシュメモリの場合

取りはずしたキャップはなくさないようにしてください。
USBフラッシュメモリにデータを書き込む場合は、プロテクトをOFFにしてください。
プロテクトをON／OFFにするときは、先の細い丈夫なもの（クリップを伸ばしたものなど）でスイッチをスライドさせてください。

● プロテクトなしのUSBフラッシュメモリの場合

取りはずしたキャップはなくさないようにしてください。

**2** USBフラッシュメモリをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

「dynabook」ロゴが見えるほうを上にして差し込んでください。

［リムーバブルディスク］画面が表示された場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

## 2 取りはずし

**お願い** 取りはずす前に確認しよう

- アクセスランプが点滅している間は、電源を切ったり、USBフラッシュメモリを取りはずしたりしないでください。データが消失・破損する恐れがあります。

**1** USBフラッシュメモリの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする
② 表示されたメニューから［USB大容量記憶装置デバイス－ドライブ（X:）を安全に取り外します］をクリックする
③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

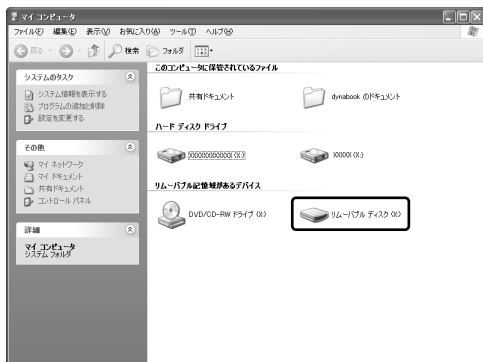
**2** パソコン本体からUSBフラッシュメモリを抜く

**3** USBフラッシュメモリのキャップを取り付ける

## 3 USBフラッシュメモリの内容を見る

画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

**1** ［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする

**2** ［ リムーバブル ディスク］をダブルクリックする

作成したデータをUSBフラッシュメモリに保存する場合は、［保存する場所］で［リムーバブル ディスク］を選択してください。

## 4 他のパソコンで使用するとき

**お願い** 操作にあたって

- すべてのパソコンとの動作確認は行っていません。したがってすべてのパソコンに取り付けての動作は保証できません。

USBフラッシュメモリを他のパソコンに取り付けて使用することができます。その場合は、取り付けるパソコンに次の条件が必要です。

【 システム＊1 】
Windows 98SE／Windows Me／Windows 2000／Windows XP Home Edition／Windows XP Professional

＊1 システムの正式名称は次のとおりです。
Windows 98SE ..... Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows Me .......... Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000 ..... Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版

**メモ**

- Windows 98SEのパソコンで使用するには、ドライバが必要です。ドライバは、弊社ホームページ「dynabook.com」の「サポート情報」→「ダウンロード」からダウンロードすることができます。
  - ・プロテクト付きのUSBフラッシュメモリの場合
    URL：http://dynabook.com/assistpc/download/modify/usb/index_j.htm
  - ・プロテクトなしのUSBフラッシュメモリの場合
    URL：http://dynabook.com/assistpc/download/modify/usb2/index_j.htm
- USBフラッシュメモリのよくある質問については、弊社ホームページ「dynabook.com」の「サポート情報」を確認してください。

# i.LINK（IEEE1394）対応機器を使う

i.LINK（IEEE1394）コネクタ（i.LINK コネクタとよびます）に接続します。
i.LINK（IEEE1394）対応機器（i.LINK 対応機器とよびます）には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ　　など

i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

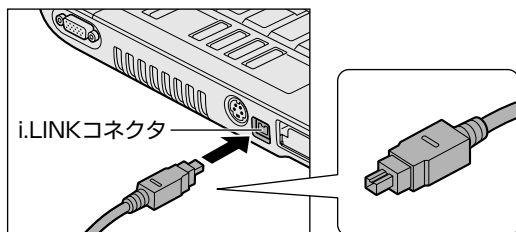
**お願い**　操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電気的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電気的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときに他の i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしは、データ通信を行っていないとき、またはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム（OS）および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの（S100、S200、S400 対応）を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカに問い合わせてください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け／取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切替えを伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。



## 1 取り付け

**1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む**

プラグの向きを確認して差し込んでください。

**2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む**

## 2 取りはずし

**お願い** 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、i.LINK 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の i.LINK 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

**1** **i.LINK 対応機器の使用を停止する**

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする
② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコンが表示されない i.LINK 対応機器は、手順 1 の①〜③は必要ありません。

**2** **パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く**

## 3 i.LINKによるネットワーク接続

システム（OS）が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK（IEEE1394）ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックし、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

**1** **ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する**

**2** **ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する**

# パソコンの画面をテレビに映す

## － テレビの接続 －

本製品のS-Video（エスビデオ）出力コネクタとテレビをS端子ケーブルで接続すると、テレビ画面にWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

【 パソコン上のDVDなどを、テレビに表示する 】
「WinDVD（ウィンディーブイディー）」でのDVD再生など、パソコンで視聴／再生している映像を、ご家庭のテレビにも表示させることができます。

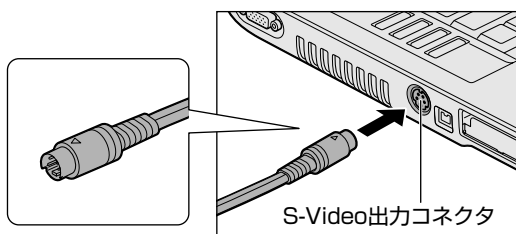
- テレビの代わりに、外部ディスプレイを接続して表示することもできます。

【 接続の前に 】
S映像入力端子（S1/S2映像入力端子）があるテレビを接続できます。
テレビを接続するときは、『テレビに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。
接続するS端子ケーブルは、市販の4ピンコネクタのケーブルを使用してください。

- テレビへの出力形式を設定する方法は、「本節 2 表示を切り替える」を参照してください。

### 1 パソコンに接続する

テレビとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

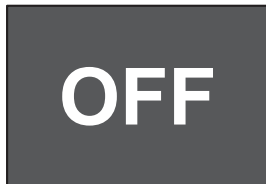
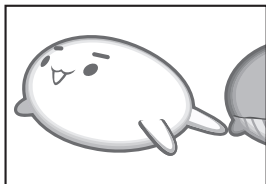
**1** S端子ケーブルのプラグをパソコン本体のS-Video出力コネクタに差し込む

**2** S端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビのS映像入力端子（S1/S2映像入力端子）に差し込む

**3** テレビの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる

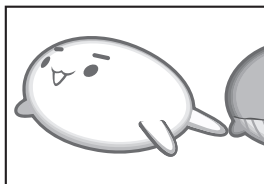
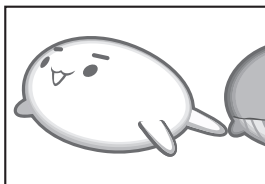
音声はパソコンのスピーカで聞くか、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

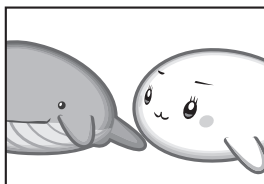
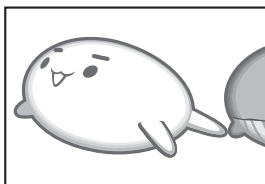
## 2 表示を切り替える

テレビを接続した場合には、次の表示方法があります。
表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

【 本体液晶ディスプレイだけに表示／テレビだけに表示 】

いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。

【 本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示 】

- クローン表示

2 つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

- 拡張表示
  ＊ 方法 1 でのみ設定できます。

2 つの表示装置を 1 つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）します。

テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

**お願い** 操作にあたって

- 必ず、DVD-Video などを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
  ・データの読み出しや書き込みをしている間
  ・通信を行っている間
- クローン表示しているときに DVD-Video を再生すると、画像がコマ落ちすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、本体液晶ディスプレイまたはテレビのどちらかだけに表示するか、拡張表示に設定してください。

**メモ**

- テレビに表示する場合は、1024 × 768 ドット以下の解像度でご覧ください。

### 方法１－［画面のプロパティ］で設定する

PSAW61RDWTS4LGモデルの場合は設定方法が異なります。
「本項 - PSAW61RDWTS4LGモデルの場合」を確認してください。

**1** ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

**2** ［ デスクトップの表示とテーマ］をクリックする

**3** ［ 画面］をクリックする

［画面のプロパティ］画面が表示されます。

**4** ［設定］タブで［詳細設定］ボタンをクリックする

**5** ［Intel(R) Graphics Media Accelerator Driver for Mobile］タブで［グラフィック プロパティ］ボタンをクリックする

**6** 画面左側の［ディスプレイ デバイス］をクリックし、表示する装置を選択する

チェック（ ）がついている項目が現在の表示装置です。

（表示例）

- 本体液晶ディスプレイだけに表示
  ［ノートブック］をクリックしてください。
- テレビだけに表示
  ［テレビ］をクリックしてください。
  画面左側の［ディスプレイ設定］をクリックして表示される画面の「ビデオ標準」では10種類のモードが表示されますが、次の３つのみ使用してください。
  ・NTSC-M（米国仕様のTV受信機）
  ・NTSC-J（日本仕様のTV受信機）
  ・PAL-B（ヨーロッパ仕様のTV受信機）
- 外部ディスプレイだけに表示
  ［PCモニタ］をクリックしてください。
- クローン表示
  2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。
  ①［Intel(R) デュアル・ディスプレイ・クローン］をクリックする
  ②表示に合わせた設定をする

| 項目 | プライマリデバイス | セカンダリデバイス |
|---|---|---|
| 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイでクローン表示 | ノートブック | PCモニタ |
| 本体液晶ディスプレイとテレビでクローン表示 | ノートブック | テレビ |

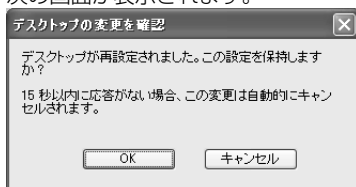
- 拡張表示
  2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用できます。
  本体液晶ディスプレイと外部液晶ディスプレイまたはテレビの両方にクローン表示しているとき、［画面のプロパティ］から拡張表示を設定できない場合があります。そのときは、Ctrl＋Alt＋F12キーを押して設定画面を表示し、次のように操作します。
  ①［拡張デスクトップ］をクリックする
  ②表示に合わせた設定をする

| 項目 | プライマリデバイス | セカンダリデバイス |
|---|---|---|
| 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイで拡張表示 | ノートブック | PCモニタ |
| 本体液晶ディスプレイとテレビで拡張表示 | ノートブック | テレビ |

**メモ**

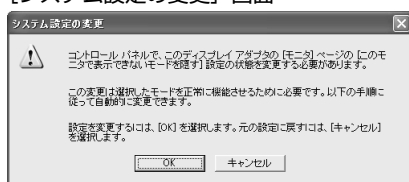
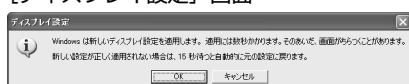
- 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイをクローン表示または拡張表示に設定する際に、外部ディスプレイにノイズが発生した場合は、外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてご使用ください。
  設定は、クローン表示または拡張表示に設定したあと、[ディスプレイ設定] をクリックし、表示される画面で行います。

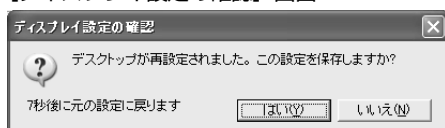
**7** **[OK] ボタンをクリックする**

次の画面が表示されます。

**8** **[OK] ボタンをクリックする**

**9** **[OK] ボタンをクリックする**

**10** **[画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする**

- メッセージについて
  設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、[OK] または [はい] ボタンをクリックしてください。
  - [システム設定の変更] 画面

  - [ディスプレイ設定] 画面

  - [ディスプレイ設定の確認] 画面

【 PSAW61RDWTS4LG モデルの場合 】

**1** **[スタート] → [コントロールパネル] をクリックする**

**2** **[ デスクトップの表示とテーマ] をクリックする**

**3** **[ 画面] をクリックする**

[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

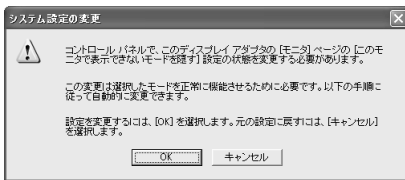
**4** **[設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックする**

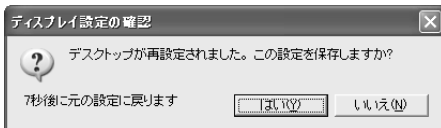
## 5 ［GeForce Go 7600］タブをクリックする

ここで画面左側にメニューが表示されていない場合は、画面プロパティウィンドウの左端にある矢印をクリックしてください。

## 6 画面左側のメニューから［nView ディスプレイ設定］をクリックし、表示された画面で次のいずれかに設定する

［設定方法］に進んでください。

- メッセージについて
  設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、［OK］または［はい］ボタンをクリックしてください。
  - ［システム設定の変更］画面

  - ［ディスプレイ設定］画面

  - ［ディスプレイ設定の確認］画面

- 設定方法
  - 本体液晶ディスプレイだけに表示
    ①［nView］で［1 つのディスプレイ］を選択する
    ②［現在のディスプレイ］で［ラップトップ ディスプレイ］を選択する
    ③［OK］ボタンをクリックする
  - 本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示
    ①［nView］で［クローン］または［デュアルビュー（DualView）］を選択する
    ［クローン］を選択すると、2 つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。
    ［デュアルビュー（DualView）］を選択すると、2 つの表示装置を 1 つの大きなデスクトップ画面として使用（拡張表示）できます。
    ②［プライマリディスプレイ／セカンダリディスプレイ］で［ラップトップ ディスプレイ／ TV］を選択する
    ③［TV］アイコンをクリックする
    ④［デバイス設定］ボタンをクリックし、表示されるメニューから［TV フォーマットを選択する］を選択する
    ⑤テレビの形式を選択する
    次のいずれかを選択してください。
    ・NTSC-M　・NTSC-J　・PAL-B
    国内のテレビの場合は［NTSC-J］です。
    ⑥［OK］ボタンをクリックする

・本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示
①[nView]で[クローン]または[デュアルビュー(DualView)]を選択する
②[プライマリディスプレイ／セカンダリディスプレイ]で[ラップトップ ディスプレイ／アナログディスプレイ]を選択する
③[OK]ボタンをクリックする

・テレビだけに表示
①[nView]で[1つのディスプレイ]を選択する
②[現在のディスプレイ]で[TV]を選択する
③[OK]ボタンをクリックする

・外部ディスプレイだけに表示
①[nView]で[1つのディスプレイ]を選択する
②[現在のディスプレイ]で[アナログディスプレイ]を選択する
③[OK]ボタンをクリックする

**7** [画面のプロパティ]画面で[OK]ボタンをクリックする

## 方法2－Fn＋F5キーを使う

**メモ**

- 方法2では、同時表示はクローン表示となり、2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。拡張表示の設定はできません。

Fnキーを押したままF5キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。Fnキーを押したままF5キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、Fnキーをはなすと表示装置が切り替わります。

- 表示装置をLCD(本体液晶ディスプレイ)に戻す方法
  現在の表示装置がLCD(本体液晶ディスプレイ)以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、Fn＋F5キーを3秒以上押し続けてください。
  表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指をはなしてから、Fn＋F5キーを3秒以上押し続けてください。

- LCD …………………… 本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD/CRT ………… 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT …………………… 外部ディスプレイだけに表示
  外部ディスプレイを接続している／していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD/TV …………… 本体液晶ディスプレイとテレビに同時表示
- TV ……………………… テレビだけに表示
  テレビを接続している／していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
  本体液晶ディスプレイには何も表示されません。

複数のユーザで使用する場合、ユーザアカウントを切り替えるときは[Windowsのログオフ]画面で[ログオフ]を選択して切り替えてください。[ユーザーの切り替え]で切り替えた場合は、Fn＋F5キーで表示装置を切り替えられません。

参照 ユーザアカウントの切り替え 『ヘルプとサポート センター』

## 3 パソコンを DVD プレーヤ代わりに使う

パソコンにテレビなどを接続して DVD プレーヤのようにパソコンを使いたいときは、動画をテレビや外部ディスプレイに表示するための設定を行います。
表示装置を本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示、または本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定している場合、動画がテレビや外部ディスプレイに表示されないことがあります。その場合は、次の設定を行います。

**1　Fn＋F5キーを押して、本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの同時表示になっていることを確認する**

参照　Fn＋F5キー「本節 2-方法 2-Fn＋F5キーを使う」

**2　［コントロールパネル］を開き、［ デスクトップの表示とテーマ］をクリックする**

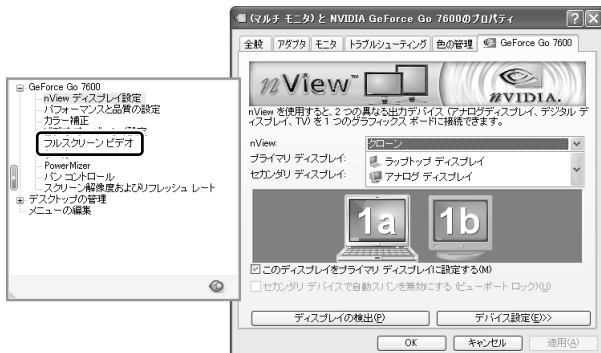
**3　［ 画面］をクリックする**

［画面のプロパティ］画面が表示されます。

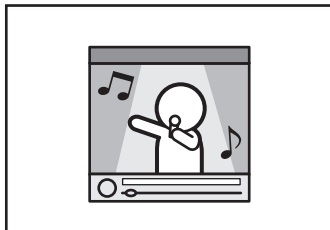
**4　［設定］タブで［詳細設定］ボタンをクリックする**

**5　［GeForce Go 7600］タブをクリックする**

ここで画面左側にメニューが表示されていない場合は、画面プロパティウィンドウの左端にある矢印をクリックしてください。

**6　画面左側のメニューから［フルスクリーンビデオ］をクリックする**

**7　［フルスクリーンデバイス］で［プライマリディスプレイ］または［セカンダリディスプレイ］を選択する**

本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの、どちらかあるいは両方がフルスクリーン表示になっていないと、動画を表示できません。

● ウィンドウ表示

● フルスクリーン表示

［フルスクリーンデバイス］で、どちらをフルスクリーン表示にするか設定します。
［フルスクリーンデバイス］での設定項目の内容は、次のようになっています。

| 設定項目＼表示装置 | 本体液晶ディスプレイ | テレビまたは外部ディスプレイ |
|---|---|---|
| プライマリディスプレイ | フルスクリーン表示 | ウィンドウ表示 |
| セカンダリディスプレイ | ウィンドウ表示 | フルスクリーン表示 |
| 無効 | ウィンドウ表示 | 表示されない |

メモ

- ウィンドウ表示をフルスクリーン表示にしたい場合は、動画再生ソフト上でウィンドウを最大化してください。
- 本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの両方の表示装置を、ウィンドウ表示にすることはできません。
- 動画の種類によっては「フルスクリーンデバイス」の設定に関わらず本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの両方の表示装置にウィンドウ表示されることがあります。
- 本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの同時表示では、「WinDVD」などの動画再生ソフトを使用したとき、ウィンドウ内に表示されている映像が、テレビまたは外部ディスプレイにフルスクリーン表示されます。
  このとき、動画再生ソフトを最小化したり、表示されている映像が他のウィンドウで隠れてしまったりすると、フルスクリーン表示が停止したり正しく表示されない場合があります。
  このようなときは、動画再生ソフトの画面をクリックし、ウィンドウ内に表示されている映像が見える状態に戻してください。

**8** ［OK］ボタンをクリックする

**9** ［画面のプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

## 4 パソコンから取りはずす

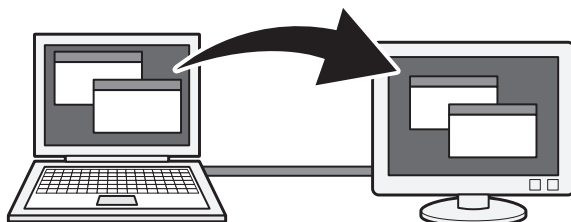
パソコン本体の電源を切ってから、テレビの電源を切った後、取りはずしを行ってください。

**1** パソコン本体とテレビに差し込んであるＳ端子ケーブルを抜く

【アプリケーションの利用に関する注意事項】
「InterVideo WinDVD」で使用する表示装置を変更したい場合は、アプリケーションを起動する前に表示装置を切り替えてください。
起動中は、表示装置を切り替えることができません。

# パソコンの画面を外部ディスプレイに映す

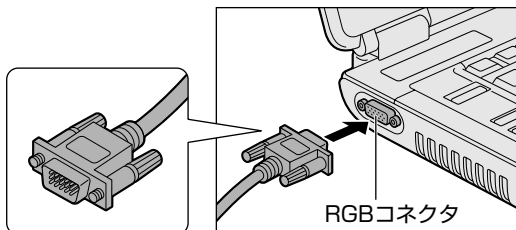
## ー 外部ディスプレイの接続 ー

RGB（アールジービー）コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに Windows のデスクトップ画面を表示させることができます。

**メモ**

- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。

### 1 パソコンに接続する

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

**1 外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む**

**2 外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる**

外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

### 2 パソコンから取りはずす

**1 パソコン本体の電源を切ってから、外部ディスプレイの電源を切る**

**2 RGB コネクタからケーブルを抜く**

## 3 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
  - ・クローン表示
  - ・拡張表示
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

表示方法は、テレビに表示する場合の説明を参考にしてください。

参照 表示方法について 「本章 5-2 表示を切り替える」

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。
表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

### 切り替え方法

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法 1」や「方法 2」を参考にしてください。

参照 表示方法について 「本章 5-2 表示を切り替える」

**メモ**

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ／本体液晶ディスプレイとも本体液晶ディスプレイの色数／解像度で表示されます。

## 4 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

# インターネットチャットや音声ソフトを使う

**－ マイクロホンやヘッドホンの接続 －**

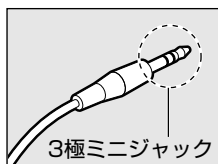
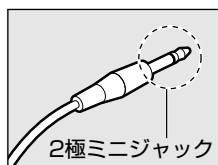
本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。
マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

## ① マイクロホンを使う

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。
本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

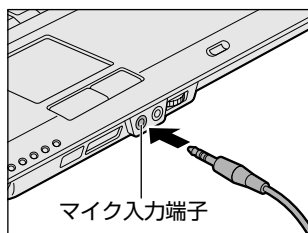
参照 サウンド機能について 「3章 6 サウンド機能」

### 1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは 3.5mm φ 3 極ミニジャックタイプが使用できます。

- 3.5mm φ 2 極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

### 2 接続する

**1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む**

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

## ② ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

**お願い** 操作にあたって

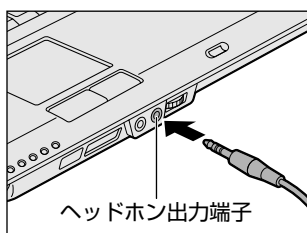
- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・ パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  - ・ ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。
ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows のボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

①［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［エンターテイメント］→［ボリュームコントロール］をクリックする

### 1 接続する

**1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む**

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

# PC カードを使う

目的に合わせた PC カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。
PC カードには、次のようなものがあります。

- データ通信カード（PHS、携帯電話）
- 外付けハードディスクドライブ、CD ／ DVD ドライブ用アダプタカード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード　　など

## ① PC カードを使う前に

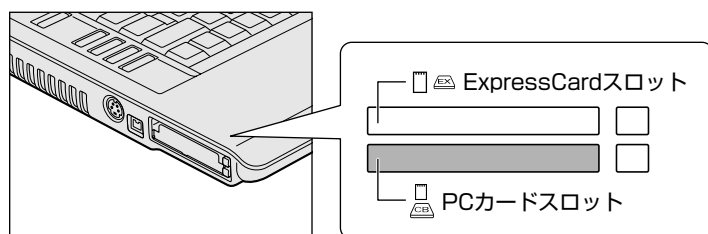
本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE Ⅱ対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

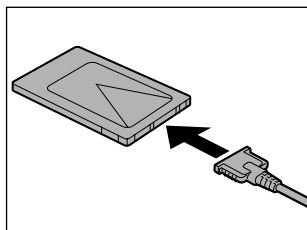
PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
使用している PC カードがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

**お願い**　操作にあたって

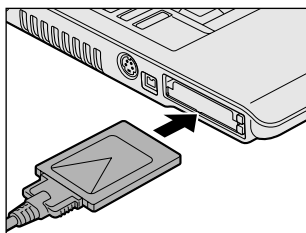
- ホットインサーションに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

## ② PC カードを使う

PC カードを使う場合、パソコン本体の PC カードスロットに PC カードを取り付けてください。
ExpressCard スロットと PC カードスロットは、上下に並んでいます。それぞれのスロットを間違えないようにしてください。

### 1 取り付け

**1** PC カードにケーブルを付ける

SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

5章　周辺機器を使って機能を広げよう

## 2 PC カードの表裏を確認し、表を上にして挿入する

カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、または PC カードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

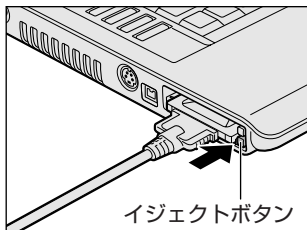
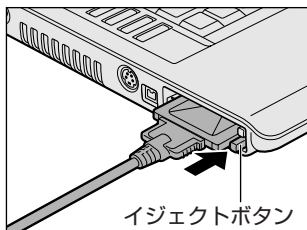
## 2 取りはずし

### お願い　取りはずす前に確認しよう

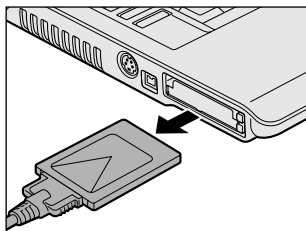
- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

## 1 PC カードの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする
② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずす PC カード）を安全に取り外します］をクリックする
③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

## 2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。
カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。

## 3 もう 1 度イジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

## 4 カードをしっかりとつかみ、抜く

カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

## 5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

# 9 ExpressCardを使う

目的に合わせたExpressCard（エクスプレスカード）を使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

## ① ExpressCardを使う前に

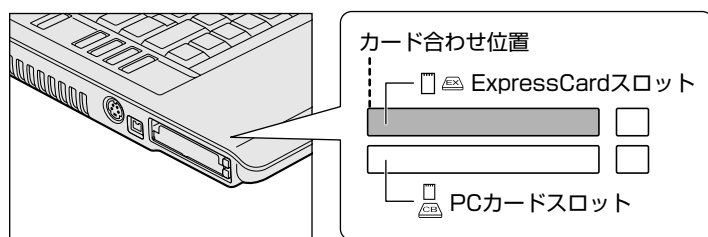
本製品は、ExpressCard Standard準拠のExpressCard/34、ExpressCard/54対応のカードを使用できます。

ExpressCardは基本的に電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサーション）に対応しているので便利です。
使用しているExpressCardがホットインサーションに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『ExpressCardに付属の説明書』を確認してください。

**お願い** 操作にあたって

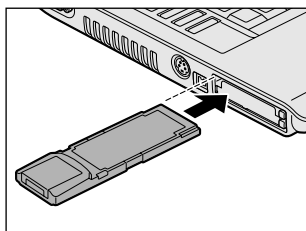
- ホットインサーションに対応していないExpressCardを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- ExpressCardには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。ExpressCardを取りはずす際に、ExpressCardが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからExpressCardを取りはずしてください。

## ② ExpressCardを使う

ExpressCardを使う場合、パソコン本体のExpressCardスロットにExpressCardを取り付けてください。
本製品のExpressCardスロットとPCカードスロットは、上下に並んでいます。それぞれのスロットを間違えないようにしてください。
また、ExpressCardを取り付けるときは、ExpressCardスロットの左端にExpressCardの左端を合わせて挿入してください。

参照 PCカードスロットについて 「本章 8 PCカードを使う」

### 1 取り付け

**1** ケーブルの接続が必要な場合は、ExpressCardにケーブルを付ける

**2** ExpressCardの表裏を確認し、表を上にして挿入する

カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。
きちんと奥まで差し込まれていない場合、ExpressCardを使用できない、またはExpressCardが壊れる場合があります。
カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

＊ イラストは、ExpressCard/34対応のカードの例です。

## 2 取りはずし

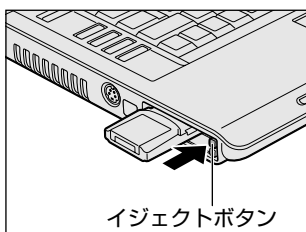
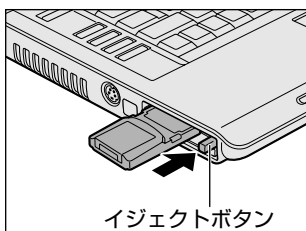
**お願い** 操作にあたって取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、ExpressCardをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- 通知領域に［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）が表示されているExpressCardを取りはずす場合、ExpressCardの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずにExpressCardを取りはずすとシステムが回復不能な影響を受ける場合があります。

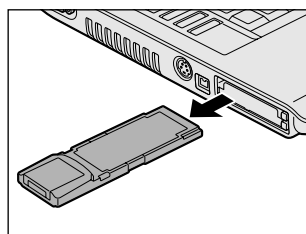
### 1 ExpressCardの使用を停止する

① 通知領域の［ハードウェアの安全な取り外し］アイコン（ ）をクリックする
② 表示されたメニューから［XXXX（取りはずすExpressCard）を安全に取り外します］をクリックする
③「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、［閉じる］ボタン（ ）をクリックする

＊ 通知領域にこのアイコンが表示されないExpressCardは、手順1の①～③は必要ありません。

### 2 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが出てきます。
カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。

### 3 もう1度イジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押してください。
カードが少し出てきます。

### 4 カードをしっかりとつかみ、抜く

カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。
熱くないことを確認してから行ってください。

### 5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

# 6章

# バッテリ駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認など、バッテリを使用するにあたっての取り扱い方法や各設定について説明しています。

# 1 バッテリについて

パソコン本体には、バッテリパックが取り付けられています。バッテリを充電して、バッテリ駆動（AC アダプタを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリパックを充電してから使用してください。
バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめ AC アダプタを接続してバッテリパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリパックを取り付けてください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリ駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

## ⚠危 険

- **バッテリパックは、必ず本製品に付属の製品を使用すること**
  寿命などで交換する場合は、東芝製バッテリ（TOSHIBA バッテリパック：PABAS076）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- **バッテリパックを分解・改造しないこと**
  分解・改造すると、火災・破裂・発熱の原因となります。指定以外の製品や、分解・改造したものは、安全性や製品に関する保証はできません。

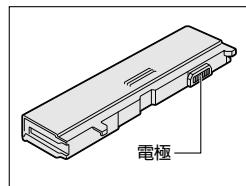
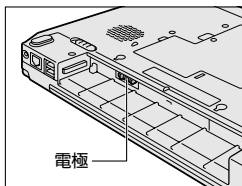
## ⚠警 告

- **別売りのバッテリパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないこと**
  お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

## ⚠注 意

- **バッテリパックの充電温度範囲内（5～35℃）で充電すること**
  充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。

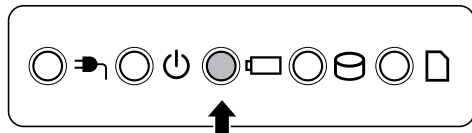
**お願い**

- バッテリパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

- バッテリ駆動で使用しているときは、バッテリの残量に十分注意してください。
  バッテリを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、AC アダプタを接続してバッテリと時計用バッテリを充電してください。

## ① バッテリ充電量を確認する

バッテリ駆動で使う場合、バッテリの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリの充電量を確認しておく必要があります。

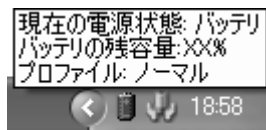
### 1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。

Battery LEDは次の状態を示しています。

| | |
|---|---|
| 青 | 充電完了 |
| オレンジ | 充電中 |
| オレンジの点滅 | 充電が必要<br>参照 バッテリの充電について 「本節 ② バッテリを充電する」 |
| 消灯 | ・バッテリが接続されていない<br>・ACアダプタが接続されていない<br>・バッテリ異常<br>異常の場合は、購入店または近くの保守サービスに連絡してください。 |

### 2 通知領域の［省電力］アイコンで確認する

通知領域の［省電力］アイコン（　）の上にポインタを置くと、バッテリ充電量が表示されます。
このときバッテリ充電量以外にも、現在使用しているプロファイル名や、使用している電源の種類が表示されます。

現在の電源状態: バッテリ
バッテリの残容量: XX%
プロファイル: ノーマル
18:58

参照 省電力設定について 「本章 2 省電力の設定をする」

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリ駆動を行わないと、バッテリ充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリ充電量が減少したときは、Battery LEDや［省電力］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

### 3 バッテリ充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリの残量が少ないことを示しています）
- バッテリのアラームが動作する
  「東芝省電力」の［アクション設定］タブの［アラーム設定］で設定すると、バッテリの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

①パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリ減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

### 時計用バッテリ

本製品には、取りはずしができるバッテリパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリが内蔵されています。
時計用バッテリの充電は、AC アダプタを接続し電源を入れているとき（電源 ON 時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

【 充電完了までの時間 】

| 状態 | 時計用バッテリ |
|---|---|
| 電源 ON（Power ⏻ LED が青色に点灯） | 24 時間 |

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

## ② バッテリを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

**お願い** 操作にあたって

- バッテリパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリは 5 ～ 35℃の室温で充電してください。

### 1 充電方法

**1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む**

DC IN LED が青色に点灯して Battery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源の ON ／ OFF にかかわらずフル充電になるまで充電されます。

**2 Battery LED が青色になるまで充電する**

バッテリの充電中は Battery LED がオレンジ色に点灯します。
DC IN LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【 充電完了までの時間 】
バッテリパックは消耗品です。バッテリ充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
周囲の温度が低いとき、バッテリパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くかかることがあります。

| 状態 | 電源 ON | 電源 OFF |
|---|---|---|
| バッテリパック | 約 12.0 時間 | 約 4.0 時間 |

【 使用できる時間 】
バッテリパックは消耗品です。バッテリ駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳細は、別紙の『dynabook Satellite AW6 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

【 バッテリ駆動時の処理速度 】
高度な処理を要するソフトウェア（3D グラフィックス使用など）を使用する場合は、充分な性能を発揮するために AC アダプタを接続してご使用ください。

### 2 バッテリを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリを使わない場合は、パソコン本体からバッテリパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリ駆動でパソコンを使用してください。

【 バッテリを節約する 】
バッテリを節約して、本製品をバッテリ駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

参照 「1章 3-② 休止状態」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

参照 「1章 3-③ 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」

- 省電力のプロファイルを設定する

参照 「本章 2 省電力の設定をする」

## ③ バッテリパックを交換する

バッテリパックの交換方法を説明します。
バッテリパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。

**メモ**

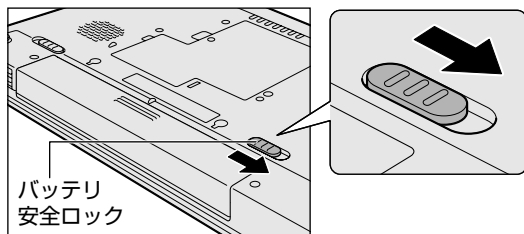
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

### 1 取りはずし／取り付け

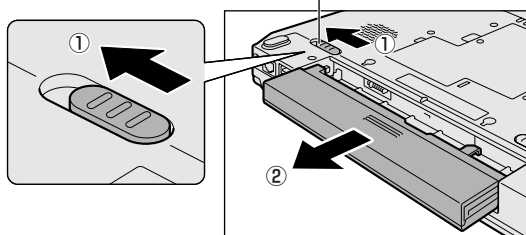
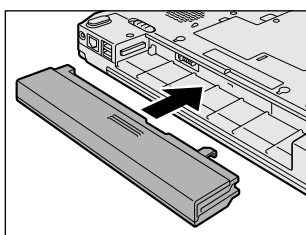
**1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る**

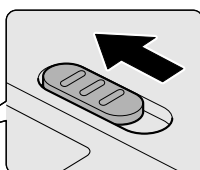
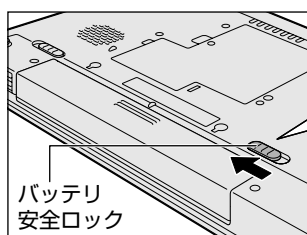
**2 パソコン本体からACアダプタと周辺機器のケーブル類をはずす**

**3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す**

**4 バッテリ安全ロックを矢印の方向に引く**

バッテリ・リリースラッチがスライドできるようになります。

**5 バッテリ・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリパックを取りはずす②**

6章 バッテリ駆動で使う

## 6 交換するバッテリパックを、「カチッ」と音がするまで静かに差し込む

新しいあるいは充電したバッテリパックを、バッテリ・リリースラッチが自動的にスライドして、「カチッ」という音がするまで注意して差し込んでください。

## 7 バッテリ安全ロックを矢印の方向にスライドする

バッテリパックがはずれないように、バッテリ安全ロックは必ず行ってください。

# 省電力の設定をする

バッテリ駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らす設定をする（ディスプレイの明るさを抑えるなど）と、より長い時間使用できます。
省電力の設定をまとめたものをプロファイルといいます。使用環境ごとに設定されたプロファイルがあらかじめ用意されていますので、使用環境にあわせてプロファイルを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更できます。プロファイルの設定を変更したり、新しくプロファイルを追加することもできます。

## ① 東芝省電力

省電力の設定は「東芝省電力」から行います。
AC アダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありませんが、ディスプレイの明るさなどはお好みにあわせて設定してください。

### 1 東芝省電力の起動方法

**1** ［コントロールパネル］を開き、［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする

**2** ［ 東芝省電力］をクリックする

［東芝省電力のプロパティ］画面が表示されます。

（表示例）

使いかたについては、ヘルプをご覧ください。

#### ヘルプの起動方法

**1** 「東芝省電力」を起動後、画面右上の ? をクリックする

ポインタが  に変わります。

**2** 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

ヘルプの該当するページが表示されます。

# 7章

# アプリケーションについて

アプリケーションの使いかたについて説明しています。
データをCD／DVDに記録する、DVD-Videoの映像を観る、コンピュータウイルスを防ぐなど、パソコンでよく使う機能を紹介します。

# CD ／ DVD にデータのバックアップをとる

本製品では添付の「TOSHIBA Disc Creator」、「TOSHIBA Direct Disc Writer」を使って、記録用の CD ／ DVD にデータのバックアップをとることができます。
「TOSHIBA Disc Creator」、「TOSHIBA Direct Disc Writer」の操作をする前に、「3 章 4 CD や DVD を使う」を読んで、使用できるメディアを確認してください。

### メモ

- DVD-RAM にデータを書き込む場合は、バックアップしたいファイルやフォルダを［DVD-RAM ドライブ］にコピーしてください。
- CD-R、CD-RW などにバックアップをとった場合、そのデータは書き込み不可になっている場合があります。この場合、バックアップをとったデータを使うときには、1 度ハードディスクドライブなどにコピーしてからそのデータを右クリック→［プロパティ］で、［読み取り専用］のチェックをはずしてください。

## お願い　CD ／ DVD に書き込む前に

記録用の CD ／ DVD に書き込みを行うときは、「TOSHIBA Disc Creator」、「TOSHIBA Direct Disc Writer」を使用してください。
本製品に添付の「TOSHIBA Disc Creator」、「TOSHIBA Direct Disc Writer」以外のライティングソフトウェアは動作保証していません。Windows 標準の CD 書き込み機能や市販のライティングソフトウェアは、使用しないでください。
CD ／ DVD に書き込みを行うときは、次の注意をよく読んでから使用してください。
守らずに使用すると、書き込みに失敗するおそれがあります。また、ドライブへのショックなど本体異常や、メディアの状態などによっては処理が正常に行えず、書き込みに失敗することがあります。

- 書き込みに失敗した CD ／ DVD の損害については、当社は一切その責任を負いません。また、記憶内容の変化・消失など、CD ／ DVD に保存した内容の損害および内容の損失・消失により生じる経済的損害といった派生的損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- CD ／ DVD に書き込むときには、それぞれの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R に書き込むときには、それぞれの規格に準拠したメディアを使用してください。また、推奨するメーカのメディアを使用してください。

参照 CD ／ DVD について 「3 章 4 CD や DVD を使う」

- バッテリ駆動で使用中に書き込みを行うと、バッテリの消耗などによって書き込みに失敗するおそれがあります。必ず AC アダプタを接続して使用してください。
- 書き込みを行うときは、本製品の省電力機能が働かないようにしてください。また、スタンバイや休止状態を実行しないでください。

参照 省電力機能について 「6 章 バッテリ駆動で使う」

- 次に示すような、ライティングソフトウェア以外のソフトウェアは終了させてください。
  ・スクリーンセーバ
  ・ウイルスチェックソフト
  ・ディスクのアクセスを高速化する常駐型ユーティリティ
  ・音楽 CD や DVD の再生アプリケーション
  ・モデムなどの通信アプリケーション　　など
  ソフトウェアによっては、動作の不安定やデータの破損の原因となります。
- PC カードタイプのハードディスクドライブ、USB 接続などのハードディスクドライブなど、本製品の内蔵ハードディスク以外の記憶装置にあるデータを書き込むときは、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- LAN を経由する場合は、データをいったん本製品の内蔵ハードディスクに保存してから書き込みを行ってください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」は、パケットライト形式での記録機能は備えていません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して DVD-RAM にデータを書き込むことはできません。
- 本製品に付属している「TOSHIBA Disc Creator」を使用して DVD-Video、DVD-Audio を作成することはできません。

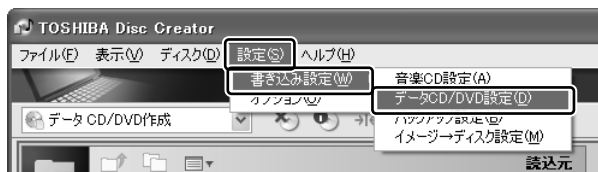
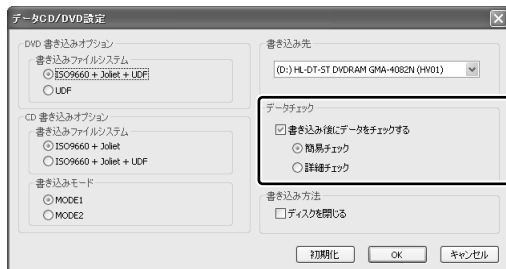
- 書き込み可能なDVDをバックアップする場合は、同じ種類の書き込み可能なDVDメディアでないとバックアップできない場合があります。詳細は「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプを参照してください。
- 著作権保護されているDVD-Videoを「TOSHIBA Disc Creator」を使用してバックアップを作成しても、作成されたメディアで映像を再生することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してCD-ROM、CD-R、CD-RWからDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rにバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用してDVD-ROM、DVD-Video、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+RからCD-R、CD-RWへバックアップを作成することはできません。
- 「TOSHIBA Disc Creator」を使用して、他のソフトウェアや、家庭用DVDビデオレコーダで作成したDVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rのバックアップを作成できないことがあります。
- DVD-R、DVD+Rにデータを追記した場合、そのDVD-R、DVD+Rを他のパソコンやドライブで読もうとしたとき、OSやドライブの制限により、記録されているすべての内容を読み出せないことがあります。Windows 98 SE＊1、Windows Me＊2などの16ビット系OSではDVD-R、DVD+Rメディアに追記されたデータを読むことはできません。Windows NT4.0＊3ではService Pack 6以降、Windows 2000＊4ではService Pack 2以降が必要です。また、DVD-ROMドライブ、DVD-ROM&CD-R/RWドライブの種類によっては追記したデータを読むことができないものがあります。

＊1　Microsoft® Windows®98 Second Edition operating system 日本語版を示します。
＊2　Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版を示します。
＊3　Microsoft® Windows NT® Workstation4.0 operating system 日本語版を示します。
＊4　Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版を示します。

## お願い　書き込みを行うにあたって

- タッチパッドを操作する、ウィンドウを開く、ユーザを切り替える、画面の解像度や色数の変更など、パソコン本体の操作を行わないでください。
- パソコン本体に衝撃や振動を与えないでください。
- 書き込み中は、周辺機器の取り付け／取りはずしを行わないでください。

参照　周辺機器について「5章 周辺機器を使って機能を広げよう」

- パソコン本体から携帯電話、および他の無線通信装置をはなしてください。
- 重要なデータについては、書き込み終了後、必ずデータが正しく書き込まれたことを確認してください。
- 「TOSHIBA Disc Creator」では、データが正常に書き込まれたことを確認（簡易チェック）するように設定されています。
  次の手順で確認できます。
  ① ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［Disc Creator］をクリックする
  ② ［データCD/DVD作成］をクリックする
  ③ メインウインドウで［設定］をクリックし、［書き込み設定］→［データCD/DVD設定］をクリックする

［データCD/DVD設定］画面が表示されます。
  ④ ［データチェック］で［書き込み後にデータをチェックする］がチェックされているか確認する

（表示例）

［簡易チェック］と［詳細チェック］を選択することができます。

## ① TOSHIBA Disc Creator

使用できるメディアは次のとおりです。

○：使用できる　×：使用できない

| CD-R | CD-RW | DVD-R | DVD-RW | DVD+R | DVD+RW | DVD-RAM |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ○ | ○ | ○＊1＊2 | ○＊1 | ○＊1＊3 | ○＊1 | × |

＊1 DVD-Video、DVD-Audioの作成はできません。また、DVD プレーヤなどで使用することはできません。
＊2 DVD-R DL を含みます。なお、DVD-R DL には追記ができません。
＊3 DVD+R DL を含みます。

### 1 CD／DVDにデータを書き込む

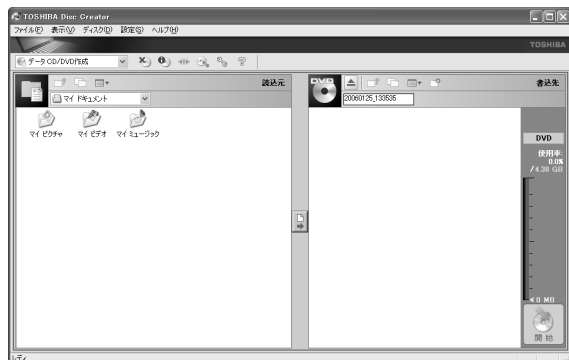
CD／DVD をドライブにセットして、バックアップしたいデータを書き込みます。
すでに「TOSHIBA Disc Creator」で作成したCD／DVD にデータを追加したい場合は、あらかじめ書き込みを始める前にCD／DVD をドライブにセットしてください。
すでに記録されているデータを消去してもよい場合や、データがない場合は手順5 でもセットできます。

参照 CD／DVD のセット 「3 章 4-④ CD／DVD のセットと取り出し」

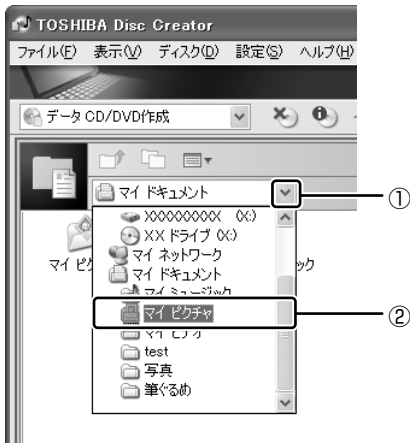
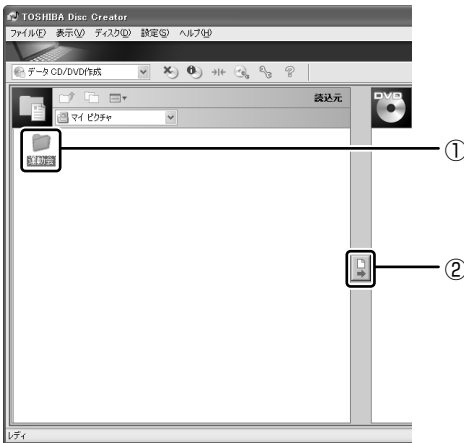
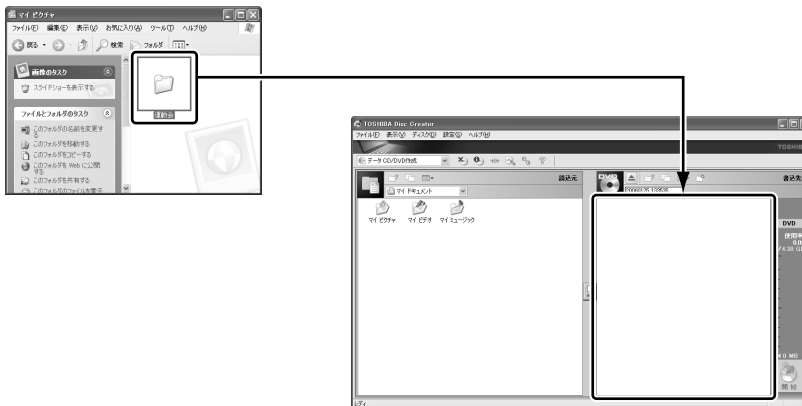
**1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVD アプリケーション］→［Disc Creator］をクリックする**

「TOSHIBA Disc Creator」の［Startup Menu］画面が表示されます。

**2 ［データ CD/DVD 作成］をクリックする**

メインウインドウが表示されます。

### 3 「書込先」にファイルを追加する

● 方法１　「読込元」でファイルを選択する

1. ボタンをクリックし①、記録するファイルやフォルダの保存先を選択する②

2. 記録するファイルやフォルダをクリックし①、［書き込み先にデータを追加する］ボタン（ ）をクリックする②

● 方法２　記録するファイルやフォルダを「書込先」にドラッグアンドドロップする

**4 「書込先」の［開始］ボタン（ ）をクリックする**

メッセージが表示されます。

**5 ［はい］ボタンをクリックする**

CD／DVDをセットしていない場合は、メッセージ画面が表示されます。CD／DVDをセットして、［OK］ボタンをクリックしてください。

参照 CD／DVDのセット「3章 4-④ CD／DVDのセットと取り出し」

書き込みが開始されます。
書き込みが終了すると、購入時の設定では元のデータと書き込んだCD／DVDのデータを比較します。

メッセージが表示され、メディアが自動的に出てきます。

もう一枚、同じCD／DVDを作成する場合は、［はい］をクリックしてください。

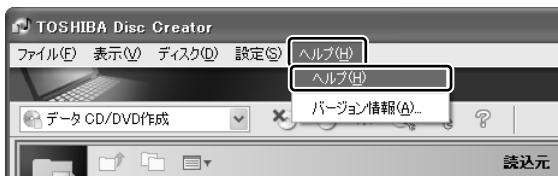
［追記ディスクへの書き込みが正常に終了しました。］というメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックしてください。

## ヘルプの起動方法

【方法1】

①［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVDアプリケーション］→［Disc Creatorヘルプ］をクリックする

【方法2】

①メインウインドウの［ヘルプ］をクリック→［ヘルプ］をクリックする

「TOSHIBA Disc Creator」のヘルプが表示されます。

参照 「TOSHIBA Disc Creator」の問い合わせ先「9章 4 問い合わせ先」

## ② TOSHIBA Direct Disc Writer

「TOSHIBA Direct Disc Writer」はCD／DVDにデータを書き込むことができるパケットライトソフトです。
使用できるメディアは次のとおりです。

○：使用できる　×：使用できない

| CD-R | CD-RW | DVD-R | DVD-RW | DVD+R | DVD+RW | DVD-RAM |
|---|---|---|---|---|---|---|
| × | ○＊1 | × | ○＊1 | × | ○＊1 | × |

＊1　新品のCD-RW、DVD-RW、DVD+RWを「TOSHIBA Direct Disc Writer」で使用するためには、あらかじめフォーマットが必要です。フォーマットする場合は、「TOSHIBA Direct Disc Writer Format Utility」を使用してください。

### お願い　「TOSHIBA Direct Disc Writer」を使うために

＊「TOSHIBA Direct Disc Writer」を使うには、下記以外にもお願い事項があります。
「本節 CD／DVDに書き込む前に」と合わせてご覧ください。

- CD／DVDをフォーマットすると、CD／DVD上のすべてのデータが失われます。内容を確認のうえ、フォーマットしてください。
- 「TOSHIBA Direct Disc Writer」はパケットライト形式での記録機能を備えたソフトです。「TOSHIBA Direct Disc Writer Format Utility」でフォーマット／書き込みしたメディアを他のパケットライトソフトでは使用しないでください。また、他のパケットライトソフトでフォーマット／書き込みしたメディアに、「TOSHIBA Direct Disc Writer」で書き込みは行わないでください。他のパケットライトソフトでフォーマットしたメディアを「TOSHIBA Direct Disc Writer」で使用する場合は、「TOSHIBA Direct Disc Writer Format Utility」で完全フォーマットを行ってから使用してください。
- ファイルやフォルダの「切り取り」→「貼り付け」は行わないでください。メディアやドライブに何らかの問題があった場合、もとのファイルやフォルダが消失することがあります。
- 「TOSHIBA Direct Disc Writer」で書き込んだDVD-RWメディアを「TOSHIBA Direct Disc Writer」がインストールされていないパソコンで読み出すには、DVD-RWメディアを「互換化」する必要があります。詳しくは「TOSHIBA Direct Disc Writer」のヘルプをご覧ください。DVD+RW、CD-RWメディアについては、「互換化」する必要はありません。
- 「TOSHIBA Direct Disc Writer Format Utility」でフォーマットされたメディア上にプログラムのセットアップファイルなどを保存し、そのメディア上からセットアップを実行しようとしたとき、エラーが発生することがあります。その場合は、セットアップに必要なファイルなどをいったんハードディスク上にコピーした状態で、ハードディスク上からセットアップを実行してください。

## 1 フォーマット方法

初めて「TOSHIBA Direct Disc Writer」で使用するDVD-RW、DVD+RW、CD-RWは、使用前にフォーマットが必要です。次の手順でフォーマットを行ってください。

### 1 フォーマットするCD／DVDをドライブにセットする

参照 CD／DVDのセット「3章4-④ CD／DVDのセットと取り出し」

### 2 ［スタート］→［マイ コンピュータ］をクリックする

### 3 CD／DVDをセットしたドライブのアイコンを右クリックする

### 4 表示されたメニューから［フォーマット］をクリックする

［TOSHIBA CD/DVD Format Utility］画面が表示されます。

（表示例）

### 5 ボリュームラベル名を指定する

### 6 フォーマットオプションを指定する

クイックフォーマットを選択すると、短時間でフォーマット処理が完了します。
初めて「TOSHIBA Direct Disc Writer Format Utility」でフォーマットする場合は、「クイック フォーマット」はできません。
「TOSHIBA Direct Disc Writer Format Utility」でフォーマット済みディスクを再フォーマットする場合は、［クイック フォーマット］を選択できます。

### 7 ［開始］ボタンをクリックする

メッセージが表示されます。

### 8 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

フォーマットが開始されます。
画面下のバーは進行状況を示しています。フォーマットが完了すると、メッセージが表示されます。

### 9 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをクリックする

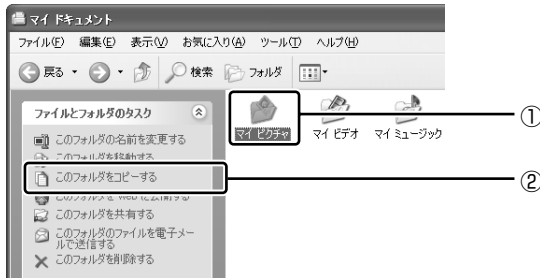
これで、フォーマットは完了です。

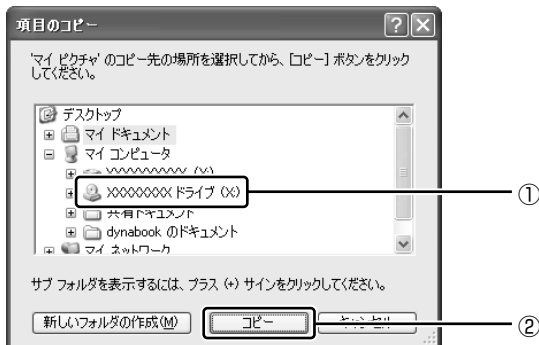
## 2 使用方法

**1 フォーマット済みのCD／DVDをセットする**

参照 CD／DVDのセット「3章4-④ CD／DVDのセットと取り出し」

**2 書き込みたいデータが保存してあるフォルダをクリックし①、［このフォルダをコピーする］をクリックする②**

①でファイルをクリックした場合は、②で［このファイルをコピーする］をクリックしてください。

［項目のコピー］画面が表示されます。

**3 CD／DVDのドライブをクリックし①、［コピー］ボタンをクリックする**

### ヘルプの起動方法

**1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［CD&DVD アプリケーション］→［Direct Disc Writer ヘルプ］をクリックする**

参照 「TOSHIBA Direct Disc Writer」の問い合わせ先 「9章4 問い合わせ先」

# 2 DVD-Videoを観る

本製品では、ドライブにDVD-Videoをセットして、迫力ある映像を楽しむことができます。
DVD-Video再生ソフトウェアとして、「InterVideo WinDVD（インタービデオ ウィンディーブイディー）」が用意されています。

## お願い　DVD-Videoの再生にあたって

- DVD-Videoの再生には、「InterVideo WinDVD」を使用してください。「Windows Media Player」やその他市販ソフトを使用してDVD-Videoを再生すると、表示が乱れたり、再生できない場合があります。このようなときは、「InterVideo WinDVD」を起動し、DVD-Videoを再生してください。
- DVD-Video再生ソフト「InterVideo WinDVD」は、Video CD、Audio CD、MP3の再生はサポートしていません。
- DVD-Video再生時は、なるべくACアダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリ駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD再生」プロファイルに設定してください。
- 使用するDVDディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- DVD-Videoを再生する前に、他のアプリケーションを終了させてください。また、再生中には他のアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。
  再生中に、常駐しているプログラムの画面やアイコンなどがちらつく場合は、「InterVideo WinDVD」を最大表示にしてください。
- Region（リージョン）コードは4回まで変更できますが、通常は出荷時のままご利用ください。出荷時の状態では、Regionコードが「2」に設定されておりますので、Regionコードが「2」または「ALL」のDVD-Videoをご使用ください。
- 外部ディスプレイまたはテレビに表示する場合は、再生する前にあらかじめ表示装置を切り替えてください。また、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイまたはテレビの拡張表示の設定では、外部ディスプレイまたはテレビに表示するための設定が必要です。

参照　表示装置の切り替え 「5章5 パソコンの画面をテレビに映す」

その他の注意については、「Readme」に記載しています。
「Readme」の起動は、［スタート］→［すべてのプログラム］→［InterVideo WinDVD］→［readme1st.txt］をクリックしてください。

## ① InterVideo WinDVDを起動する

「InterVideo WinDVD」を起動する方法は、次のとおりです。

**1 DVD-Videoをセットする**

アプリケーションを選択する画面が表示されます。

参照　DVDのセットについて 「3章4-④ CD／DVDのセットと取り出し」

アプリケーションを選択する画面が表示されない場合は、［マイ コンピュータ］でドライブのアイコンをダブルクリックしてください。
「InterVideo WinDVD」が起動します。

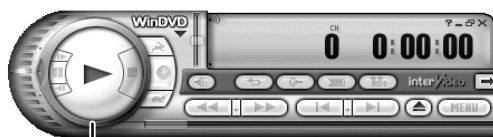
**2 ［DVDムービーの再生 InterVideo WinDVD使用］を選択し①、［OK］ボタンをクリックする②**

「InterVideo WinDVD」が起動します。

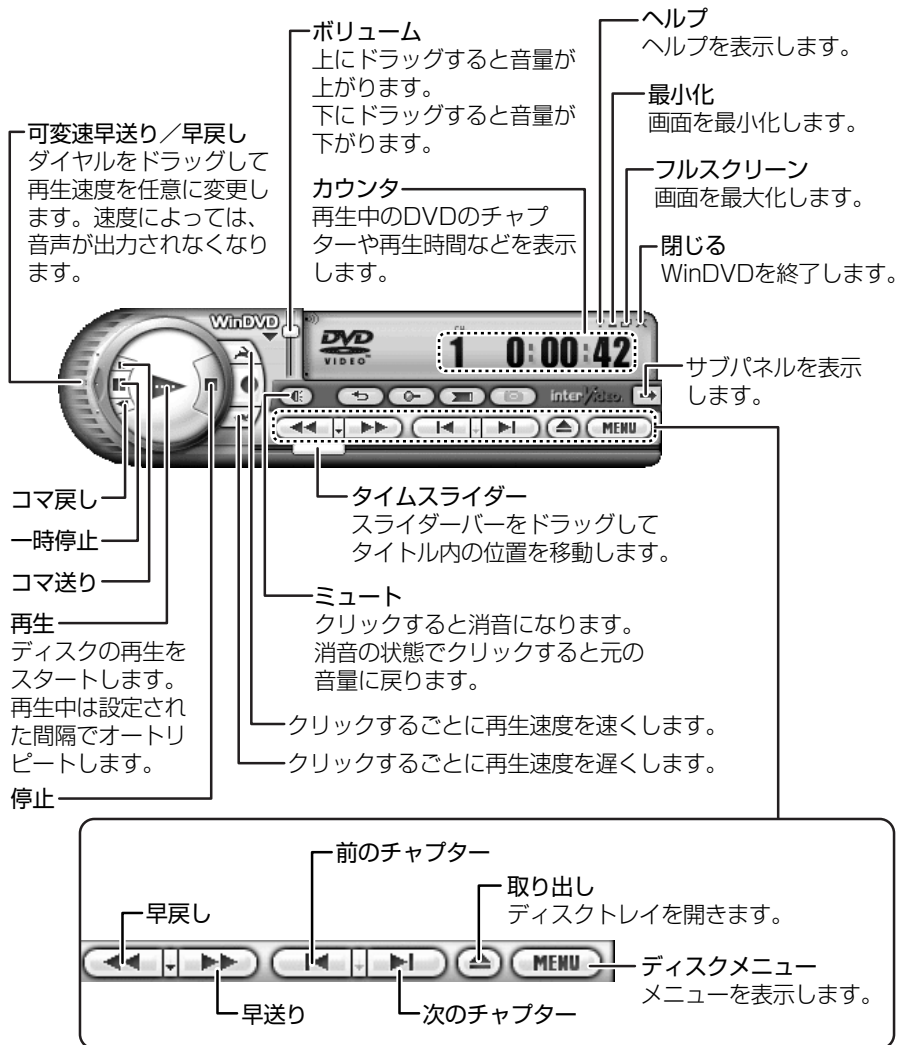
- ［スタート］メニューから「InterVideo WinDVD」を起動するには、［スタート］→［すべてのプログラム］→［InterVideo WinDVD］→［InterVideo WinDVD］をクリックしてください。

## ② InterVideo WinDVDを使う

「InterVideo WinDVD」を起動するとメインウィンドウとWinDVDコントロールパネルが表示されます。
再生するDVD-Videoによっては、表示が一部異なる場合があります。
また、操作ボタンの一部は機能に対応している場合のみ使用できます。

メインウィンドウ
ビデオを表示します。

WinDVDコントロールパネル
DVDの再生は、このパネルのボタンで操作します。
再生の操作でおもに使用するボタンについては、「本項 1 WinDVDコントロールパネル」を参照してください。

## 1 WinDVD コントロールパネル

DVD 再生のときは、おもに次のボタンを使用します。
各ボタンの詳細については、ヘルプを確認してください。

## 2 テレビまたは外部ディスプレイに表示する

パソコン本体にテレビまたは外部ディスプレイを接続して、DVD-Videoの再生画面を表示させることができます。
「InterVideo WinDVD」を起動する前に、表示装置を切り替えてください。
また、本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイに同時に表示させる場合は、設定が必要です。

参照 詳細について「5章 5 パソコンの画面をテレビに映す」
「5章 6 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す」

### ヘルプの起動方法

**1** WinDVD コントロールパネルの［ヘルプ］ボタン（ ? ）をクリックする

参照 「InterVideo WinDVD」の問い合わせ先「9章 4 問い合わせ先」

# マカフィー・ウイルススキャンによるウイルス対策

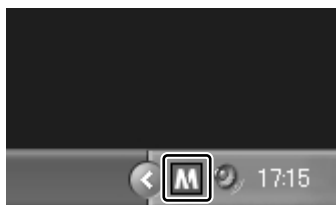
コンピュータウイルスの発見、駆除を行う「マカフィー・ウイルススキャン」と、インターネットからの不正なアクセスを防ぐ「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の２種類のアプリケーションで、コンピュータをインターネットの危険から保護します。
「マカフィー・ウイルススキャン」と「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」は、「マカフィー・セキュリティセンター（McAfee SecurityCenter）」で設定の変更や、状況の確認を行うことができます。

## ① ウイルスチェックの方法

「マカフィー・ウイルススキャン」または「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」がインストールされていると、「マカフィー・セキュリティセンター」のアイコンが通知領域に表示されます。「マカフィー・セキュリティセンター」から、「マカフィー・ウイルススキャン」や「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の操作や起動、設定を変更することができます。

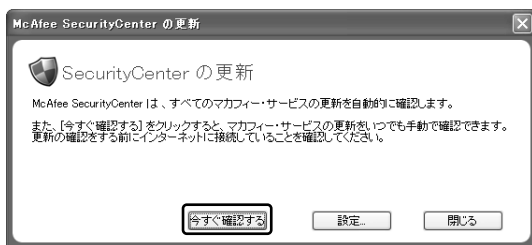
### 1 最新の対策法を手に入れる

コンピュータウイルスは、次々と新しいものが出現します。ウイルスチェックは「マカフィー・サービス」の定義ファイルに基づいて行います。最新のコンピュータウイルスに対応できるように「マカフィー・サービス」をダウンロード／インストールする必要があります。
更新は自動で行えますが、ここでは手動で行う方法を説明します。
更新はインターネットに接続して行います。あらかじめインターネットに接続できる準備をしてください。

**1 通知領域の［McAfee SecurityCenter］アイコンをダブルクリックする**

［McAfee SecurityCenter］画面が表示されます。

**2 ［更新］（ ）をクリックする**

［McAfee SecurityCenter の更新］画面が表示されます。

## 3 ［今すぐ確認する］ボタンをクリックする

以降は、表示される画面の指示に従って操作してください。

## 2 ウイルスをチェックする

インストール直後は必ずウイルススキャンを行い、パソコン内のコンピュータウイルスの検索と駆除を行ってください。ウイルススキャンは、次の手順で行います。

### 1 ［McAfee SecurityCenter］画面の［virusscan］タブをクリックする

### 2 ［コンピュータをスキャンする］をクリックする

［McAfee VirusScan － スキャン］画面が表示されます。

### 3 ［スキャンする場所］でウイルススキャンしたい場所をクリックする

### 4 ［スキャン］ボタンをクリックする

［McAfee VirusScan － スキャン中］画面に切り替わり、ウイルススキャンを開始します。
スキャンが終了し、ウイルスが発見されなかった場合、［VBScript：McAfee VirusScan － スキャンの概要］画面が表示されます。

### 5 ［OK］ボタンをクリックする

### 6 ［閉じる］ボタンをクリックする

## 3 ソフトの状態を確認しよう

### 1 通知領域の［McAfee SecurityCenter］アイコン（ M ）をダブルクリックする

「マカフィー・ウイルススキャン」または「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」に問題がある場合は、アイコンが黒（ M ）で表示されます。「マカフィー・セキュリティセンター」を確認するか、更新を行ってください。

［McAfee SecurityCenter］画面が表示されます。

## 役立つ操作集

**「マカフィー・セキュリティセンター」のアイコン（ M ）**

「マカフィー・セキュリティセンター」のアイコンが通知領域に表示されていない場合は、［スタート］→［すべてのプログラム］→［McAfee］→［McAfee SecurityCenter］をクリックしてください。

## マカフィー・セキュリティセンターのヘルプの起動方法

### 1 「マカフィー・セキュリティセンター」を起動後、［ヘルプ］（ ? ）をクリックする

［McAfee SecurityCenter のヘルプ］が表示されます。

**お願い**

- コンピュータウイルスは、次々と新しい種類が出現します。マカフィー・サービスの更新を行って、常に最新のウイルス定義ファイルをダウンロードしておいてください。
  マカフィー・サービスの更新に関しては、マカフィー・セキュリティセンターのヘルプをご覧ください。
- 本製品に添付されている「マカフィー・ウイルススキャン」／「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の有効期限は、使用開始から90日間です。
  期限が切れてしまうと、更新などの機能が使用できなくなり最新のウイルスに感染するおそれがあります。
  期限終了後は期限切れのメッセージが表示されますので、メッセージに従い、更新サービス（有償）をお申し込みいただくことでサービスを継続延長することができます。

参照 「マカフィー・ウイルススキャン」／「マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス」の問い合わせ先
「9章 4 問い合わせ先」

# スパイウェアからパソコンを守る

## – ファイナルストッパー 2006 AntiSpy –

インターネットを通じてパソコンに入り込み、情報（氏名やパスワードなどの個人情報やホームページの閲覧履歴など）を第三者に転送する危険なプログラムのことを「スパイウェア」と呼びます。「ファイナルストッパー 2006 AntiSpy」を使って、スパイウェアの検出と削除、予防することができます。

**お願い** 使用期限について

- 本製品に添付されている「ファイナルストッパー 2006 AntiSpy」は、初回起動時より 90 日間の使用期限があります。期限が切れてしまうとスパイウェアの駆除と予防ができなくなります。使用期限が切れたあとも継続して使用するためには、インターネットで購入手続きをし、アクティベーション（ライセンス認証）をしてください。購入手続きは、［今すぐ購入］ボタンをクリックして表示される画面で行います。

### 1 インストールする

「ファイナルストッパー 2006 AntiSpy」は、購入時の状態ではインストールされていません。次の手順でインストールしてください。

**1 デスクトップ上の［AOS アンチスパイ］アイコン（ ）をダブルクリックする**

以降は、表示される画面の指示に従って操作してください。
［使用許諾契約］画面では、内容を確認し、［使用許諾契約の全条項に同意します］をチェック（ ）してください。
契約に同意しなければ、「ファイナルストッパー 2006 AntiSpy」を使用することはできません。

**メモ**

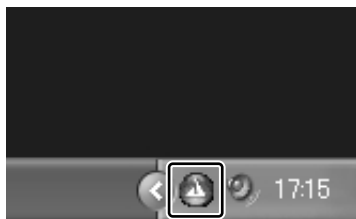
- 以降は Windows を起動すると自動的に起動し、通知領域に［ファイナルストッパー 2006 AntiSpy］アイコン（ ）が表示されます。

### 2 最新の対策法を手に入れる

スパイウェアは、次々と新しいものが出現します。スパイウェアの検出は、定義ファイルに基づいて行いますので、最新のスパイウェアに対応した定義ファイルを入手する必要があります。
定義ファイルの更新は、インターネットに接続して行います。あらかじめインターネットに接続する設定を行ってから操作を始めてください。

**メモ**

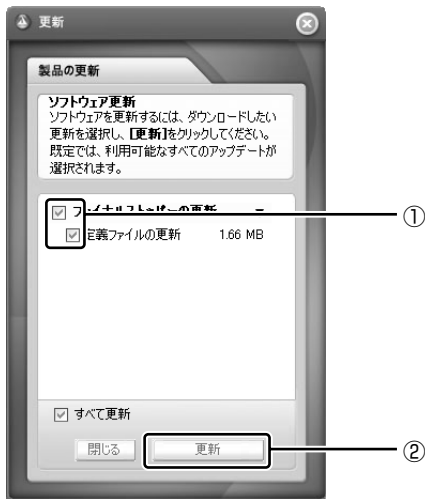
- 操作の途中で、インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。

**1 ［ファイナルストッパー 2006 AntiSpy］アイコンをダブルクリックする**

［ファイナルストッパー 2006 AntiSpy］画面が表示されます。

**2 ［更新］ボタン（ ）をクリックする**

［更新］画面が表示されます。

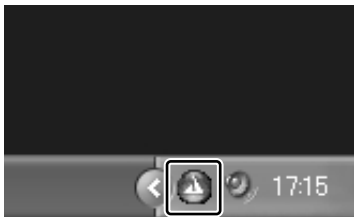
**3** **ダウンロードしたい項目をチェックし①、[更新]ボタンをクリックする②**

すでに最新の定義ファイルがインストールされている場合は、「ご利用可能な更新は現在ありません。」と表示されます。その場合は、[OK]ボタンをクリックしてください。

チェックしたファイルをダウンロードし、自動的にインストールします。ファイルの更新が終わると、[更新が完了しました！]と表示されます。

**4** **[閉じる]ボタンをクリックする**

## 3 スパイウェアを検出する

スパイウェアの検出は、次の手順で行います。

**1** **[ファイナルストッパー 2006 AntiSpy]アイコンをダブルクリックする**

[ファイナルストッパー 2006 AntiSpy]画面が表示されます。

**2** **[ファイナルストッパー 2006 AntiSpy]画面左上の[スパイウェア]アイコンをクリックする**

【 初めて[スパイウェア]アイコンをクリックしたとき 】
[設定ウィザード]画面が表示されます。
画面の指示に従って、検出(スキャン)設定を行ってください。

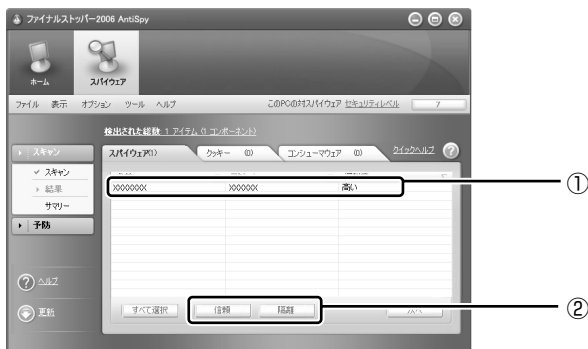
検出設定は、あとから変更することもできます。
[ファイナルストッパー 2006 AntiSpy]画面ツールバーの[オプション]をクリックして表示されたメニューから目的の項目をクリックしてください。

## 3 ［今すぐスキャン］ボタンをクリックする

スパイウェアの検出を開始します。
検出が完了すると結果画面が表示されます。

## 4 検出されたファイルを分類する

検出されたファイルを分類します。分類せずに［ファイナルストッパー2006 AntiSpy］画面を閉じると、スパイウェアは除去されず、次に検出したときに同じファイルがまた検出されます。

### 1 ファイルを選択し①、処理を選択する②

【 信頼 】
インストールした覚えのあるファイルや、パソコンに危害のないものだとわかっているファイルの場合は、こちらに分類します。

【 隔離 】
インストールした覚えがないファイルや、一般的にウイルスやスパイウェアとされているファイルで除去したい場合は、こちらに分類します。
パソコン内にデータは残った状態ですが、パソコンに危害を与えることはなくなります。

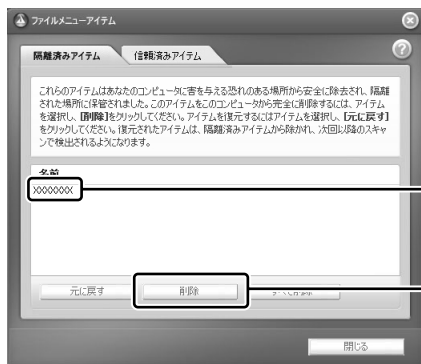
「隔離」を選択した場合は、その後パソコンが問題なく使用できるか、動作を確認してください。問題がない場合は、除去することをおすすめします。

## ファイルを除去する

疑わしいファイルが検出されたときは、除去することをおすすめします。ただし、見慣れないファイル名でも、パソコンの動作に必要なファイルの場合もありますので、いったんシステムに影響のないエリアに移動（隔離）し、その後パソコンが問題なく使用できることを確認したうえで除去してください。

**1　ツールバーの［表示］→［隔離済みアイテムを見る］をクリックする**

［ファイルメニューアイテム］画面が表示されます。

**2　一覧から除去するファイルを選択し①、［削除］ボタンをクリックする②**

［すべて削除］ボタンをクリックすると、表示されているファイルすべてを削除することができます。

選択したファイルがパソコンから除去されます。

**3　［閉じる］ボタンをクリックする**

- 検出されたファイルを隔離した結果、パソコンの動作に不具合が生じた場合は、手順２で［元に戻す］ボタンをクリックします。

## ヘルプの起動

**1　［ファイナルストッパー2006 AntiSpy］画面で［ヘルプ］ボタン（ ? ）をクリックする**

参照　「ファイナルストッパー2006 AntiSpy」の問い合わせ先 「9章4 問い合わせ先」

# 便利なアプリケーション

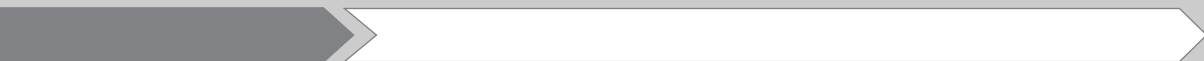
本製品に他にも便利なアプリケーションが添付されています。各アプリケーションの詳細について知りたいときは、アプリケーションを起動後、アプリケーションのヘルプを確認してください。
本製品のアプリケーションに対する質問については、各アプリケーションのサポート窓口に問い合わせてください。

参照 「9章4 問い合わせ先」

【 gooスティック 】
「gooスティック」は「英和・和英・国語」などの辞書検索や、ニュースサイト検索など、インターネットを利用したgooの検索機能を利用できるツールバーです。
Internet Explorerのツールバーに表示されています。
詳細は、「gooスティック」のヘルプを確認してください。

# 8章

# システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな
環境を設定する方法について説明しています。

# 1 システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。
システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2 つの方法があります。
通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

| 変更できる項目 | | Windows 上のユーティリティ |
|---|---|---|
| ハードウェア環境（パソコン本体）の設定 | | 「東芝 HW セットアップ」<br>参照 「本章 2 東芝 HW セットアップを使う」 |
| パスワード<br>セキュリティの設定 | ユーザパスワード | 「東芝 HW セットアップ」の［パスワード］タブ<br>参照 「本章 4-①-1 ユーザパスワード」 |
| | スーパーバイザ<br>パスワード | 「スーパーバイザパスワードユーティリティ」<br>参照 「本章 4-①-2 スーパーバイザパスワード」 |
| 省電力の設定 | | 「東芝省電力」<br>参照 「6 章 2 省電力の設定をする」 |

【 BIOS セットアップについて 】
BIOS セットアップは、モデルによって異なります。ご使用のパソコンにあった説明をご覧ください。

 「本章 3 BIOS セットアップを使う」

# 東芝HWセットアップを使う

「東芝HWセットアップ」は、BIOSセットアップと連動してWindows上でハードウェアの各種機能を設定するユーティリティです。
複数のユーザで使用する場合も、設定内容は全ユーザで共通になります。

## 1 起動方法

**1** ［コントロールパネル］を開き、［ プリンタとその他のハードウェア］をクリック→［ 東芝HWセットアップ］をクリックする

### 詳しい操作方法を知りたいとき（ヘルプの起動）

**1** 「東芝HWセットアップ」を起動後、画面右上の ? をクリックする

ポインタが ?に変わります。

**2** 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

8章
システム環境の変更

# BIOS セットアップを使う

BIOS（バイオス）セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。
次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続コネクタ）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定

**お願い** BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリ（時計用バッテリ）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

## ① 起動と終了／BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップの起動と終了、基本操作について説明します。

### 1 起動方法

**1 キーボードの(F2)キーを押しながら電源スイッチを押し、「TOSHIBA」画面が表示されてから手をはなす**

パスワードを設定している場合は、画面の指示に従って登録したパスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。

参照 パスワードについて 「本章 4 パスワードセキュリティ」

BIOS セットアップが起動します。
起動できなかった場合は、通常の終了操作を行ってパソコン本体の電源を切り、手順 1 をやり直してください。

### 2 終了方法

**1 ［終了］メニューを表示する**

**2 終了方法を選択する**

**3 画面の指示に従って BIOS セットアップを終了する**

Windows が起動します。

## 3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

| | |
|---|---|
| メニューを選択する | ←または→<br>上段のメニュー名が反転している部分が現在表示しているメニュー画面です。 |
| 変更したい項目を選択する | ↑または↓<br>画面の中で反転している部分が現在変更できる項目です。 |
| サブメニューや設定値の一覧を表示する | Enter |
| 項目の内容を変更する | Space、F5、F6 |
| 設定内容を標準値にする | F9<br>「デフォルト値をロードしますか？」というメッセージが表示されます。<br>「はい」を選択し、Enterキーを押してください。<br>パスワードはこの操作をしても削除されません。 |
| 設定を保存し、BIOS セットアップを終了する | F10<br>「設定の変更を保存して終了しますか？」というメッセージが表示されます。<br>保存する場合は「はい」を選択し、Enterキーを押してください。<br>BIOS セットアップ終了後、Windows が起動します。<br>保存しない場合は「いいえ」を選択し、Enterキーを押してください。 |
| ［終了］メニューを表示する | Esc<br>サブメニュー表示中は 1 つ前の画面に戻ります。 |
| BIOS セットアップのヘルプを表示する | F1 |

以上のキー操作で、各項目を設定してください。

# 4 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の３種類があります。

- Windows のログオンパスワード
  Windows にログオンするとき
  インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

参照 インスタントセキュリティ機能 「3 章 2-②- Fn キーを使った特殊機能キー」

- ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード
  電源を入れたときや休止状態から復帰するとき
  ユーザパスワードやスーパーバイザパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。通常はユーザパスワードを登録してください。
  スーパーバイザパスワードは、パソコン本体の環境設定を管理する人が使用します。スーパーバイザパスワードを登録すると、スーパーバイザパスワードを知らないユーザは、BIOS セットアップの設定を変更できないようにする、などいくつかの制限を加えることができます。この制限を加える必要がなければ、ユーザパスワードだけ登録してください。
- HDD パスワード
  ハードディスクを起動するとき

ここでは、ユーザパスワード／スーパーバイザパスワードや HDD パスワードの設定方法について説明します。

**メモ**

- スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。
- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

**お願い**

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、近くの保守サービスに依頼してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は有償です。HDD パスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合も有償です。またどちらの場合も、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

## パスワードとして使用できる文字

ユーザパスワード、スーパーバイザパスワード、HDD パスワードに使用できる文字は次のとおりです。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

<table>
<tr><td rowspan="3">使用できる文字</td><td>アルファベット（半角）</td><td>A B C D E F G H I J K L M N<br>O P Q R S T U V W X Y Z</td></tr>
<tr><td>数字（半角）</td><td>0 1 2 3 4 5 6 7 8 9</td></tr>
<tr><td>記号の一部（半角）</td><td>- = [ ] ; ' , . / ` & ˜ （スペース）</td></tr>
<tr><td>使用できない文字</td><td colspan="2">・全角文字（2バイト文字）<br>・日本語入力システムの起動が必要な文字<br>【例】漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号など<br>・記号の一部（半角）<br>【例】｜（バーチカルライン）、￥（エン）など</td></tr>
</table>

# ① 東芝 HW セットアップでの設定方法

ユーザパスワードは、「東芝 HW セットアップ」で設定することをおすすめします。

## 1 ユーザパスワード

### ユーザパスワードの登録

**1** ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

**2** ［ プリンタとその他のハードウェア］をクリック→［ 東芝 HW セットアップ］をクリックする

**3** ［パスワード］タブで［ユーザパスワード］の［登録］をチェックする

ユーザパスワードが登録されている場合は、［登録］にチェックがついています。その場合は、ユーザパスワードを削除してから登録してください。

参照 ユーザパスワードの削除 「本項 1- ユーザパスワードの削除」

**4** ［パスワード］画面の［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする

パスワードは８文字以内で入力できます。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは「＊＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。よく確認してから入力してください。
アルファベットの大文字と小文字は区別されません。

**5** ［パスワード認証］画面の［パスワードの確認］に同じパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする

**6** 表示されるメッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

### ユーザパスワードの削除

**1** ［スタート］→［コントロールパネル］をクリックする

**2** ［ プリンタとその他のハードウェア］をクリック→［ 東芝 HW セットアップ］をクリックする

**3** ［パスワード］タブで［ユーザパスワード］の［未登録］をチェックする

**4** ［パスワード］画面の［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをクリックする

パスワードが削除されます。

パスワードの入力エラーの場合は、もう１度手順２から操作を行ってください。

**5** 表示されるメッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする

### ユーザパスワードの変更

ユーザパスワードを削除してから、登録を行ってください。

参照 ユーザパスワードの削除と登録について 「本項 1- ユーザパスワードの削除」、「本項 1- ユーザパスワードの登録」

### 2 スーパーバイザパスワード

「スーパーバイザパスワードユーティリティ」で、Windows 上からスーパーバイザパスワードの設定や設定の変更ができます。

**メモ**

- スーパーバイザパスワードとユーザパスワードでは、違うパスワードを使用してください。

#### 起動方法

1. ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする
2. 「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥Windows Utilities¥SVPWUTIL.exe」と入力する
3. ［OK］ボタンをクリックする

   詳しくは、「README.HTM」を参照してください。

#### 「README.HTM」の起動方法

1. ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする
2. 「C:¥Program Files¥TOSHIBA¥Windows Utilities¥SVPWTool¥README.HTM」と入力する
3. ［OK］ボタンをクリックする

## ② BIOS セットアップでの設定方法

#### パスワードの登録

1. BIOS セットアップを起動する
2. ［セキュリティ］メニューを表示する

   パスワードが登録されている場合は、［ユーザパスワードは］または［スーパバイザパスワードは］に「設定」と表示されます。
3. カーソルバーを［ユーザパスワード設定］または［スーパバイザパスワード設定］の［Enter］に合わせ、Enterキーを押す

   パスワード設定画面が表示されます。
4. ［新しいパスワードを入力して下さい。］にパスワードを入力する

   パスワードは 8 文字以内で入力します。

   参照 パスワードに使用できる文字 「本節 - パスワードとして使用できる文字」

   入力したパスワードはセキュリティ保護のため、表示されません。よく確認してから入力してください。
   アルファベットの大文字と小文字は区別されません。
5. Enterキーを押す

   ［新しいパスワードを確認して下さい。］にカーソルバーが移動します。
6. もう 1 度新しいパスワードを入力する

   パスワードは手順 4 と同じパスワードを入力してください。

**7 Enterキーを押す**

［セットアップ通知］画面が表示されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。
Enterキーを押して、手順4からやり直してください。

**8 Enterキー押す**

パスワードが設定され、登録した［ユーザパスワードは］または［スーパバイザパスワードは］に「設定」と表示されます。

**メモ**

- ここで設定したパスワードは、パソコンまたはBIOSセットアップを起動する場合に使用します。インスタントセキュリティ状態を解除する場合はWindowsのログオンパスワードを使用します。

## パスワードの変更／削除

**1 BIOSセットアップを起動する**

パスワード入力画面が表示されます。

**2 パスワードを入力し、Enterキーを押す**

スーパーバイザパスワードを変更／削除する場合は、スーパーバイザパスワードを入力してください。スーパーバイザパスワードを入力すると、変更／削除できるのはスーパーバイザパスワードのみです。ユーザパスワードを変更／削除する場合は、ユーザパスワードを入力してください。ユーザパスワードを入力すると、変更／削除できるのはユーザパスワードのみです。

**3 ［セキュリティ］メニューを表示する**

**4 カーソルバーを、削除する［ユーザパスワード設定］または［スーパバイザパスワード設定］の［Enter］に合わせ、Enterキーを押す**

**5 ［現在のパスワードを入力して下さい。］に登録してあるパスワードを入力する**

パスワードは画面で確認できません。

**6 Enterキーを押す**

入力したパスワードが登録されているパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。Enterキーを押してもう1度入力してください。
パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、自動的に電源が切れます。パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

**7 ［新しいパスワードを入力して下さい。］に新しいパスワードを入力する**

パスワードを削除する場合は、何も入力しません。

**8 Enterキーを押す**

**9 ［新しいパスワードを確認して下さい。］に手順7と同じパスワードを入力する**

パスワードを削除する場合は、何も入力しません。
入力したパスワードが手順7で入力したパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。
Enterキーを押して手順7からやり直してください。

**10 Enterキーを押す**

［セットアップ通知］画面が表示されます。

**11 Enterキーを押す**

パスワードが変更されます。
新しいパスワードを入力しなかった場合はパスワードが削除され、［ユーザパスワードは］または［スーパバイザパスワードは］に「クリア」と表示されます。

## ③ HDD パスワード

HDD パスワードは、ハードディスクを保護するセキュリティ機能です。
HDD パスワードの登録、削除、変更などの設定は、BIOS セットアップで行います。

### 1 注意事項

登録したパスワードの内容は、メモをとるなどして、安全な場所に保管しておくことを強くおすすめします。

**お願い**

- 万一、登録したパスワードを忘れた場合、修理・保守対応ではパスワードを解除できません。この場合、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、ハードディスクドライブの交換対応となります。この場合、有償での交換となります。
  ハードディスクドライブが使用できなくなったことによる、お客様またはその他の個人や組織に対して生じた、いかなる損失に対しても、当社は一切責任を負いません。
  HDD パスワードの設定については、この点を十分にご注意いただいた上でご使用ください。

### 2 HDD パスワードの種類

HDD パスワードは、HDD ユーザパスワードと HDD マスタパスワードの 2 つを設定することが可能です。

【 HDD ユーザパスワード 】
各パソコンの使用者自身が設定することを想定したパスワードです。
HDD マスタパスワードを削除すると、同時に HDD ユーザパスワードも削除されます。

【 HDD マスタパスワード 】
管理者などがパソコン本体の環境設定を管理／保守するために設定することを想定したパスワードです。
HDD マスタパスワードは HDD ユーザパスワードの代わりに使えます。HDD ユーザパスワードを忘れた場合でも、HDD マスタパスワードを入力してハードディスクドライブにアクセスできます。HDD マスタパスワードを使用して HDD ユーザパスワードを変更することもできます。
なお、HDD マスタパスワードのみを登録することはできません。

組織などで HDD マスタパスワードを用いた運用を検討した場合、各パソコンのユーザに対してパソコン本体を配布する前に、あらかじめ管理者が BIOS セットアップで HDD マスタパスワードと仮の HDD ユーザパスワードを設定しておく必要があります。

HDD ユーザパスワードと HDD マスタパスワードの登録、削除方法は同じです。以降は、HDD ユーザパスワードの設定を例に説明しています。

### 3 HDD パスワードの登録

HDD マスタパスワードの項目は、BIOS セットアップの「HDD パスワードモード」が「マスタ+ユーザ」の場合のみ表示されます。
「マスタ+ユーザ」の場合は、HDD マスタパスワードを設定し、続けて HDD ユーザパスワードの設定を行います。

**1** **BIOS セットアップを起動する**

**2** **［セキュリティ］メニューを表示する**

**3** **カーソルバーを［ユーザパスワード］の［Enter］に合わせ、Enterキーを押す**

カーソルが［新しいパスワードを入力して下さい。］に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

**4** **パスワードを入力する**

パスワードは 8 文字以内で入力します。

参照 ユーザパスワードに使用できる文字 「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは 1 文字ごとに［■］が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

**5 Enterキーを押す**

カーソルが［新しいパスワードを確認して下さい。］に移動します。

**6 パスワードを入力する**

確認のため、手順４と同じパスワードをもう１度入力してください。

**7 Enterキーを押す**

［セットアップ通知］画面が表示されます。２回目のパスワードが１回目のパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。Enterキーを押して、手順４からやり直してください。

**8 Enterキーを押す**

パスワードが設定され、［HDD パスワード］に「登録済み」と表示されます。

**9 ［終了］メニューから［変更を保存する］に合わせ、Enterキーを押す**

［セットアップ確認］画面が表示されます。

**10 Enterキーを押す**

設定した内容を保存します。

**11 電源スイッチを押す**

パソコン本体の電源を切った後、パソコンを起動すると、設定したHDD パスワードが有効になります。

## 4 HDD パスワードの削除

**1 BIOS セットアップを起動する**

**2 ［セキュリティ］メニューを表示する**

**3 カーソルバーを［ユーザパスワード］の［Enter］に合わせ、Enterキーを押す**

カーソルが［現在のパスワードを入力して下さい。］に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

**4 登録してあるパスワードを入力する**

入力すると１文字ごとに［■］が表示されます。

**5 Enterキーを押す**

カーソルが［新しいパスワードを入力して下さい。］に移動します。
入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。手順４からやり直してください。

**6 Enterキーを押す**

ここでは何も入力しません。カーソルが［新しいパスワードを確認して下さい。］に移動します。

**7 Enterキーを押す**

ここでは何も入力しません。
パスワードが削除されます。

**8 ［終了］メニューから［変更を保存して終了する］に合わせ、Enterキーを押す**

［セットアップ確認］画面が表示されます。

**9 Enterキーを押して、BIOS セットアップを終了する**

［HDD パスワードモード］で［マスタ+ユーザ］を選択した場合は、HDD マスタパスワードの削除を行うと、同時にHDD ユーザパスワードも削除されます。HDD ユーザパスワードのみを削除することはできません。

### 5 HDDパスワードの変更

**1** BIOS セットアップを起動する

**2** ［セキュリティ］メニューを表示する

**3** カーソルバーを［ユーザパスワード］の［Enter］に合わせ、Enterキーを押す

カーソルが［現在のパスワードを入力して下さい。］に移動し、パスワードが入力できる状態になります。

**4** 登録してあるパスワードを入力する

入力すると 1 文字ごとに［■］文字が表示されます。

**5** Enterキーを押す

カーソルが［新しいパスワードを入力して下さい。］に移動します。手順 4 で入力したパスワードが正しくない場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。手順 4 からやり直してください。

**6** 新しいパスワードを入力し、Enterキーを押す

カーソルが［新しいパスワードを確認して下さい。］に移動します。

**7** 手順6で入力したパスワードをもう 1 度入力し、Enterキーを押す

パスワードが設定され、［HDD パスワード］に「登録済み」と表示されます。
2 回目のパスワードが 1 回目のパスワードと異なる場合は、［セットアップ警告］画面が表示されます。Enterキーを押して、手順 4 からやり直してください。

**8** ［終了］メニューから［変更を保存して終了する］に合わせ、Enterキーを押す

［セットアップ確認］画面が表示されます。

**9** Enterキーを押して、BIOS セットアップを終了する

## ④ パスワードの入力

パスワードが設定されている場合、パソコンまたは BIOS セットアップ起動時にパスワード入力画面が表示されます。
この場合は、次の手順を行ってパソコンまたは BIOS セットアップを起動します。

**1** 設定したとおりにパスワードを入力し、Enterキーを押す

Numeric Mode ▦ LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
パスワードの入力ミスを 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

【 HDD パスワード 】
HDD パスワードが設定されている場合、電源を入れると「HDD パスワードを入力して下さい。」と表示されます。
この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。

**1** 設定したとおりにHDDパスワードを入力し、Enterキーを押す

Numeric Mode ▦ LED は、パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。
HDD パスワードの入力ミスを 3 回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

**メモ**

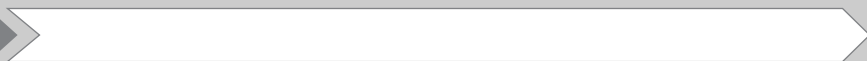
- パスワードと HDD パスワードの両方を設定してある場合は、パスワード→ HDD パスワードの順に認証が求められます。ただし、パスワードと HDD パスワードが同一の文字列の場合は、パスワードの認証終了後、HDD パスワードの認証は省略されます。
- BIOS セットアップの設定を変更する場合は、スーパーバイザパスワードを入力して起動してください。ユーザパスワードを入力して起動すると、変更できる項目に制限があります。

### 1 パスワードを忘れてしまった場合

パスワードを忘れてしまった場合は、近くの保守サービスに相談してください。パスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

# 9章

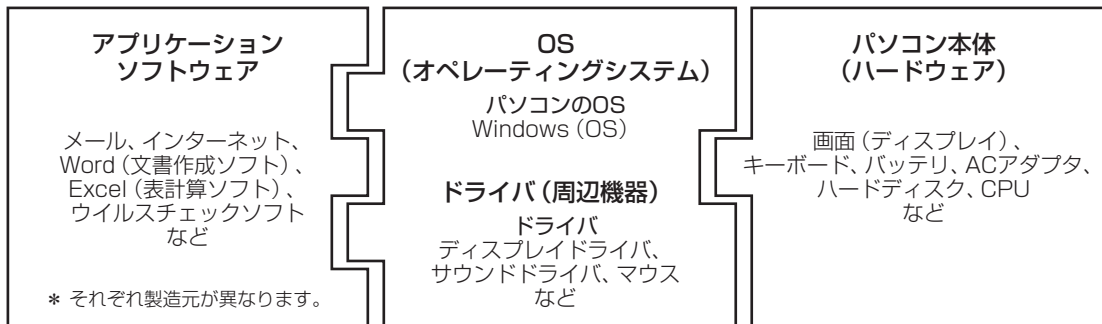
# パソコンの動作がおかしいときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。
「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。
トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

# トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

## ① トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

【 パソコンを構成する３つの部分 】

パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状にあわせた対処をすることが解決への早道です。
トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→ OS、ドライバ→パソコン本体の順にチェックします。

### STEP 1　アプリケーションソフトウェアのチェック

例１：メールやインターネットがつながらない
アクセスポイントやメールサーバ、ID、パスワードなどの設定を確認します。これらの設定は契約プロバイダごとに異なります。契約プロバイダから指定された設定データが正しくパソコンの設定に反映されているかを確認してください。

例２：使いかたがわからない
同梱されているマニュアルやオンラインマニュアルを読んで、アプリケーションソフトの使いかたを確認します。

次頁A へ

### STEP 2　OS やドライバのチェック

例３：正常に画面が表示されない、音が出ない、設定があっているのにインターネットにつながらない

例４：青い画面で「STOPOX********」（一般に「STOP エラー」や「ブルースクリーン」「ブルーパニック」とよばれる画面）が表示された
周辺機器やソフトをインストールしたあとに起こることが多いものです。その前に行った作業を一度元に戻すことでトラブルが解決する場合が少なくありません。

次頁B へ

### STEP 3　パソコン本体のチェック

例５：電源ランプが点灯せず、パソコンがまったく動かない。ドライバを入れ直しても機器が動かない
パソコン本体が動作する場合は、「リカバリ（再セットアップ）」を行ってください。「リカバリ」は、ハードディスクのデータが消えるため、バックアップを行うことをおすすめします。

次頁C へ

## A 各アプリケーションのトラブル解消法／プロバイダへのお問い合わせ

例 1： プロバイダへのお問い合わせについて
お客様ご契約のプロバイダの窓口へお問い合わせください。
プロバイダサインアップソフトから契約できるプロバイダのお問い合わせ先は「本章 4-③ プロバイダの問い合わせ先」を参照してください。

例 2： アプリケーションの使いかたについて
「7 章 アプリケーションについて」や、各アプリケーションのヘルプをご確認いただくか、各アプリケーションのサポート窓口へお問い合わせください。

参照 「本章 4 問い合わせ先」

## B OS、ドライバのトラブル解消法

例 3： ドライバの入れ直しについて
「5 章 1-① ドライバをインストールする」を参照してください。

例 4： トラブル解消によく使う操作について
「本章 2 トラブル解消によく使う操作」を参照してください。

例 4： 周辺機器の取りはずしについて
「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」を参照してください。

追加した周辺機器をはずしてみてはどうか、追加したソフトを削除してはどうかなどと試してみてください。

それでもトラブルが解消しない場合には、「東芝 PC あんしんサポート」へお問い合わせください。

参照 「本節 ③ 電話で問い合わせる」

## C パソコン本体のトラブル解消法

例 5：必要なデータのバックアップをとる操作について
「7 章 1 CD ／ DVD にデータのバックアップをとる」を参照してください。

例 5：リカバリについて
「10 章 リカバリをする」を参照してください。

それでもトラブルが解消しない、あるいはまったくパソコンが動かない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。

パソコンの操作について、困ったときや修理のご依頼は、「東芝 PC あんしんサポート」へお問い合わせください。

参照 「本節 ④ 修理に出す」
参照 「本節 ③ 電話で問い合わせる」

## ② トラブル事例を見てみる

東芝パソコン全体の「よくあるご質問 FAQ」や、デバイスドライバや修正モジュールのダウンロード、ウイルス・セキュリティ情報などをご覧になれます。

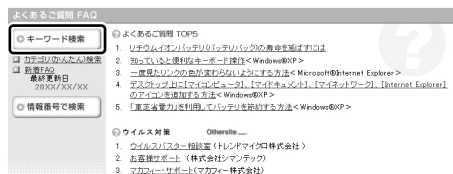
URL：http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm

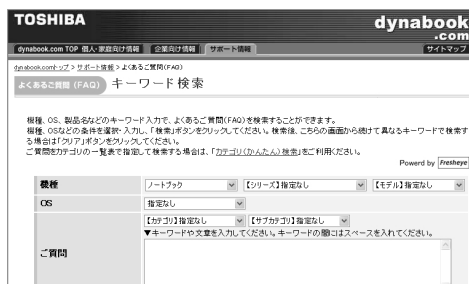
（表示例）

相談窓口や PC のリサイクル、お客様登録については、「11 章 登録とケア」にも詳しく紹介されています。

**1** ［スタート］ボタンをクリックし、［インターネット］をクリックする

Internet Explorer が起動します。
購入時の状態では、起動して最初に本製品のサポート情報のページが表示されるように設定されています。

【 パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問FAQ」】
「よくあるご質問 FAQ」では、日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。

（表示例）

キーワード検索では、条件の選択やキーワードや文章を入力して、検索できます。

（表示例）

サポート情報は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

【 メールで質問する「東芝PCオンライン」】
「よくあるご質問FAQ」を探しても問題が解決できないときは、専用フォームからお問い合わせください。24時間365日いつでも受け付けており、サポート料は無料です。
ご利用には「お客様登録」が必要ですので、事前に登録をしてください。

参照 「11章 1-① 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ」

**1** 「よくあるご質問FAQ」で解消方法を探す

**2** 「A. 回答・対処方法」の説明の後のアンケートに答える

「3」「4」「5」のいずれかの項目にチェックをつけてください。

**3** ［送信］ボタンをクリックする

東芝PCオンラインへのリンク画面が表示されます。

**4** 「東芝PCオンライン」をクリックする

画面の説明に従って専用フォームからご質問ください。
メールにてご回答させていただきます。
質問内容、お問い合わせ状況により、回答にお時間をいただくことがございます。ご了承ください。
この他、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。アプリケーションについて知りたいことがあるときは、ホームページを確認するのも良いでしょう。

参照 ホームページアドレスについて 「本章 4 問い合わせ先」

【 モジュールのダウンロード 】
デバイスドライバや修正モジュールをダウンロードできます。
「ダウンロード」から検索できます。[キーワード検索]では、本製品のシリーズ名などを選択すると、モジュールの情報が一覧表示されます。
OSをアップグレードしたい場合は、OSにあったモジュールをダウンロードしてください。

（表示例）

メモ

- 相談窓口やPCのリサイクル、お客様登録については、本章の以降のページや「11章 登録とケア」にも詳しく紹介されています。

## ③ 電話で問い合わせる

パソコンの操作について、困ったときは、東芝 PC あんしんサポート 技術相談窓口に連絡してください。技術的な質問、問い合わせに電話で対応します。

全国共通電話番号

0120-97-1048 （通話料・電話サポート料無料）

おかけいただくと、アナウンスが流れます。アナウンスに従って操作してください。
技術的な質問、お問い合わせは、アナウンスの後で①をプッシュしてください。

技術相談窓口 受付時間：9:00 ～ 19:00（年中無休）

［電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください］

海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。
その場合は TEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。

●東芝 PC 電話サポート予約サービス

19:00 ～ 24:00 の時間帯に電話サポートをご希望のお客様には、サポートスタッフからご希望の時間帯にお電話を差し上げます。
インターネットから電話サポート予約サービスをご利用ください。（定員制）

http://dynabook.com/assistpc/

本サービスのご利用には「お客様登録」が必要です。

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝 PC あんしんサポート」（http://dynabook.com/assistpc/anshin/index_j.htm） にてお知らせいたします。

## 1 トラブルチェックシート

東芝PCあんしんサポート 技術相談窓口では電話での本製品の技術的な質問、お問い合わせにお答えいたします。円滑に対応させていただくために、次の内容をまとめ、お手元にお使いのパソコンをご用意のうえ、お問い合わせください。

**Q.1** 使用しているパソコンの型番は？
型番は本体裏面のラベルに記載されています。

**Q.2** 使用しているソフトウェア環境は？
Windows XPなど、使用しているシステムとアプリケーションは？
システムのバージョンやCPUの種類を「東芝PC診断ツール」で確認してください。

**Q.3** どのような症状が起こりましたか？
なるべく具体的にお知らせください。

**Q.4** その症状はどのような操作をした後、発生するようになりましたか？
なるべく具体的にお知らせください。

**Q.5** エラーメッセージなどは表示されましたか？
表示された場合、表示内容をお知らせください。

**Q.6** その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？
□ 一度発生したが、その後発生しない
□ 常に発生する
□ 電源を切らないと発生するが、
　電源を切ってから再起動すれば発生しない
□ 電源を切ってから再起動しても必ず発生する
□ その他：

**Q.7** 無線LAN使用時
アクセスポイントの製造元と型番：
アクセスポイントのSSID（ワイヤレスネットワーク名）：

**Q.8** インターネットや通信に関する相談の場合
プロバイダ名：
使用モデム名：
使用回線：□ ブロードバンド
□ ダイヤルアップ接続
□ ISDN接続
□ 携帯電話・PHS接続

**Q.9** 周辺機器に関する相談の場合
機器名（製品名）：
メーカー名：

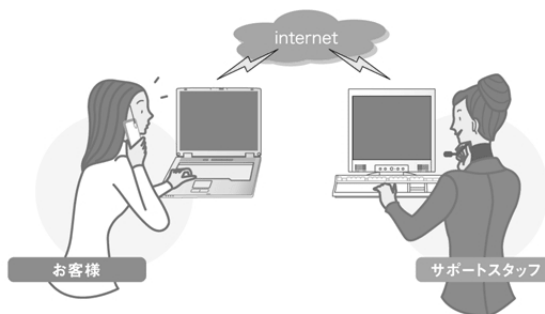
## 2 遠隔支援サービス

URL：http://dynabook.com/assistpc/remote/index_j.htm

「遠隔支援サービス」は、お客様のパソコン画面をサポートスタッフがインターネット経由で拝見しながら、技術サポートを行うサービスです。実際のパソコン操作は、サポートスタッフからの電話とお客様のパソコンに表示されるマーカの指示に従い、お客様ご自身で行っていただきます。

### メモ

- 本サービスの利用を希望される場合は、事前に東芝 PC あんしんサポートの技術相談窓口にご相談をお願いします。ご相談されずに本サービスを利用することはできません。
- 画面の画像情報を通信するためにブロードバンド回線（ADSL など）が必要となります。また、電話にてサポートを行うため、インターネットと同時に電話が接続できることも必須となります。
- 本サービスでは、画面情報のみ送信されます。画面に表示されない限り、スタッフがパソコン本体に保存されている情報を見ることはできません。また、本サービスはセキュリティ対策を行っております。情報は暗号化されて送られ、個人情報の漏洩などのおそれはありません。
- 本サービスでは、お客様のパソコンに操作案内用のマーカを表示するためのデータを送りますが、お客様のパソコンの内部データを書き換えることは一切ありません。
- 本サービスは登録が不要です。同意事項を了承いただくことで、利用できます。本サービスは無償サービス*です。

＊ インターネットに接続するための費用などは、お客様の負担となります。

**お客様**
電話やマーカなどによる案内に従い、お客様ご自身でパソコンを操作していただきます。

**サポートスタッフ**
お客様のパソコンの画面をサポートスタッフ側で拝見します。その画面を見ながら、的確な操作方法を電話でお伝えします。

## ④ 修理に出す

パソコンの修理のお申し込みは、東芝 PC あんしんサポートの修理相談窓口に連絡してください。
修理のお申し込み方法には、次の 3 つがあります。

### お申し込み方法

■インターネット
**http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/i_repair.htm** からお申し込みください。

■ FAX
「修理依頼シート」（同梱の『東芝 PC サポートのご案内』に記載）に必要事項を記入のうえ、
FAX 043–278–8137 に送付してください。
＊ FAX 番号は、おまちがえのないよう、お確かめのうえおかけください。

「修理依頼シート」は当センタのホームページ
**http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/index_j.htm** からも印刷できます。

■電話
全国共通電話番号
0120-97-1048 （通話料無料・電話サポート料無料）

おかけいただくと、アナウンスが流れます。アナウンスに従って操作してください。
修理に関するご相談は、アナウンスの後で②をプッシュしてください。

修理相談窓口 受付時間：9:00 ～ 22:00（年末年始 12/31 ～ 1/3 を除く）

［電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください］

海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。
その場合は TEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。

ピックアップサービス
修理の際は、簡単・便利な「ピックアップサービス」をご利用ください。
輸送業者がパソコン輸送専用の梱包箱を持参してご自宅まで伺い、面倒な梱包から引き取り、修理完了後の納品まで行います。
※「保証修理」「有料修理」ともに「ピックアップサービス」料金は「無料」です。

【 お申し込みの際、必ずご確認ください 】
- 保証期間中に故障した場合、保証書に記載の「保証修理規定」に従い、無料修理をさせていただきます。
- 修理依頼の際は、記憶装置内の内容は保証いたしません。必ずバックアップをお取りください。また、修理にともなうハードディスクの修理・データの初期化（標準出荷状態）の際は、記憶装置内の内容が消去されることをあらかじめご了承ください。
- その他詳細につきましては、当センタのホームページ（http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/index_j.htm）に記載の「修理規約」をご覧ください。
- お客様のプライバシー・個人情報の保護については、「個人情報保護方針」（http://www.toshiba.co.jp/privacy/index_j.htm）をご覧ください。

# トラブル解消によく使う操作

トラブルを解消するために、パソコンの設定を変更する必要がある場合があります。ここでは、パソコンの設定を変更するときによく使う操作を説明します。

**メモ** コントロールパネルを開くには

- コントロールパネルとは、パソコンのいろいろな設定をまとめたフォルダです。パソコンの設定を変更したいときには、まずコントロールパネルを開き、その中から目的の設定を行うオプション画面を選ぶことがよくあります。
  コントロールパネルを開くには、［スタート］ボタンをクリックし、［コントロールパネル］をクリックします。
  ［コントロールパネル］画面には、目的のカテゴリを選択する画面（カテゴリ表示）と、すべてのオプションから選択する画面（クラシック表示）の2種類があります。2つの画面は互いに切り替えることができます。

＊ 本書では、カテゴリを表示しているという前提で、操作の説明をしています。

## ① システム構成ユーティリティを使う

Windows XPの動作が不安定な場合や動きが遅い場合、常駐アプリケーションや不要なサービスが影響を与えている場合があります。
「システム構成ユーティリティ」を使用し、これらのプロセスを停止することで影響の有無を確認することができます。

**お願い** 操作にあたって

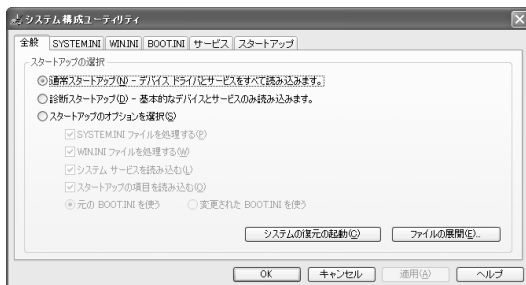
- 表示されるサービスやプログラムの中には、Windowsの動作に必要不可欠なものもあり、停止すると、Windowsが正常に機能しなくなる場合があります。操作が不安な場合は東芝PCあんしんサポートまでお問い合わせください。

### システム構成ユーティリティの操作方法

**1** ［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする

**2** 「MSCONFIG」と入力する

**3** ［OK］ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。

**4** ［診断スタートアップ］を選択し、［OK］ボタンをクリックする

Windowsを再起動します。
必要最低限のシステム構成でWindowsが起動しますので、動作の確認を行います。
「サービス」タブ、「スタートアップ」タブを開くと、一つ一つのサービスや、プログラムを選択することができます。チェック（☑）をはずしたプロセスは、次回Windows起動時より常駐しなくなります。不要なサービスやプログラムを選択して停止することができます。

## ② 正常な状態で起動しなおす

周辺機器のドライバの更新中やシステム（OS）のアップデート中にトラブルが発生した場合、次の手順を行うと、前回正常に起動したときの構成で Windows を起動できます。

### 1 操作方法

**1 F8キーを押しながら、電源を入れる**

**2 ［TOSHIBA］画面から画面が切り替わって、2～3秒後にF8キーから指をはなす**

しばらくすると「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
F8キーを押すタイミングにより、「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されない場合があります。
その場合は再度、手順1と2を行ってください。
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されずにオペレーティングシステムの選択画面が表示された場合は、もう1度F8キーを押すと、「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。

**3 ↑または↓キーで［前回正常起動時の構成（正しく動作した最新の設定）］を選択し、Enterキーを押す**

**4 ［Microsoft Windows XP Home Edition］が反転していることを確認し、Enterキーを押す**

前回正常に起動したときの構成で Windows が起動します。場合によっては、起動までに時間がかかります。

### 役立つ操作集

回復コンソールについて

Windows XP に重大なエラーが発生して起動できないような場合、回復コンソールを使って起動環境の復元やファイルの救出などを行うことができます。
回復コンソールは正常に機能しているときにインストールする必要があります。
詳しい使用方法は［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして、『ヘルプとサポート センター』で「回復コンソール」を検索し、確認してください。

［回復コンソールのインストール］

①［スタート］→［ファイル名を指定して実行］をクリックする
②「C:¥WINDOWS¥I386¥WINNT32.EXE /cmdcons」と入力する
③［OK］ボタンをクリックする
［Windows セットアップ］画面が表示されます。画面の指示に従ってインストールしてください。
「ファイル XXXX.... を読み込めなかったため、アップグレードオプションは現在利用できません。....」というメッセージが表示された場合は、［OK］ボタンをクリックしてください。回復コンソール開始の確認画面が表示されます。
インターネットに接続できない場合は、更新された Windows セットアップをダウンロードすることができませんが、回復コンソールのインストールはそのまま続行することができます。

［回復コンソールの操作方法］

①電源を入れる
パソコンを起動したときにオペレーティングシステム一覧が表示されます。
通常、システムを起動する場合は、「Microsoft Windows XP Home Edition」を選択してください。
②「Microsoft Windows XP 回復コンソール」を選択し、Enterキーを押す
画面のメッセージに従ってください。
③コマンドを入力する
「C:¥WINDOWS>_ 」が表示されているときに「help」と入力すると、回復コンソールで入力できるコマンドの一覧が表示されます。
各コマンドの説明については［スタート］→［ヘルプとサポート］をクリックして、『ヘルプとサポート センター』でご確認ください。
回復コンソールを終了したい場合は「exit」と入力してください。パソコンが再起動します。

# 3 Q&A集

## 電源を入れるとき／切るとき

### Q 電源スイッチを押しても反応しない

**A** 電源スイッチを約 2 秒間押した後、指をはなすと電源が入ります。

Power LED が青色に点灯することを確認してください。

### Q 1 度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

**A** バッテリの充電量が少ない可能性があります。

次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用の AC アダプタを接続して、電源を供給する
（他製品用の AC アダプタは使用できません）
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリの充電について
「6 章 バッテリ駆動で使う」

**A** パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

### Q 電源を入れたが、システムが起動しない

**A** 起動ドライブをハードディスクドライブ以外に設定した場合に、システムの入っていないメディアがセットされている可能性があります。

システムが入っているメディアと取り替えるか、またはドライブからメディアを取り出してから、何かキーを押してください。
それでも正常に起動しない場合は、強制終了してください。強制終了の方法は、「本節 電源を入れるとき／切るとき - Q ［終了オプション］から電源が切れない」を確認してください。
強制終了した後、次のように操作するとシステムが起動します。

①キーボードの F12 キーを押しながら電源スイッチを押し、「TOSHIBA」画面が表示されてから手をはなす
②表示されたアイコンからシステムの入っているドライブ（通常はハードディスクドライブ）を ↓ キーや ↑ キーで選択し、Enter キーを押す

**A** F8キーを押しながら、電源スイッチを押し、［TOSHIBA］画面から画面が切り替わって、2～3秒後にF8キーから指をはなすと、正常な状態で起動しなおすことができます。

参照 詳細について

「本章 2-② 正常な状態で起動しなおす」

## Q 自動的に電源が入ってしまう

**A** Windowsのタスクスケジューラで設定されている可能性があります。

タスクスケジューラで［タスクの実行時にスリープを解除する］に設定されていると、スタンバイ中や休止状態のときは自動的に電源が入り、設定したタスクを実行します。
次の手順で設定を変更できます。

①［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする
②設定されているタスクをダブルクリックする
電源が入った時間などを参考に選択してください。
③［設定］タブの［電源の管理］で［タスクの実行時にスリープを解除する］のチェックをはずす
④［OK］ボタンをクリックする

**A** パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。

パネルスイッチ機能とは、ディスプレイを閉じると電源を切り、開けると電源スイッチを押さなくても自動的に電源を入れる機能です。
次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
②［アクション設定］タブの［コンピュータを閉じたとき］で［何もしない］を選択する
③［OK］ボタンをクリックする

## Q ［終了オプション］から電源が切れない

**A** Ctrl＋Alt＋Delキーを押して、電源を切ってください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

①Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windowsタスクマネージャ］画面が表示されます。
②メニューバーの［シャットダウン］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Uキーを押してください。
③［コンピュータの電源を切る］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Uキーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

**A** Ctrl＋Alt＋Delキーを押しても反応がない場合は、電源スイッチを5秒以上押してください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

## Q 使用中に突然電源が切れてしまった

**A** パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

**A** バッテリ駆動で使用している場合、バッテリの充電量がなくなった可能性があります。

次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用のACアダプタを接続して、電源を供給する
（他製品用のACアダプタは使用できません）
- 充電済みのバッテリパックを取り付ける

参照 バッテリの充電について

「6章 バッテリ駆動で使う」

## Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

**A** Power LEDが青色に点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
Shiftキーや Ctrlキーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

**A** Power LEDがオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。
復帰させるには、電源スイッチを押してください。
また、次の手順で設定を解除できます。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
②［東芝省電力］をクリックする
③［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
④［基本設定］タブで［システムスタンバイ］および［システム休止状態］のチェックをはずす
⑤［OK］ボタンをクリックする

## Q 間違って電源を切ってしまった

**A パソコンを終了する場合は、［スタート］→［終了オプション］をクリックします。**

パソコンが処理をしている最中（Disk LED が点灯中）に電源が切れてしまうと、ハードディスクが故障する場合がありますので、正しい終了手順を守ってください。
正しい終了手順に従わずに強制終了した後、パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合はエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。

参照 エラーチェックの方法
「本節 その他 - Q セーフモードで起動した」

## Q Windows の起動と同時にプログラムが実行される

**A ［スタートアップ］にプログラムが設定されている可能性があります。**

［スタートアップ］は、設定されているプログラムを Windows 起動時に自動的に実行します。
アプリケーションをインストールすると、自動的に［スタートアップ］に登録される場合があります。
次の手順でプログラムを削除できます。

①［スタート］ボタンを右クリックし、表示されたメニューから［開く］をクリックする
②［プログラム］アイコンをダブルクリックする
③［スタートアップ］アイコンをダブルクリックする
［スタートアップ］画面が表示されます。
④削除したいプログラムのアイコンをクリックし、［ファイルとフォルダのタスク］の［このファイルを削除する］をクリックする
［ファイルの削除の確認］画面が表示されます。*1
⑤［はい］ボタンをクリックする
⑥［スタートアップ］画面の［閉じる］ボタンをクリックする

＊1 ［ショートカットの削除の確認］画面が表示されることもあります。その場合は［ショートカットの削除］ボタンをクリックし、手順⑥に進んでください。

**A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。**

タスクスケジューラで［実行する］に設定されていると、設定したスケジュールに従ってタスクを実行します。
アプリケーションをインストールすると、自動的にタスクが登録される場合があります。
次の手順で設定を変更できます。

①［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［タスク］をクリックする
②設定されているタスクをダブルクリックする
プログラムが実行された時間などを参考に選択してください。
③［タスク］タブで［実行する］のチェックをはずす
④［OK］ボタンをクリックする

## Q パソコンが休止状態にならない

**A 休止状態に対応していない周辺機器（PC カードなど）を取り付けていると休止状態になりません。**

休止状態に対応していない周辺機器を取りはずしてから、休止状態を実行してください。

**A ［スタートアップ］に休止状態の妨げになるアプリケーションが設定されている可能性があります。**

［スタートアップ］からそのアプリケーションを削除し、Windows を再起動してください。

参照 スタートアップに登録されているアプリケーションの削除方法
「本節 電源を入れるとき／切るとき - Q Windows の起動と同時にプログラムが実行される」

## Q 休止状態を設定できない

**A 休止状態の設定になっていない可能性があります。**

次の手順で設定を変更してください。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［電源オプション］をクリックする
［電源オプションのプロパティ］画面が表示されます。
②［休止状態］タブで［休止状態を有効にする］をチェックする
③［OK］ボタンをクリックする

参照 休止状態について 「1 章 3-② 休止状態」

# 画面／表示

## Q 画面に何も表示されない

（Power LED が消灯、またはオレンジ色に点滅している場合）

**A 電源が入っていないか、スタンバイまたは休止状態になっています。**

電源スイッチを押してください。

## Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない

（Power LED が青色に点灯している場合）

**A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。**

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
Shift キーや Ctrl キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

**A インスタントセキュリティ機能が働いた可能性があります。**

次の操作を行ってください。

- ［画面のプロパティ］の［スクリーンセーバー］タブで［パスワードによる保護］、または［再開時にようこそ画面に戻る］をチェックしていない場合
  Shift キーや Ctrl キーを押すか、タッチパッドを操作してください。
- ［画面のプロパティ］の［スクリーンセーバー］タブで［パスワードによる保護］、または［再開時にようこそ画面に戻る］をチェックしている場合
  ① Shift キーや Ctrl キーを押すか、タッチパッドを操作する
  複数のユーザで使用している場合は、ユーザ名選択画面が表示されます。
  ② ログオンするユーザ名をクリックする
  ③ Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面に Windows のログオンパスワードを入力し、Enter キーを押す

参照 Windows ログオンパスワード
『ヘルプとサポート センター』

**A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。**

Fn ＋ F5 キーを3秒以上押し続けてください。
表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について
「5章 周辺機器を使って機能を広げよう」

## Q 画面が見にくい

**A ディスプレイを見やすい角度に調整してください。**

## Q 画面が暗い

**A Fn ＋ F7 キーを押して、本体液晶ディスプレイ（画面）の輝度を明るくしてください＊1**

Fn ＋ F6 キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。Fn キーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると設定はもとに戻ります。

**A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。**

「東芝省電力」には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。
詳細は、「東芝省電力」のヘルプを参照してください。
購入時の設定では、AC アダプタの接続時（フルパワー）の明るさレベルは「レベル 8」（最高）に、バッテリ駆動時（ノーマル）の明るさレベルはバッテリの残容量に応じて「レベル 4」から「レベル 2」に変化するように設定されています。
次の手順で設定を変更してください。＊1

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
②［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
③［基本設定］タブで［画面の明るさ］を設定する
［設定］ボタンをクリックすると、バッテリの残容量ごとに画面の明るさを設定できます。［解除］ボタンをクリックすると、バッテリの残容量ごとの設定は無効になります。
④［OK］ボタンをクリックする

＊1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

## Q 画面の表示や色がはっきりしない

**本体液晶ディスプレイ（画面）の解像度をパソコン本体のディスプレイサイズよりも小さく設定している場合、画面の表示がはっきりしません。また、色数を少ない設定にしている場合、画面の色がはっきりしません。**

次の手順で設定を変更してください。

①［コントロールパネル］を開き、［デスクトップの表示とテーマ］をクリック→［画面］をクリックする
②［設定］タブで設定を変更する
- 表示がはっきりしない場合
  ［画面の解像度］をディスプレイの解像度に合わせて変更してください。
- 色がはっきりしない場合
  ［画面の色］を［最高（32 ビット）］に設定してください。

③［OK］ボタンをクリックする

## Q 画面の表示が遅い

**A** **画面の解像度または色数を高く設定していると、アプリケーションによっては表示が遅くなります。**

［画面のプロパティ］で［画面の解像度］や［画面の色］を変更してください。

## Q 外部ディスプレイで画面の色がにじんだように表示される

**A** **テレビ、オーディオ機器のスピーカなど強力な磁気を発生する電気製品の近くに設置している場合は、表示がにじむ場合があります。**

パソコンと電気製品との距離をはなしてください。

## Q 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイを、拡張表示またはクローン表示に設定しているとき、外部ディスプレイにノイズが表示される

**A** **外部ディスプレイの解像度、色数、リフレッシュレートを下げてください。**

# Windows

## Q 内蔵時計が合っていない

**A** **次の手順で［日付と時刻］を修正してください。**

①［コントロールパネル］を開き、［日付、時刻、地域と言語のオプション］をクリック→［日付と時刻を変更する］をクリックする
②［時刻］に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。
③デジタル時計の右端にある▲▼ボタンで、時刻の修正を行う
④［OK］ボタンをクリックする

**A** **長い間パソコンを使用しないと時計用バッテリの充電が不十分になります。**

パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を入れて時計用バッテリを充電してください。

**A** **充電してもしばらくすると内蔵時計が合わなくなる場合は、時計用バッテリの充電機能が低下している可能性があります。**

保守サービスに連絡してください。

## Q パソコンの処理速度が遅くなった

**A** **「東芝省電力」の設定で、CPUの処理速度が切り替わった可能性があります。**

また、ご購入時の状態のプロファイルは、ACアダプタを接続しているときは［フルパワー］、バッテリ駆動で使用するときは［ノーマル］に設定されていますので、ACアダプタ接続時に比べてバッテリ駆動時のパソコンの処理速度は遅くなります。
CPUの処理速度は次の手順で変更できます。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
②［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
③［基本設定］タブの［CPUの処理速度］をスライダーバーで設定する
数字が大きいほど、高速で処理します。
インテル® Core™ Duoプロセッサーが搭載されているモデルでは、先に［基本設定］タブの［CPUの制御方法］で［自動］または［固定］をチェックしてください。
④［OK］ボタンをクリックする

参照 省電力プロファイルについて
「6章2 省電力の設定をする」

**A** **パソコンのCPUが高温になり、自動的に処理速度が遅くなった可能性があります。**

しばらく作業を中止すると、CPUの温度が下がり処理速度が元に戻ります。
CPUが高温になった場合の対処方法については「東芝省電力」で設定できます。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
②［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
③［基本設定］タブの［CPUの熱制御方法］をスライダーバーで設定する
④［OK］ボタンをクリックする
「東芝省電力」で設定していても、パソコン使用中のCPUの過熱がおさまらないときは、危険防止のため自動的に電源が切れます（危険防止機能）。この場合は、涼しい場所でしばらくパソコン本体を放置してから使用してください。
それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。危険防止機能が働いて電源が切れたときは、保存していないデータは失われる場合があります。
定期的にデータのバックアップを取るようにしてください。

**ハードディスクの空き容量が少なくなり、処理速度が遅くなった可能性があります。**

不要なファイルなどを削除して、ハードディスクの空き容量を増やしてください。

## バッテリ駆動で使用するとき

### Q Battery LED が点滅した

**A バッテリの充電量が残り少ない状態です。**

ただちに次のいずれかの対処を行ってください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリパックと取り換える

対処しないと、休止状態が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。
休止状態が無効に設定されている場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、保存されていないデータは消失します。休止状態を有効にしておくことを推奨します。購入時は有効に設定されています。
また、データはこまめに保存しておいてください。

参照 バッテリの充電方法
「6 章 1-② バッテリを充電する」

### Q 充電したはずのバッテリパックを使用しても Battery LED がオレンジ色に点滅する

**A バッテリパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。**

もう 1 度充電してください。
バッテリを再充電しても状態が変わらない場合は、バッテリパックの充電機能が低下している可能性があります。別売りのバッテリパックと交換してください。
それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。保守サービスに連絡してください。

参照 バッテリの充電量について
「6 章 1-① バッテリ充電量を確認する」

### Q バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる

**A 自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。**

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。
復帰させるには、電源スイッチを押してください。
また、次の手順で設定を解除できます。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［東芝省電力］をクリックする
②［プロファイル］で利用するプロファイルを選択する
③［基本設定］タブで［システムスタンバイ］および［システム休止状態］のチェックをはずす
④［OK］ボタンをクリックする

## キーボード

### Q キーを押しても文字が表示されない

**A システムが処理中の可能性があります。**

ポインタが砂時計の形（ ⌛ ）をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

### Q キーボードから文字を入力しているときにカーソルがとんでしまう

**A 文字を入力しているときに誤ってタッチパッドに触れると、カーソルがとんだり、アクティブウィンドウが切り替わってしまうことがあります。**

(Fn)+(F9)キーを押して、タッチパッドを無効に切り替えてください。

参照 詳細について 「3 章 3-②
タッチパッドをもっと使いやすくしよう」

### Q 「＼」（バックスラッシュ）が入力できない

**A 日本語フォントでは「＼」は入力できません。**

(\ ろ) を押すと￥が表示されますが、「＼」と同じ機能を持ちます。

### Q ひらがなや漢字の入力ができない

**A 日本語入力システムが起動していない状態になっています。**

(半／全)キーを押してください。日本語入力システムが起動すると、Microsoft IME ツールバーが表示されます。

### Q キーボードで入力モードを切り替えたい

**A 次のショートカットキーを利用して入力モードを変更できます。**

| | |
|---|---|
| (Shift)+(CapsLock 英数)キー | 大文字ロック状態 |
| (Alt)+(カタカナ／ひらがな)キー | ローマ字入力／かな入力の切り替え |
| (Fn)+(F10)キー | アロー状態 |
| (Fn)+(F11)キー | 数字ロック状態 |

## Q キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう

**A キーボードドライバの設定が正しくない可能性があります。**

次の手順でドライバを再設定してください。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする
②［システム］をクリックする
［システムのプロパティ］画面が表示されます。
③［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
［デバイスマネージャ］画面が表示されます。
④［キーボード］をダブルクリックする
⑤表示されたキーボードドライバ名をダブルクリックする
キーボードのプロパティ画面が表示されます。
⑥［ドライバ］タブで［ドライバの更新］ボタンをクリックする
［ハードウェアの更新ウィザード］が起動します。
⑦［いいえ、今回は接続しません］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
⑧［一覧または特定の場所からインストールする］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
⑨［検索しないで、インストールするドライバを選択する］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
⑩［互換性のあるハードウェアを表示］のチェックをはずす
［製造元］と［モデル］の一覧が表示されます。
⑪［製造元］から［(標準キーボード)］、［モデル］から［日本語 PS/2 キーボード（106／109 キー Ctrl+英数)］を選択して、［次へ］ボタンをクリックする
［ドライバの更新警告］画面が表示されます。
⑫［はい］ボタンをクリックする
ドライバがインストールされ、［ハードウェアの更新ウィザードの完了］画面が表示されます。
⑬［完了］ボタンをクリックする
⑭キーボードのプロパティ画面で［閉じる］ボタンをクリックする
［システム設定の変更］画面が表示され、「今コンピュータを再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
⑮［はい］ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

## Q どのキーを押しても反応しない 設定はあっているが、希望の文字が入力できない

**A ［スタート］メニューから再起動してください。**

この場合、保存されていないデータは消失します。

**A ［スタート］メニューから再起動できない場合は、Ctrl＋Alt＋Delキーを押して、再起動してください。**

この場合、保存されていないデータは消失します。

①Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。
②メニューバーの［シャットダウン］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Alt＋Uキーを押してください。
③［再起動］をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、Rキーを押してください。再起動します。

**A Ctrl＋Alt＋Delキーを押して再起動できない場合は、電源スイッチを５秒以上押してください。**

電源が切れます。この場合、保存されていないデータは消失します。
しばらくしてから電源を入れ直してください。
強制終了した後パソコンの動作に少しでも異常が起こった場合は、エラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。

参照 エラーチェックの方法
「本節 その他 - Q セーフモードで起動した」

## Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

**A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスにご相談ください。**

保守サービスへの相談は『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

## タッチパッド／マウス

＊マウスは、
別売りです。

### Q タッチパッドやマウスを動かしても画面のポインタが動かない（反応しない）

**A システムが処理中の可能性があります。**

ポインタが砂時計の形（ ）をしている間は、システムが処理中のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けないときがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

**A マウスが正しく接続されていない可能性があります。**

マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

**A タッチパッドのみ操作を受け付けない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。**

Fn＋F9キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

参照 タッチパッドについて
「3章 3 ポインタを動かす／ファイルを開く」

## CD／DVD

### Q CD／DVDにアクセスできない

**A ディスクトレイがきちんとしまっていない場合は、カチッと音がするまで押し込んでください。**

参照 CD／DVDのセット
「3章 4-④ CD／DVDのセットと取り出し」

**A CD／DVDがきちんとセットされていない場合は、ラベルの面を上にして、水平にセットしてください。**

**A ディスクトレイ内に異物がある場合は、取り除いてください。**

何かはさまっていると、故障の原因になります。

**A CD／DVDが汚れている場合は、乾燥した清潔な布でふいてください。**

それでも汚れが落ちなければ、水または中性洗剤で湿らせた布でふき取ってください。

参照 CD／DVDの手入れ「11章 3-5 CD／DVD」

**A CD／DVDを認識していない可能性があります。**

ドライブのLEDが点滅している間は、まだ認識されていません。
消灯するまで待って、もう1度アクセスしてください。

### Q ディスクトレイLEDが消えない

**A 大量のデータを処理しているときは、時間がかかります。**

LEDが消えるまで待ってください。
どうしても消えないときは作業を中断し、Ctrl＋Alt＋Delキーを押して再起動してください。
この場合、保存されていないデータは消失します。

参照 再起動の方法「本節 キーボード-
Q どのキーを押しても反応しない
設定はあっているが、希望の文字が入力できない」

再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押し、電源を切ってから、もう1度電源を入れてください。この場合、保存されていないデータは消失します。
再起動後、同じ操作を行っても、LEDが消えない場合は、電源を切り、保守サービスに連絡してください。

### Q CD／DVDをセットしても自動的に起動しない

**A 自動起動に対応しているCD／DVDでも、自動的に起動しない場合があります。**

起動しているすべてのアプリケーションを終了し、CD／DVDをセットし直してください。
それでも起動しない場合は次の手順で起動できます。

①［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする
②ドライブのアイコンをダブルクリックする

**A 自動起動に対応していないCD／DVDを挿入している可能性があります。**

自動起動に対応していないCD／DVDの場合は、自動起動できません。『CD／DVDに付属の説明書』などで確認してください。

## Q CD／DVDが取り出せない

**A パソコン本体の電源が入っていないと、イジェクトボタンを押してもディスクトレイは出てきません。**

電源を入れてから、イジェクトボタンを押してください。

参照 CD／DVDの取り出し
「3章4-④ CD／DVDのセットと取り出し」

**A パソコン本体の電源が入っている場合は、CD／DVDを使用しているアプリケーションをすべて終了してください。**

終了後、イジェクトボタンを押してください。

**A CD／DVDを使用しているアプリケーションをすべて終了していても、CD／DVDが取り出せない場合は、パソコンを再起動してください。**

再起動後、イジェクトボタンを押してください。
以上の手順でも解決できない場合は、保守サービスに依頼してください。

## Q パソコン本体の電源が入らないため、CD／DVDが取り出せない

**A ドライブのイジェクトホールを先の細い丈夫なもので押してください。**

イジェクトホールは、折れにくいもの（例えばクリップを伸ばしたものなど）で押してください。折れた破片がパソコン内部に入ると、故障の原因になります。電源が入らないとき以外はこの処置をしないでください。特に、パソコンの動作中は絶対にしないでください。

参照 イジェクトホール
「3章4-④ CD／DVDのセットと取り出し」

# サウンド機能

## Q スピーカから音が聞こえない

**A ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。**

**A パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調節してください。**

**A スピーカの設定がミュート（消音）になっている可能性があります。**

(Fn)+(Esc)キーを押してミュートを解除してください。

**A 標準の［優先するデバイス］が変更されている可能性があります。**

次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［サウンド、音声、およびオーディオデバイス］をクリックする
② ［サウンドとオーディオデバイス］をクリックする
　［サウンドとオーディオデバイスのプロパティ］画面が表示されます。
③ ［オーディオ］タブで［音の再生］の［既定のデバイス］を正しく設定する
④ ［OK］ボタンをクリックする

**A 上記の操作を行っても音量が変わらなければ、標準のサウンドドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。**

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックし、表示された画面に従ってサウンドドライバを再インストールしてください。

## Q サウンド再生時に音飛びが発生する

**A PCカード接続のハードディスクドライブまたはドライブの動作中にサウンドの再生を行うと、音飛びが発生する場合があります。**

# インターネット

## Q ホームページが表示できない

**A ホームページが使用しているプロトコルがパソコンの設定と一致していない可能性があります。**

ご購入時は、HTTP1.0プロトコルを使用しているホームページには接続できない設定になっています。
次の手順で設定を変更してください。

① ［コントロールパネル］を開き、［ネットワークとインターネット接続］をクリックする
② ［インターネットオプション］をクリックする
　［インターネットのプロパティ］画面が表示されます。
③ ［詳細設定］タブで［プロキシ接続でHTTP1.1を使用する］のチェックをはずす
④ ［OK］ボタンをクリックする

ただし、［プロキシ接続でHTTP1.1を使用する］チェックをはずすと、利用できないインターネット接続サービスもありますので、接続先によって設定を変更してください。

**A** Microsoft® VirtualMachine for Java を必要とするホームページの可能性があります。

本製品には Microsoft® VirtualMachine for Java は搭載されていないので、Microsoft® VirtualMachine for Java を必要とする一部のホームページは表示できません。

### Q 「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう、Internet Explorer で制限されています…」というようなメッセージが書いてある、[情報バー] 画面が表示された

**A** Internet Explorer を使用するアプリケーションを起動しているとき、セキュリティ保護のためブロックされていると、[情報バー] 画面が表示され、画面が正常に表示されない場合があります。

この場合、アプリケーションで使用しているコンテンツがセキュリティ保護のためブロックされています。次の手順で「危険性の説明」をご覧ください。

①[情報バー] 画面の「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう、Internet Explorer で制限されています。オプションを表示するには、ここをクリックしてください…」をクリックする
②[危険性の説明] をクリックする

コンテンツの危険性に関する説明が表示されます。必ず内容をご確認ください。

## 通信機能

### Q 無線 LAN 機能が使えない

**A** 無線 LAN 機能が Off になっている可能性があります。

次のいずれかの操作を行ってください。

- ワイヤレスコミュニケーションスイッチが Off の場合は On にしてください。
- ConfigFree でデバイスを有効に切り替えてください。

  次の操作を行ってください。

  ① 通知領域の [ConfigFree] アイコンをクリックする
  「デバイス」の下に表示されている項目が、使用できるデバイスです。
  ② 有効にしたいデバイスにポインタをあわせ、表示されたメニューから [有効] をクリックする

## 周辺機器

周辺機器については「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」、『周辺機器に付属の説明書』もあわせて確認してください。

### Q 周辺機器を取り付けたが正しく動かない

**A** パソコン本体が周辺機器を、「新しいハードウェア」として認識していない可能性があります。

[ハードウェアの追加ウィザード] を実行してください。

参照 「5 章 1-① ドライバをインストールする」

**A** 接続ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。

接続ケーブルを正しく接続し直してください。

参照 周辺機器の接続について
「5 章 1 周辺機器を使う前に」

**A** システム（OS）に対応していない可能性があります。

周辺機器によっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。使用しているシステム（OS）に対応しているか確認してください。

### Q 増設メモリが認識されない

**A** メモリを増設しても「PC 診断ツール」などでメモリ容量の数値が変わらなかった場合、パソコンが増設メモリを認識していない可能性があります。

「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」を参照して、増設メモリを取りはずしてから、もう 1 度取り付けてください。

### Q 外部記憶メディアをセットしても自動的に起動しない

**A** 自動起動に対応している外部記憶メディアでも、自動的に起動しない場合があります。

起動しているすべてのアプリケーションを終了し、外部記憶メディアをセットし直してください。それでも起動しない場合は次の手順で起動できます。

①[スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
②外部記憶メディアのアイコンをダブルクリックする

**A** 自動起動に対応していない外部記憶メディアを挿入している可能性があります。

自動起動に対応していない外部記憶メディアの場合は、自動起動できません。『外部記憶メディアに付属の説明書』などで確認してください。

## PCカード

### Q PCカードが認識されない

**A** PCカードが奥までしっかり差し込んであるか確認してください。

参照 PCカードの接続について
「5章8-② PCカードを使う」

### Q PCカードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない

**A** PCカードによっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。

使用しているシステム（OS）に対応しているか、『PCカードに付属の説明書』を確認してください。

**A** 本製品はWindows専用モデルです。コマンドプロンプト上でのPCカードの使用はサポートしていません。

### Q PCカードは認識されるが使用できない

**A** IRQが不足している可能性があります。

次の手順で使用しないデバイスを［デバイスマネージャ］で使用不可にしてください。

①［コントロールパネル］を開き、［パフォーマンスとメンテナンス］をクリック→［システム］をクリックする
②［ハードウェア］タブで［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする
［デバイスマネージャ］画面が表示されます。
③使用しない装置の種類をダブルクリックする
④表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、［無効］をクリックする
⑤メッセージが表示されたら［はい］ボタンをクリックする
⑥［デバイス マネージャ］を閉じる
⑦［システムのプロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする

## USB対応機器

### Q USB対応機器が使えない

**A** ケーブルが正しく接続されていない可能性があります。

ケーブルを正しく接続し直してください。

参照 接続について「5章3 USB対応機器を使う」

**A** 電源を入れる必要のある機器の場合、USB対応機器の電源が入っているかどうか確認してください。

**A** 何らかの原因で、システム（OS）が正しくUSB対応機器を認識していない可能性があります。

Windowsを再起動してください。

**A** ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。

次の手順でインストールしてください。

①［コントロールパネル］を開き、［プリンタとその他のハードウェア］をクリックする
②［関連項目］で［ハードウェアの追加］をクリックする
［ハードウェアの追加ウィザード］が起動します。
③［次へ］ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

### Q 休止状態から復帰後、USB対応機器が正常に動作しない

**A** 休止状態に対応していないUSB対応機器を接続している可能性があります。

USB対応機器をUSBコネクタから取りはずし、もう1度接続してください。
それでもUSB対応機器が正常に動作しない場合は、パソコンを再起動してください。

## アプリケーション

### Q アプリケーションが使えない

**A** 正しくインストールしていない可能性があります。

『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、正しくインストールしてください。

**A** システム（OS）に対応していない可能性があります。

アプリケーションによっては使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

**A** メモリ容量が足りない可能性があります。

アプリケーションを起動するために必要なメモリ容量がない場合は、そのアプリケーションを使用することはできません。必要なメモリ容量は、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。
また、本製品は、必要に応じてメモリを増設することができます。

参照 メモリの増設について
「5章 2 パソコンの動作をスムーズにする」

**A** アプリケーションによっては、システム構成の変更が必要です。

『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、システム構成を変更してください。

## Q アプリケーションが操作できなくなった

**A** アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。

終了後、もう1度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

①Ctrl＋Alt＋Delキーを押す
［Windows タスクマネージャ］画面が表示されます。
②［アプリケーション］タブで［応答なし］と表示されているアプリケーションをクリックする
③［タスクの終了］ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。
④［Windows タスクマネージャ］画面で［閉じる］ボタン（ ☒ ）をクリックする

## Q 購入時に入っていたアプリケーションを誤って削除してしまった

**A** 本製品にあらかじめインストールされている（プレインストールされている）アプリケーションやドライバは再インストールできます。

［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックし、表示された画面に従ってアプリケーションを再インストールしてください。

# メッセージ

## Q 「パスワードを入力して下さい。」と表示された

**A** パスワードの入力などによる認証が必要です。

次の操作を行ってください。

①「東芝HWセットアップ」またはBIOSセットアップで登録したパスワードを入力し、Enterキーを押す

パスワードを忘れてしまった場合は、使用している機種（型番）を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

参照 パスワードについて
「8章 4 パスワードセキュリティ」

## Q 「HDDパスワードを入力して下さい。」と表示された

**A** BIOSセットアップで設定したHDDパスワードを使って認証を行ってください。

次の操作を行ってください。

①HDDパスワードを入力し、Enterキーを押す

HDDパスワードを忘れてしまった場合は、ハードディスクドライブは永久に使用できなくなり、交換対応となります。この場合は有償です。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

参照 HDDパスワードについて
「8章 4 パスワードセキュリティ」

## Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」「パスワードが誤っています。」と表示された

**A** 入力モードの状態により大文字／小文字を誤って入力した可能性があります。

Caps Lock LEDを確認してください。必要に応じてShift＋Caps Lock 英数キーを押して入力の状態を切り替え、もう1度入力してください。

## Q 画面が青くなり、次のようなメッセージが画面一面に表示された

- 「A problem has been detected and windows has been shut down to prevent damage to your computer.」

**A ハードウェアの接続に不具合が起きた、または何らかの原因で電源を切る前の状態を再現できなくなったというメッセージです。**

休止状態のまま増設メモリの取り付け／取りはずしをしたときなどに表示されます。電源を切る前の状態は再現できません。
次の操作を行ってください。

①電源スイッチを5秒以上押し、パソコンを強制終了する
②再び電源スイッチを押して、パソコンを再起動する
「システムを前の場所から再起動できませんでした。」というメッセージが表示されます。
③「復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます」が反転表示していることを確認し、Enterキーを押す
Windows が起動します。

## Q 「0271：Check data and time settings … Press <F1> to resume, <F2> to Setup」と表示された

**A 時計用バッテリが不足しています。**

AC アダプタを接続して、時計用バッテリを充電してください。

参照 時計用バッテリについて
「6 章 バッテリ駆動で使う」

その後、次の手順で、BIOS セットアップの日付と時刻を設定してください。

①F2キーを押す
BIOS セットアップ画面に移ります。
②［メイン］メニューの［言語：］で［日本語（JP)］を選択する
③F9キーを押す
確認のメッセージが表示されます。
④［はい］を選択し、Enterキーを押す
BIOS セットアップが標準設定の状態になります。
⑤［メイン］メニューの［システム時刻：］で時刻を設定する
⑥［メイン］メニューの［システム日付：］で日付を設定する
⑦F10キーを押す
確認のメッセージが表示されます。
⑧［はい］を選択し、Enterキーを押す
BIOS セットアップが終了し、パソコンが再起動します。

## Q 「システムの日付または時刻が無効です」と表示された

**A 日付と時刻を設定してください。**

Windows Update やアプリケーションのセットアップを行う場合は、正しい日付と時刻を設定してから行ってください。

参照 日付と時刻の設定について
「1 章 1-④- 日付と時刻の設定」

## Q 休止状態から復帰したとき、「休止モードを準備しています」と表示された

**A ［コントロールパネル］の［ユーザーアカウント］→［ユーザーアカウント］→［ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する］の［ようこそ画面を使用する］がチェックされていると、休止状態から復帰したときにメッセージが表示される場合があります。**

ログオンしたいユーザ名をクリックしてください。
正常にログオンできます。

## Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」と表示された

**A 休止状態が無効になったというメッセージです。**

電源を切る前の状態は再現できません。
［復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます］を選択し、Enterキーを押してください。
Windows が起動します。

## Q 次のようなメッセージが表示された

- 「Insert system disk in drive.Press any key when ready」
- 「Non- System disk or disk error Replace and press any key when ready」
- 「Invalid system disk Replace the disk,and then press any key」
- 「Boot:Couldn't Find NTLDR Please Insert another disk」
- 「Disk I/O error Replace the disk,and then press any key」
- 「Cannot load DOS press key to retry」
- 「Remove disks or other media.Press any key to restart」
- 「NTLDR is missing
Press any key to restart」

**フロッピーディスクなどの起動ディスクを取り出し、何かキーを押してください。**

上記の操作を行っても解決しない場合は、「本章 1-③-1 トラブルチェックシート」で必要事項を確認のうえ、東芝 PC あんしんサポートに連絡してください。

## Q C:¥ >_のように表示された

**A** **コマンドプロンプトが全画面表示されています。**

次のいずれかの操作を行ってください。

- **コマンドプロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える**
  Alt+Enterキーを押してください。
- **コマンドプロンプト画面を終了する**
  ① EXITとキーを押す
  ② Enterキーを押す

## Q その他のメッセージが表示された

**A** **使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。**

# その他

## Q セーフモードで起動した

**A** **周辺機器のドライバやアプリケーションが原因で不具合を起こしている可能性があります。**

次の手順でエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。

①［スタート］→［マイコンピュータ］をクリックする
②（C：）ドライブをクリックする
③メニューバーから［ファイル］→［プロパティ］をクリックする
④［ツール］タブの［エラーチェック］で［チェックする］ボタンをクリックする
⑤［チェック ディスクのオプション］で［不良セクタをスキャンし、回復する］をチェックする（☑）
⑥［開始］ボタンをクリックする
チェックには時間がかかります。
チェック後パソコンを再起動し、通常起動するか確認してください。

上記の操作を行っても正常に起動しない場合は、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

参照 セーフモードについて
『ヘルプとサポート センター』

## Q 「東芝PC診断ツール」で診断したら、ハードディスクに「問題あり」と表示された

**A** **「東芝PC診断ツール」で「ハードディスク」を診断すると、フォーマットされていない装置は「問題あり」と表示されます。**

必要に応じて、フォーマットしてください。

## Q パソコン本体からカリカリと変な音がする

**A** **ハードディスクが自動保存を行っています。**

パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。
極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、購入した販売店または保守サービスまで連絡してください。

## Q 甲高い音がする

**A** **ハウリングを起こしています。**

ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで、音が増幅し発生する高く大きな音のことです。
使用するアプリケーションによっては、マイクとスピーカとでハウリングを起こすことがあります。
次の方法で調整してください。

- パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調整する
- 外部マイクをパソコン本体から遠ざける
- 使用しているソフトウェアの設定を変える
- ボリュームコントロールの設定で音量を調整する

参照 ボリュームダイヤル、ボリュームコントロールについて
「3章 6-① スピーカの音量を調整する」

## Q テレビやラジオの音が聞こえてくる

**A** **モジュラーケーブルがテレビ・ラジオの音を拾っている可能性があります。**

モジュラーケーブルを延長して、パソコン本体と電話回線を接続している場合は、モジュラーケーブルを延長せずに使用して確認してください。
また、モジュラーケーブルにノイズ除去用部品を取り付けてください。
それでも解決できない場合は、電話回線自体がノイズを拾っている可能性があります。契約している電話会社に相談してください。

## Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

**A 次の操作を行ってください。**

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオからはなす
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のノイズフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

## Q パソコンが応答しない

**A 応答しないアプリケーションを強制終了してください。**

この場合、保存されていないデータは消失します。

参照 アプリケーションの強制終了の方法
「本節 アプリケーション - Q アプリケーションが操作できなくなった」

アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行ってください。

**A Windows を強制終了し、再起動してください。**

システムが操作不能になったとき以外は行わないでください。強制終了を行うと、スタンバイ／休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。

参照 Windows の強制終了の方法
「本節 電源を入れるとき／切るとき -Q ［終了オプション］から電源が切れない」

強制終了後、パソコン本体の電源を入れてください。

## Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある

**A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。**

ウイルスチェックの操作方法がわからない場合や、ウイルス駆除ができなかった場合は、ウイルスチェックソフトのメーカへお問い合わせください。

参照 アプリケーションの問い合わせ
「本章 4 問い合わせ先」

## Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

**A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリパックをパソコン本体から取りはずしてから購入店、または保守サービスに相談してください。**

なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 修理の問い合わせについて
「本章 1-④ 修理に出す」、
『東芝 PC サポートのご案内』

## Q 操作できない原因がどうしてもわからない

**A パソコン本体のトラブルの場合は、「本章 1-③-1 トラブルチェックシート」で必要事項を確認のうえ、東芝 PC あんしんサポートに連絡してください。**

**A アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口に問い合わせてください。**

参照 アプリケーションの問い合わせ先
「本章 4 問い合わせ先」

**A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口に問い合わせてください。**

参照 周辺機器の問い合わせ先
『周辺機器に付属の説明書』

## Q パソコンを廃棄したい

**A 本製品を廃棄するときは、家庭で使用している場合と企業で使用している場合とで、廃棄方法が異なります。
また、ハードディスク上のデータを消去する必要があります。**

詳しくは、「11 章 5 捨てるとき／人に譲るとき」を参照してください。

## Q 海外でパソコンを使いたいときは？

A 次の点に気をつけてください。

1 お使いになる国／地域の電源プラグの形状を確認する

● ACアダプタ

本製品のACアダプタは、100～240Vの電圧に対応しているので、この範囲内の電圧の国／地域*1で使用できます。
本製品に同梱されているACアダプタは基本的に世界中の国／地域*1で使用できます。

＊1 一部の国の特定地域では、使用できない場合があります。

● 電源コード

電源コード（電源プラグからACアダプタまでのケーブル）は、日本の法令、安全規格に適合しています。
海外でお使いになる場合は、使用電圧や電源プラグの形状が異なりますので、お使いになる国／地域の法令・安全規格に適合する電源コード（市販品）をご用意ください。

参照 ACアダプタ、電源コード、電源プラグについて
「1章 1-① 電源コードとACアダプタを接続する」

2 通信関係の確認をする

● 内蔵モデム、無線LAN

国／地域によっては、モデムや無線LAN装置の使用に認可が必要です。本製品は出荷時に認可を受けていますが、すべての国／地域の認可は受けていません。「付録 3 技術基準適合について」やカタログ、または対応する国／地域を記載したシートで、使用できる国／地域を確認してください。
それ以外の国／地域で本製品を使用する場合は、その国／地域に対応した機器（市販品）を使用するか、内蔵モデムや無線LAN機能の使用はお控えください。東芝製オプションはありません。各国／地域に適合した機器をご購入ください。

● モジュラージャックの形状

モジュラージャックは、国／地域によって形状が異なります。本製品は北米と日本の形状に対応していますが、その他の国／地域ではプラグをその地にあう形状に変換するための変換プラグ（市販品）が必要です。東芝製オプションはありません。各国／地域で法令・規格に適合したモジュラーケーブルや変換プラグをご購入ください。

● モデム設定ユーティリティ

本製品に内蔵されているモデムは、多数の国／地域で利用可能です。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で、使用する国／地域を設定してください。

参照 設定方法 「4章 1-②-3
海外でインターネットに接続するときには」

3 必要なものを準備する

- 取扱説明書
- Officeパッケージ*1*2
- 保証書

リカバリする必要が生じたときのために、Office Personal 2003*1とOffice OneNote 2003*2のパッケージ一式をお持ちください。
本製品はハードディスクからリカバリできますが、これらのアプリケーションは同梱のCD-ROMからリカバリする必要があります。

＊1 Office搭載モデルのみ
＊2 OneNote搭載モデルのみ

参照 リカバリについて 「10章 1 リカバリとは」

故障したときのために、保証書と購入時のレシート*1をお持ちください。
ILW（International Limited Warranty）は海外の所定の地域*2でILWの制限事項・確認事項の範囲内で、修理サービスがご利用いただける、東芝の制限付海外保証制度です。保証書がILWの保証書を兼ねています。
ILWについての詳細は、次のホームページも参照してください。

http://dynabook.com/assistpc/ilw/index_j.htm

＊1 保証書に購入店の捺印と購入日が明記されていれば、必要ありません。
＊2 ILW対象地域の一部地域では、法律により輸出入が規制されている部品・役務があります。規制に該当する場合は、サービス対象外となりますので、あらかじめご了承ください。

4 プロバイダを選定する

加入しているプロバイダのアクセスポイントがその地域になければ、メールを送受信するたびに、普段よりも料金が余計にかかります。加入しているプロバイダのアクセスポイントが渡航先にあるか、または、アクセスポイントを持つ他のプロバイダと提携接続サービス（ローミングサービス）を行っていれば、通常通りにメール送受信が可能です。
ご出発前に、加入しているプロバイダのホームページで、アクセスポイントやローミングサービスの有無、設定方法などを確認しておくことをお奨めします。

＜必要な書類など＞

海外に持ち出す物によっては、「輸出貿易管理令および外国為替令に基づく規制貨物の該非判定書」という書類が必要な場合がありますが、本パソコンを、旅行や短期出張で自己使用する目的で持ち出し、持ち帰る場合、該非判定書は基本的には必要ありません。ただし、パソコンを他人に使わせたり譲渡する場合には、輸出許可が必要となる場合があります。
また、パソコンを米国政府の定める輸出規制国に持ち出す場合は、米国政府の輸出許可が必要となる場合があります。

パソコンを海外で使用する場合のより詳細な情報は、下記のホームページを参照してください。

http://dynabook.com/assistpc/export/index_j.htm

# 問い合わせ先

－OS／アプリケーション／プロバイダ－

＊ 2006年7月現在の内容です。
各社の事情で、受付時間などが変更になる場合があります。

## ① OSの問い合わせ先

Windowsセキュリティセンターなど、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2セキュリティ強化機能搭載の新規機能についてのサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

http://support.microsoft.com/

Windows XPに関する一般的なお問い合わせは、東芝PCあんしんサポートになります。

※当社製品でWindows Vista™をご使用になる上での注意・制限事項を含めた最新情報は、dynabook.comサポート情報（http://dynabook.com/assistpc/）で順次公開をします。

## ② アプリケーションの問い合わせ先

各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれの問い合わせ先まで問い合わせてください。

- Adobe Reader
- CD/DVD静音ユーティリティ
- ConfigFree
- Fn-esse
- Internet Explorer
- InterVideo WinDVD
- Java™ 2 Runtime Environment
- Outlook Express
- PadTouch
- PC引越ナビ
- TOSHIBA Direct Disc Writer
- TOSHIBA Disc Creator
- TOSHIBA Reccovery Disc Creator
- TOSHIBA Smooth View
- TOSHIBA Virtual Sound
- Windows Media Player
- Windows Movie Maker 2
- 東芝HWセットアップ
- 東芝PC診断ツール
- 東芝SDメモリカードフォーマット
- 東芝コントロール
- 東芝省電力
- 内蔵モデム用地域選択ユーティリティ

以上のお問い合わせ先

東芝（東芝PCあんしんサポート）
全国共通電話番号
：0120-97-1048
（通話料・電話サポート料無料）
おかけいただくと、アナウンスが流れます。
アナウンスに従って操作してください。
技術的な質問、お問い合わせは、アナウンスの後で①をプッシュしてください。
技術相談窓口 受付時間
：9:00～19:00（年中無休）
[電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください]
海外からの電話、携帯電話、PHS、または直収回線など回線契約によってはつながらない場合がございます。その場合は TEL 043-298-8780（通話料お客様負担）にお問い合わせください。

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝PCあんしんサポート」（http://dynabook.com/assistpc/anshin/index_j.htm）にてお知らせいたします。

- Microsoft Office Excel
- Microsoft Office Home Style+
- Microsoft Office Outlook
- Microsoft Office Word　以上のお問い合わせ先

マイクロソフト 無償サポート

〈TEL〉

ＴＥＬ ： 東京：03-5354-4500
　　　： 大阪：06-6347-4400

※ 次の情報をお手元に用意してご連絡ください。
郵便番号、ご住所、お名前、電話番号、お問い合わせ製品のプロダクトID
詳細は、製品添付の「パッケージ内容一覧」をご覧ください。

〈受付時間・お問い合わせ回数〉

●セットアップ、インストールに関するお問い合わせ

受付時間 ： 9:30～12:00、13:00～19:00（平日）
10:00～17:00（土曜日、日曜日）
（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く。日曜日が祝祭日の場合は営業いたします。その場合、振替休日は休業させていただきます）

回数 ： 指定はございません。

●基本操作に関するお問い合わせ

受付時間 ： 9:30～12:00、13:00～19:00（平日）
10:00～17:00（土曜日）
（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く）

回数 ： 4インシデント（4件のご質問）
無償サポートは4件までです。
あらかじめ、インシデント制などの詳細について、『Microsoft Office Personal Edition 2003 スタートガイド』の「お問い合わせについて」をご覧ください。

〈ホームページ〉

URL ： http://support.microsoft.com/

※ 電話サポート（無償）もしくは、製品サポートからお問い合わせになる製品をお選びください。

備考 ： マイクロソフトサポートWeb上から直接インターネットを通じてお問い合わせも可能です。

答えてねっと ： http://www.kotaete-net.net/

- マカフィー・ウイルススキャン
- マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス

以上のお問い合わせ先

マカフィー・カスタマーオペレーションセンター
（主に、ユーザ登録や更新時お支払い等、オペレーション上でのお問い合わせ。）

受付時間 ： 9:00～17:00（土・日・祝祭日除く）
TEL ： 0570-030-088
E-mail ： http://www.nac-support.com/supportform/cs.aspx
ホームページ ： http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/

マカフィー・テクニカルサポートセンター
（主に、ソフトウェアご使用上の操作方法や不具合等技術的なお問い合わせ。）

受付時間 ： 9:00～21:00（年中無休）
TEL ： 0570-060-033
E-mail ： http://www.nac-support.com/supportform/ts.aspx
ホームページ ： http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/

- goo スティックのお問い合わせ先

goo 事務局

受付時間 ： 10:00～17:00
（土・日・祝日・年末年始を除く）
TEL ： 045-848-4190
E-mail ： info@goo.ne.jp
ホームページ ： http://stick.goo.ne.jp

- ファイナルストッパー 2006 AntiSpy のお問い合わせ先

AOS テクノロジーズ株式会社 技術サポート

受付時間 ： 月曜～金曜
9:30～12:00、13:00～20:00
（土日祝祭日を除く）
※ 夏期休暇や、年末休暇は随時 Web（http://www.finaldata.jp/support/support.html）にてお知らせいたしております。
TEL ： 03-3560-6290
FAX ： 03-5575-2270
E-mail ： finalstopper@aos.com
ホームページ ： http://www.finaldata.jp/support/faq_index.html

## ③ プロバイダの問い合わせ先

プロバイダサインアップソフトから契約できるプロバイダの問い合わせ先は、次のとおりです。

● OCN のお問い合わせ先

● OCN サービスの入会に関するご相談
TEL　：0120-506506
受付時間　：9:00 ～ 21:00
＊ 年末、年始を除く

● OCN サービスご契約者専用お問い合わせ先
OCN カスタマサポート
TEL　：0120-047-860
FAX　：0120-047-861
受付時間　：9:00 ～ 21:00（月～金）
9:00 ～ 17:00（土・日・祝日）
＊ 年末、年始を除く
E-mail　：support@ocn.ad.jp
ホームページ：http://www.ocn.ne.jp/

● ODN のお問い合わせ先

ODN サポートセンター

● ODN サービスに関するお問い合わせ
TEL　：0088-86
（無料。ダイヤルアップコース）
：0088-222-375
（無料。ADSL ／光コース）
受付時間：24 時間自動受付
（9:00 ～ 18:00 は
オペレーター受付も可能）

●接続に関するお問い合わせ
TEL　：0088-85
（無料。ダイヤルアップコース）
：0088-228-325
（無料。ADSL ／光コース）
受付時間：24 時間自動受付
（9:00 ～ 18:00 は
オペレーター受付も可能。
また、ADSL ／光コースの場合、
オペレーター受付は 9:00 ～ 21:00）

● E-mail によるお問い合わせ
ダイヤルアップコースサービス案内
：odn-support@odn.ad.jp
ダイヤルアップコース接続サポート
：tech-support@odn.ad.jp
ADSL ／光コースサービス案内・接続サポート
：info-adsl@odn.ad.jp

● FAX によるお問い合わせ
ODN FAX サービス：0088-218-586
（無料。年中無休）

# 10章

# リカバリをする

この章では、パソコンの動作がおかしくなり、いろいろなトラブル解消方法では解決できないときに行う「リカバリ」について説明しています。リカバリを行うことでシステムやアプリケーションを購入時の状態に復元できます。作成したデータなどが消去されますので、よく読んでから行ってください。

# 1 リカバリとは

リカバリ（再セットアップ）とは、お客様が作成したデータや、購入後にインストールしたアプリケーション、現在の設定などをすべて削除し、もう一度ご購入時の状態に復元する作業です。ハードディスク内に保存されているデータ（文書ファイル、画像・映像ファイル、メールやアプリケーションなど）はすべて消去され、設定した内容（インターネットやメールの設定、Windows ログオンパスワードなど）も購入時の状態に戻る、つまり何も設定していない状態になります。

次のような、どうしても他に方法がないときにリカバリをしてください。

- パソコンの動作が非常に遅くなった
- 周辺機器が使えなくなった
- ハードディスクにあるシステムファイルを削除してしまった
- コンピュータウイルスやスパイウェアなどに感染し、駆除できない*1
- パソコンの調子がおかしく、いろいろ試したが解消できない
- 東芝 PC あんしんサポートに相談した結果、「リカバリが必要」と診断された

＊1 アプリケーションが正常に起動できない場合など、状態によってはウイルスチェックができない場合があります。

## ① リカバリをする前に確認すること

パソコンの動作がおかしいと感じたとき、次の方法を実行してみてください。リカバリをしなくても、状態が改善される場合があります。次の方法をすべて試してみても状態が改善されない場合に、リカバリを実行してください。

### 1 ウイルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する

プレインストールされているウイルスチェックソフトを使って、ウイルスに感染していないかどうかを確認してください。ウイルスが検出されたら、ウイルスチェックソフトで駆除できます。その際、ウイルス定義ファイル（パターンファイル）は、最新のものに更新しておいてください。場合によっては、ウイルスチェックソフトで駆除できないウイルスもあります。そのときは、リカバリを実行してください。

参照 ウイルスチェックソフト 「7 章 3 マカフィー・ウイルススキャンによるウイルス対策」

### 2 セーフモードで起動できるか実行してみる

Windows が起動できないときは、次のように実行してみてください。

**1 F8キーを押しながら、電源を入れる**

**2 ［TOSHIBA］画面から切り替わって、2～3 秒後にF8キーから指をはなす**

しばらくすると Windows 拡張オプションメニューが表示されます。
F8キーを押すタイミングにより、「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されない場合があります。
その場合は再度、手順 1 と 2 を行ってください。
「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されずにオペレーティングシステムの選択画面が表示された場合は、もう 1 度F8キーを押すと、「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。

**3 ［セーフモード］を選択し、Enterキーを押す**

最低限の機能で Windows を起動させることができます。これで起動できた場合は、リカバリをする前に「東芝 PC あんしんサポート」にご相談ください。

### 3 周辺機器をすべて取りはずし、再度確認する

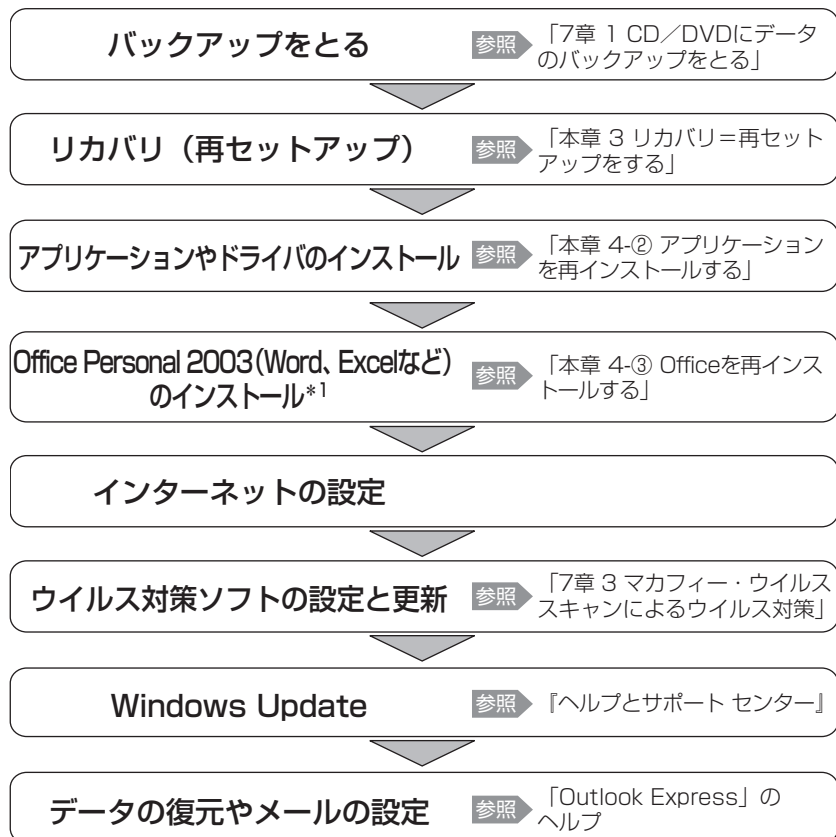
増設メモリや USB 対応機器など、購入後に追加で増設した機器が障害の原因となっている場合があります。それらを取りはずしてから、再度確認してみてください。また、電源関連のトラブルの場合は、バッテリをいったん取りはずし、再度取り付けてから起動し直してみてください。

参照 機器の取りはずし 「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

### 4 ほかのトラブル解消方法を探す

パソコンの調子がおかしいと思ったときは、「9 章 パソコンの動作がおかしいときは」で解消へのアプローチを確認してください。いろいろな解消方法を紹介しています。
それでも解消できないときに、リカバリをしてください。

## ② リカバリ（再セットアップ）の流れ

リカバリをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。

＊1 Office 搭載モデルの場合

## ③ リカバリをはじめる前にしておくこと

リカバリをはじめる前に、次の準備と確認を行ってください。

### 1 準備するもの

- 『取扱説明書』
- 巻末のリカバリチェックシートをコピーしたもの
- リカバリディスク（作成したリカバリディスクからリカバリする場合）

### 2 必要なデータのバックアップをとる

リカバリをすると、購入後に作成したデータやインストールしたアプリケーションなど、ハードディスクに保存していた内容は削除されて、設定が初期化されます。次のようなデータは削除されますので、可能な場合は、外部記憶メディア（CDやUSBフラッシュメモリなど）にバックアップをとってください。

- マイドキュメントのデータ
- デスクトップに保存したデータ
- インターネットエクスプローラのお気に入り
- メール送受信データ
- メールアドレス帳
- プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
- お客様がインストールされたアプリケーションのデータ
- お客様が作成されたフォルダとファイル

また、リカバリ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。
ただし、ハードディスクをフォーマットしたり、システムファイルを削除した場合や、電源を入れてもシステムが起動しなくなってからでは、バックアップをとることができません。また、リカバリを行っても、ハードディスクに保存されていたデータは復元できません。

### 3 アプリケーションのセットアップ用メディアを確認する

「Microsoft Office」や、購入後に追加でインストールしたアプリケーション、プリンタなどの周辺機器のドライバは、リカバリ後にインストールする必要があります。
これらを再度インストールするためのメディア（CDなど）が、お手元にあることを確認してください。

### 4 各種設定を確認する

インターネットやLANの設定、Windowsログオン時のアカウント名などの設定項目を、メモなどに控えておいてください。ウイルスチェックソフトなど、有償で購入した認証キーなどがセットアップ時に必要なアプリケーションは、それらの番号を控えておいてください。確認方法は各アプリケーションのヘルプや問い合わせ先にご確認ください。

### 5 音量を調節する

リカバリ後、Windowsセットアップが終了するまで音量の調節はできません。
あらかじめ、ボリュームダイヤルで音量を調節してください。(Fn)+(Esc)キーを使って、内蔵スピーカやヘッドホンの音量をミュート（消音）にしている場合は、もう一度(Fn)+(Esc)キーを押して元に戻しておいてください。

### 6 周辺機器をすべて取りはずす

増設メモリやUSB対応機器など、パソコン本体に取り付けている物は、ACアダプタのケーブル以外すべて取りはずしてください。
このとき、パソコン本体の電源を切ってから行ってください。

参照 機器の取りはずし 「5章 周辺機器を使って機能を広げよう」

# リカバリディスクを作る

パソコン本体には、システムやアプリケーションを購入時の状態に復元するためのリカバリ（再セットアップ）ツールが内蔵されています。「TOSHIBA Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクを作成し、あらかじめ、リカバリツールのバックアップをとっておくことをおすすめします。
リカバリディスクがない状態で、リカバリツールが起動せず、リカバリが行えない場合は、修理が必要になる可能性があります。

## リカバリディスクでできること

何らかのトラブルでハードディスクからリカバリできない場合でも、リカバリディスクからリカバリをすることができます。

**お願い**

＊リカバリディスクを作成するには、下記以外にもお願い事項があります。
「7章 1 CD／DVDにデータのバックアップをとる」のお願いを確認してください。

- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」ではDVD-RAM、DVD-R DL、DVD+R DLを使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」を使ってリカバリディスクなどを作成するときは、他のアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。

**メモ**

- 「TOSHIBA Recovery Disc Creator」では、リカバリツールを次のメディアに保存して、リカバリディスクを作成できます。
  作成するメディアの種類は、［TOSHIBA Recovery Disc Creator］画面の［ディスク構成］で確認できます。
  ・DVD-R（DL除く）　・DVD-RW
  ・DVD+R（DL除く）　・DVD+RW
- あらかじめバックアップ用のディスクを用意してください。必要な枚数は、［TOSHIBA Recovery Disc Creator］画面の［情報］に表示されています。複数枚使用する場合は、同じ規格のメディアで統一してください。

参照 使用できるメディアについて 「3章 4 CDやDVDを使う」

リカバリツールのリカバリディスクを作成するには、以降の説明を参照してください。

## 1 起動方法

**1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［リカバリディスク作成ツール］をクリックする**

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」が起動します。

（表示例）

「TOSHIBA Recovery Disc Creator」で作成するディスクは、画面に表示される枚数分、メディアが必要になります。

## 2 リカバリディスクを作成する

**1 ［タイトル］で作成するディスクをチェックする（☑）**

チェックボックスにチェックがついているディスクを作成します。作成する必要のないディスクは、チェックをはずしてください。

**2 DVD メディアをセットする**

参照 「3 章 4-④ CD ／ DVD のセットと取り出し」

**3 ［作成］ボタンをクリックする**

「リカバリ DVD1 を作成します。」と表示されます。

**4 ［OK］ボタンをクリックする**

リカバリディスクの作成が開始され、［現在のディスク］に作成しているディスクの進捗状況が表示されます。
ディスクの作成が終了すると、ドライブのディスクトレイが自動的に開きます。
作成するディスクが複数枚ある場合は、メッセージに従ってメディアを入れ替えてください。
ディスクの作成を途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

**5 メッセージを確認し、［OK］ボタンをクリックする**

作成したディスクの種類（リカバリディスクなど）と番号がわかるように、ディスク作成後は、忘れずに「XXXXXX ディスク XX」とレーベルをつけてください。リカバリをするとき、この番号どおりにディスクを使用しないと、正しくリカバリされません。必ずディスク番号がわかるようにレーベルをつけてください。

**6 ［閉じる］ボタン（ ☒ ）をクリックする**

［TOSHIBA Recovery Disc Creator］画面が閉じ、ディスクの作成を終了します。
リカバリディスクからリカバリをする操作手順については、「本章 3-④ リカバリディスクからリカバリをする」を参照してください。

# リカバリ=再セットアップをする

本製品にプレインストールされているWindowsやアプリケーションを復元する方法について説明します。
本製品のリカバリは、ユーザ権限に関わらず、誰でも実行できます。誤って他の人にリカバリを実行されないよう、ユーザパスワードを設定しておくことをおすすめします。

参照 ユーザパスワード 「8章4 パスワードセキュリティ」

## ① いくつかあるリカバリ方法

リカバリには、次の方法があります。

- ハードディスクドライブからリカバリをする
- リカバリディスクからリカバリをする

通常はハードディスクドライブからリカバリをしてください。
リカバリディスクからのリカバリは、ハードディスクドライブのリカバリ（再セットアップ）ツール（システムを復元するためのもの）を消してしまったり、ハードディスクからリカバリができなかった場合などに行うことをおすすめします。
リカバリディスクからリカバリをする場合は、「本章2 リカバリディスクを作る」を確認して、リカバリディスクを用意してください。

**お願い**

- 市販のソフトウェアを使用してパーティションの構成を変更すると、リカバリができなくなることがあります。

## ② ハードディスクからリカバリをする

ハードディスクのリカバリツールでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

**■ご購入時の状態に復元■**
ハードディスクをパソコンを購入したときの状態（パーティションが2個の状態）に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。購入後に作成したデータなどは消去されます。

**■パーティションサイズを変更せずに復元■（推奨）**
パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。Cドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータは、そのまま残ります。ただし、BIOS情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、Cドライブ以外の領域にあるデータも使えないことがあります。

**■パーティションサイズを指定して復元■**
Cドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。Cドライブ以外のハードディスクの領域は一つの領域になり、そこに保存されていたデータは消去されます。

- どのメニューを選択しても、Cドライブにはリカバリツールから購入時と同じシステムが復元されます。

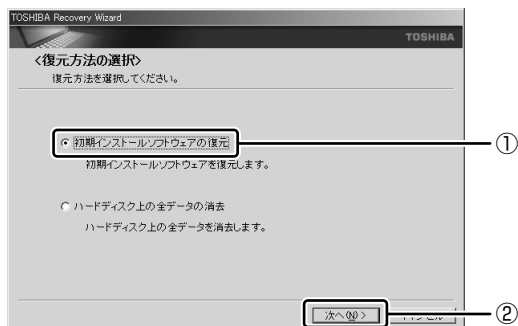
ここでは、「パーティションサイズを変更せずに復元」する方法を例にして説明します。

**1** **パソコンの電源を切る**

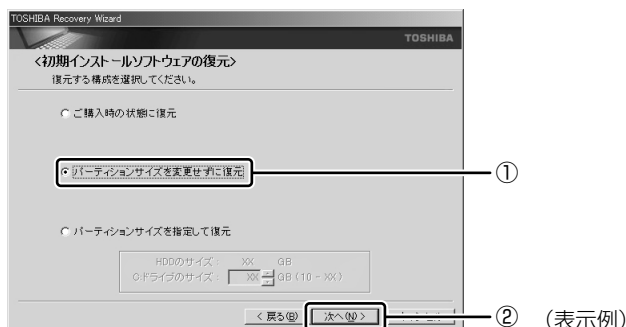
**2** **ACアダプタと電源コードを接続する**

## 3 キーボードの(0)（ゼロ）キーを押しながら電源スイッチを押し、「TOSHIBA」画面が表示されてから手をはなす

このとき、「TOSHIBA」画面が表示されてもすぐに手をはなさず、数秒おいてから手をはなしてください。
ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードを入力して(Enter)キーを押してください。
［復元方法の選択］画面が表示されます。

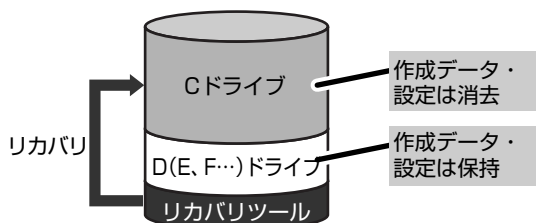
## 4 ［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏洩を防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、リカバリツールの領域以外のすべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクの消去について 「11章5-②-5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

## 5 ［パーティションサイズを変更せずに復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

（表示例）

［パーティションサイズを変更せずに復元］を選択した場合の意味と動作は、次のとおりです。
他のメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

・［ご購入時の状態に復元］　　　　　　：P.190
・［パーティションサイズを指定して復元］：P.190

● 「パーティションサイズを変更せずに復元」とは
「パーティションサイズを指定して復元」を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。Cドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

Cドライブ（■）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

（ハードディスクの領域を分割している場合の表示例）

「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

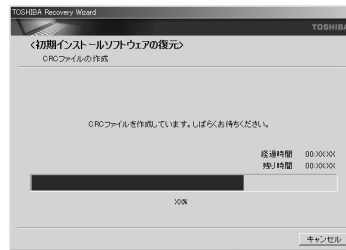
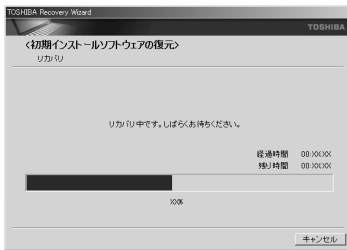
● リカバリツールの領域が確保されているため、ハードディスクの100%を使用することはできません。

**6** **［次へ］ボタンをクリックする**

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
復元が実行されます。

また、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

**7** **［終了］ボタンをクリックする**

システムが再起動し、［Microsoft Windowsへようこそ］画面が表示されます。

**8** **Windowsのセットアップを行う**

参照 詳細について 「1章 1 Windowsを使えるようにする」

● 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

参照 詳細について 「本章 4-② アプリケーションを再インストールする」

購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう1度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続 「5章 周辺機器を使って機能を広げよう」

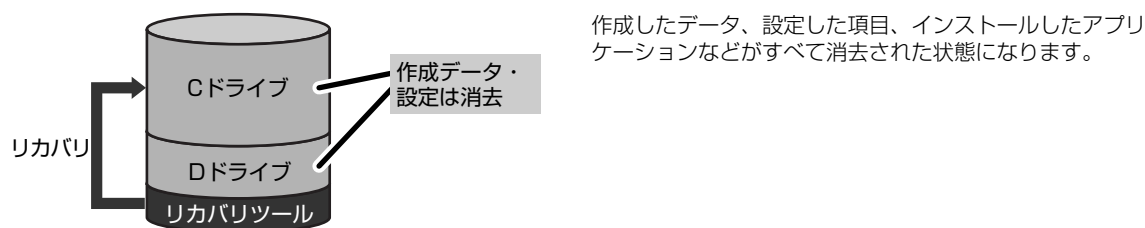
## ［初期インストールソフトウェアの復元］画面のリカバリメニューについて

「本節 ② ハードディスクからリカバリをする」の手順５の［初期インストールソフトウェアの復元］画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

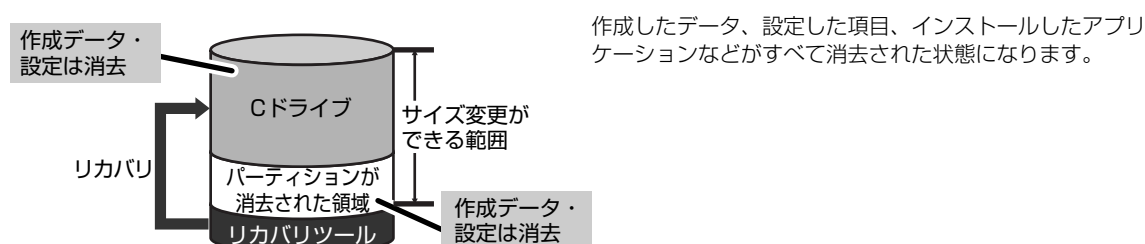
**【 ご購入時の状態に復元 】**
パソコンを購入したときの状態（パーティションが 2 個の状態）に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順５の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

---

**【 パーティションサイズを指定して復元 】**
ハードディスク（C ドライブ）のサイズを変更します。
C ドライブ以外の領域区分（パーティション） は消去され、一つの領域になります。その領域（ ）は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

参照 ディスクの管理 「本章 4-①-1 パーティションを設定する」

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

①［C：ドライブのサイズ］で をクリックしてパーティション（C ドライブ）のサイズを指定する
②［次へ］ボタンをクリックする
　手順５の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

# ③ リカバリディスクからリカバリをする

リカバリディスクでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

**■ご購入時の状態に復元■**
ハードディスクをパソコンを購入したときの状態（パーティションが 2 個の状態）に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。購入後に作成したデータなどは消去されます。

**■ Windows パーティションのみに復元■**
ハードディスク全体を 1 つのパーティション（C ドライブのみ）にするため、全領域を使用できるようになります。なお、リカバリツールの領域は消去され、復元されません。購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。また購入後に作成したデータなどは消去されます。

**■パーティションサイズを変更せずに復元■**
パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。C ドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータは、そのまま残ります。

**■パーティションサイズを指定して復元■**
C ドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。C ドライブ以外のハードディスクの領域は 1 つの領域になり、そこに保存されていたデータとリカバリツールの領域は消去されます。

- どのメニューを選択しても、C ドライブには購入時と同じシステムが復元されます。

**1** **AC アダプタと電源コードを接続する**

**2** **リカバリディスクをセットして、パソコンの電源を切る**

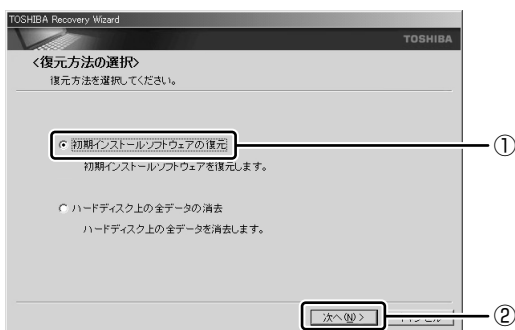
リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク 1」からセットしてください。

**3** **キーボードの F12 キーを押しながら電源スイッチを押し、「TOSHIBA」画面が表示されてから手をはなす**

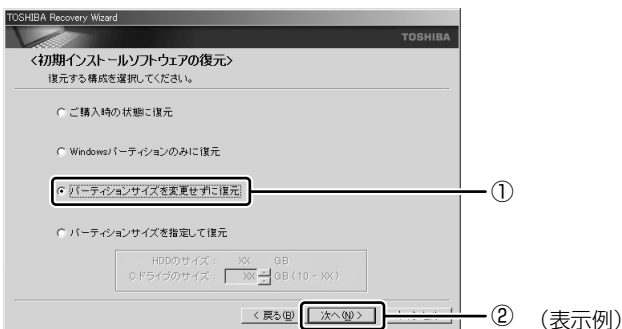
ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードを入力して Enter キーを押してください。

**4** **↓ または ↑ キーで［CD/DVD］を選択し、Enter キーを押す**

［復元方法の選択］画面が表示されます。

**5** **［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏洩を防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、すべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクの消去について 「11 章 5- ② -5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

**6** **［パーティションサイズを変更せずに復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

（表示例）

［パーティションサイズを変更せずに復元］を選択した場合の意味と動作は、次のとおりです。
他のメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

・［ご購入時の状態に復元］ ：P.193
・［Windows パーティションのみに復元］：P.193
・［パーティションサイズを指定して復元］：P.194

● 「パーティションサイズを変更せずに復元」とは
「パーティションサイズを指定して復元」を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。C ドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

C ドライブ（■）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

（ハードディスクの領域を分割している場合の表示例）

「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

### メモ

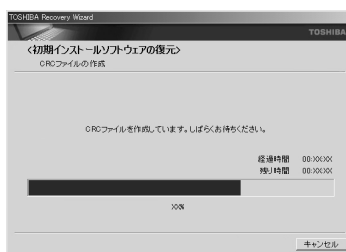
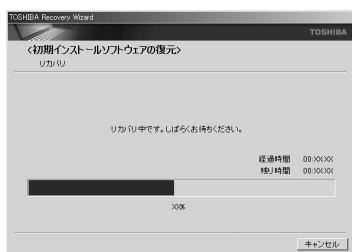
● 「ご購入時の状態に復元」と「パーティションサイズを変更せずに復元」を選択した場合は、リカバリツールの領域が確保されているため、ハードディスクの 100% を使用することができません。

## 7 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
復元が実行されます。

また、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。
リカバリディスクが複数枚ある場合、画面の指示に従って入れ替えてください。

＊ 手順６で［ご購入時の状態に復元］を選択した場合は、最初に［コピーしています。］画面が表示されます。
長い時間表示される場合もありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

## 8 ［終了］ボタンをクリックする

自動的にディスクトレイが開きます。リカバリディスクを取り出してください。
システムが再起動し、［Microsoft Windows へようこそ］画面が表示されます。

## 9 Windows のセットアップを行う

参照 詳細について 「1 章 1 Windows を使えるようにする」

- 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

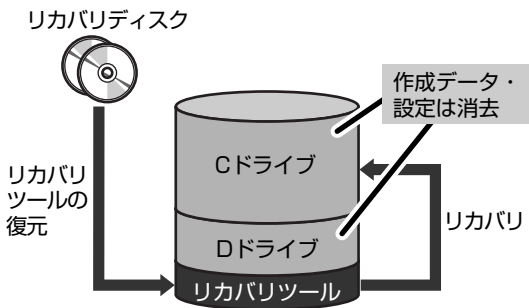
参照 詳細について 「本章 4-② アプリケーションを再インストールする」

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

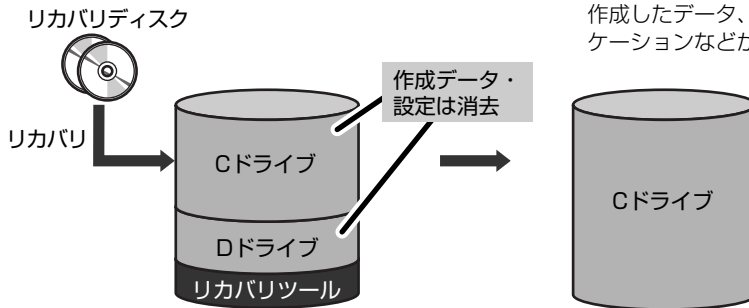
参照 周辺機器の接続 「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

### ［初期インストールソフトウェアの復元］画面のリカバリメニューについて

「本節 ③ リカバリディスクからリカバリをする」の手順 6 の［初期インストールソフトウェアの復元］画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

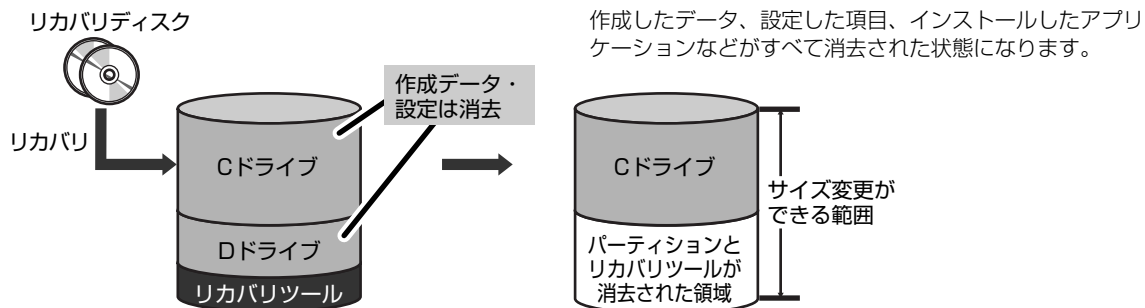
**【 ご購入時の状態に復元 】**
パソコンを購入したときの状態（パーティションが 2 個の状態）に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順 6 の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

**【 Windows パーティションのみに復元 】**
ハードディスク全体を 1 つのパーティションにします。リカバリツールの領域は消去されます。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

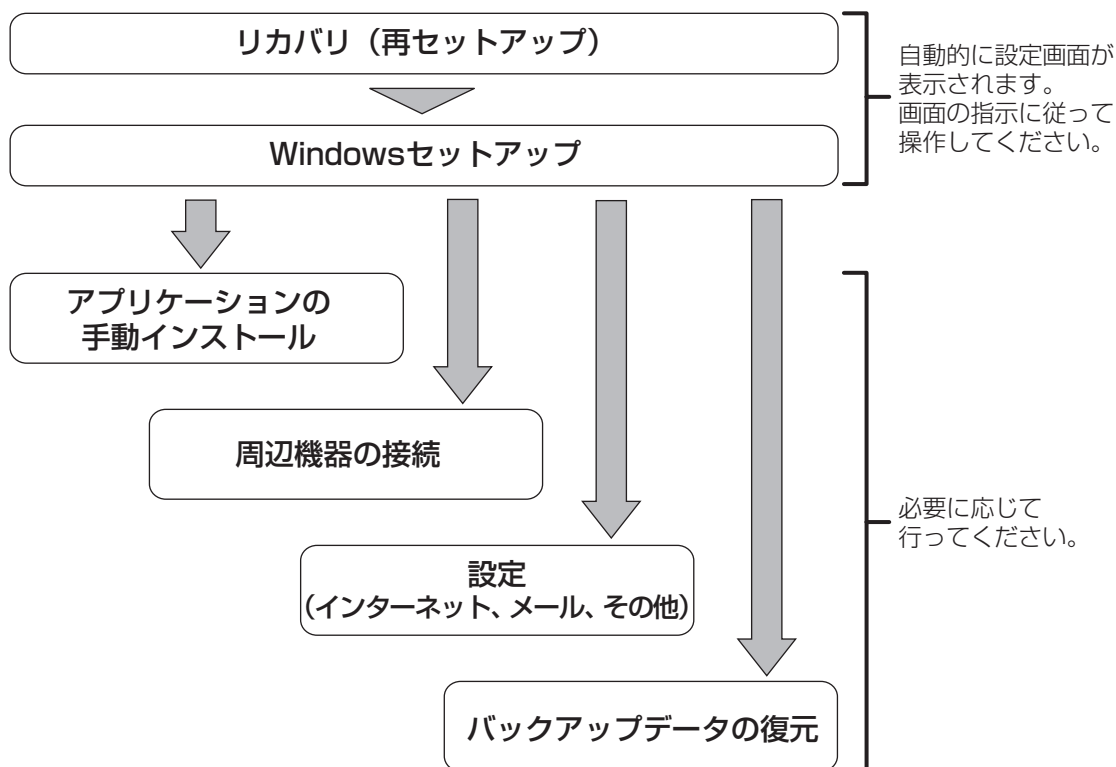
手順 6 の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

【 パーティションサイズを指定して復元 】
ハードディスク（C ドライブ）のサイズを変更します。
C ドライブ以外の領域区分（パーティション） とリカバリツールの領域は消去され、一つの領域になります。その領域は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。

参照 ディスクの管理 「本章 4-①-1 パーティションを設定する」

①[C：ドライブのサイズ］で をクリックしてパーティション（C ドライブ）のサイズを指定する
②[次へ］ ボタンをクリックする

手順６の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

# 4 リカバリをしたあとは

リカバリ後は次の流れで設定を行います。

ここでは次の点を説明します。

- パーティションの設定
- プレインストールアプリケーションの手動インストール
- Office Personal 2003、Office OneNote 2003 の再インストール*[1]

＊1 Office 搭載モデル、OneNote 搭載モデルのみ

10章 リカバリをする

## ① Windows セットアップのあとは

パーティションの設定を変更してリカバリをした場合のみ、次項［1］の操作を行ってください。

### 1 パーティションを設定する

パーティションの設定を変更してリカバリをした場合は、リカバリ後すみやかに次の設定を行ってください。

**お願い**

- Windowsの「ディスクの管理」を使用すると、「HDDRECOVERY」というボリュームのパーティションが表示されます。このパーティションにはリカバリ（システムの復元）するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、リカバリはできなくなります。

**1** **コンピュータの管理者になっているユーザアカウントでログオンする**

**2** **［コントロールパネル］を開き、［ パフォーマンスとメンテナンス］をクリックする**

**3** **［ 管理ツール］をクリックする**

**4** **［ コンピュータの管理］をダブルクリックする**

**5** **画面左の［ディスクの管理］をクリックする**

設定していないパーティションは［未割り当て］と表示されます。

**6** **［ディスク0］の［未割り当て］の領域を右クリックする**

**7** **表示されるメニューから［新しいパーティション］をクリックする**

［新しいパーティションウィザード］が起動します。

**8** **［次へ］ボタンをクリックし、ウィザードに従って設定する**

次の項目を設定します。
・パーティションの種類
・パーティションサイズ
・ドライブ文字またはパスの割り当て
・フォーマット
・ファイルシステム

**9** **設定内容を確認し、［完了］ボタンをクリックする**

フォーマットが開始されます。
パーティションの状態が［正常］と表示されれば完了です。
詳細については「コンピュータの管理」のヘルプを参照してください。

**【 ヘルプの起動 】**
①メニューバーから［ヘルプ］→［トピックの検索］をクリックする

## ② アプリケーションを再インストールする

本製品にプレインストールされているアプリケーションは、一度削除してしまっても、必要なアプリケーションやドライバを指定して再インストールすることができます。Office 搭載モデルの Office Personal 2003 および OneNote 搭載モデルの Office OneNote 2003 は、リカバリ後に同梱の CD-ROM で再インストールする必要があります。「本節 ③ Office を再インストールする」を確認してください。

【 必要なもの 】
- 『取扱説明書』

アプリケーションによっては、再インストール時に ID 番号などが必要です。あらかじめ確認してから、再インストールすることを推奨します。

同じアプリケーションがすでにインストールされているときは、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」または各アプリケーションのアンインストールプログラムを実行して、アンインストールを行ってください。
アンインストールを行わずに再インストールを実行すると、正常にインストールできない場合があります。ただし、上記のどちらの方法でもアンインストールが実行できないアプリケーションは、上書きでインストールしても問題ありません。

### 1 操作手順

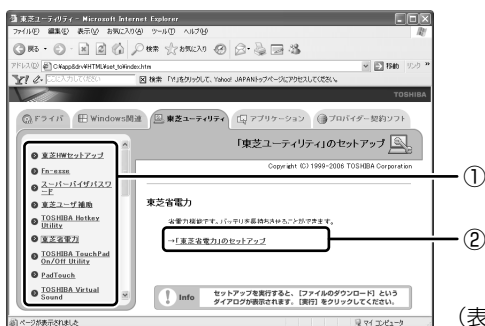
**1** ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アプリケーションの再インストール］をクリックする

**2** ［セットアップ画面へ］をクリックする

アプリケーションやドライバのセットアップメニュー画面が表示されます。アプリケーションやドライバのセットアップメニューは、カテゴリごとのタブに分かれています。

初めて起動したときは、［ドライバ］タブが表示されています。タブをクリックして再インストールしたいアプリケーションを探してください。
画面左側にはアプリケーションの一覧が表示されています。
画面右側にはアプリケーションの説明が書かれていますので、よくお読みください。

**3** 画面左側のアプリケーション名を選択し①、画面右側の「XXX のセットアップ」をクリックする②

「XXX」にはアプリケーション名が入ります。選択したメニューによっては別の言葉が表示されます。説明文の下の青い下線の引かれている言葉をクリックしてください。

（表示例）

**4** 表示されるメッセージに従ってインストールを行う

［ファイルのダウンロード］画面が表示された場合は、「実行」ボタンをクリックしてください。

## ③ Officeを再インストールする

＊ Office搭載モデル、OneNote搭載モデルの場合

文書作成ソフトの「Word」や表計算ソフト「Excel」を使いたい場合はOffice Personal 2003をインストールする必要があります。
ここでは、Office Personal 2003およびOffice OneNote 2003を再インストールする方法を説明します。

【 必要なもの 】
同梱の「Microsoft® Office Personal Edition 2003」または「Microsoft® Office OneNote® 2003」と書いてあるパッケージに、必要なものが一式入っています。

「Microsoft® Office Personal Edition 2003」一式
- Microsoft® Office Personal Edition 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office Home Style+ CD-ROM
- Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタート ガイド

「Microsoft® Office OneNote® 2003」一式
- Microsoft® Office OneNote® 2003 CD-ROM
- Microsoft® Office OneNote® 2003 お使いになる前に

再インストールした場合、ライセンス認証が必要になります。

### 再インストール方法とセットアップ方法

詳細は、『Microsoft® Office Personal Edition 2003 スタート ガイド』、『Microsoft® Office OneNote® 2003お使いになる前に』を確認してください。

【 Service Pack2について 】
添付のCDからOffice Personal 2003、Home Style+、Office OneNote 2003を再インストールした場合、Service Pack2は組み込まれません。「アプリケーションの再インストール」から再インストールしてください。

参照 アプリケーションの再インストール 「本節 ② アプリケーションを再インストールする」

【 「手書き入力パッド」を使用するとき 】
Office Personal 2003を再インストールした場合、Microsoft Office WordやMicrosoft Office Excelなどのアプリケーションを使用するときに、IMEツールバーの［手書き］ボタン→［手書き入力パッド］をクリック（または［手書き入力パッド］ボタンをクリック）すると、「言語の入力システムが正常にインストールされていることを確認してください」という警告メッセージが表示される場合があります。
言語の入力システム（Microsoft IME）は正常にインストールされており、動作上の問題はありませんので、「今後、このメッセージを表示しない」のチェックボックスをチェックして、［OK］ボタンをクリックしてください。

# 11章

# 登録とケア －廃棄と譲渡－

この章では、パソコンの日ごろのお手入れや、保守や修理に関することを説明しています。
バッテリの廃棄やパソコン本体を捨てるときや人に譲るときの処置について知っておいて欲しいことを説明しています。

# お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザ）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザ登録」といいます。
お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。
お客様登録を行わなくても、パソコンやアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

## ① 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
東芝ID（TID）は、複数のデジタル商品、および東芝オンラインショッピングサイト「Shop1048」で共通にご利用いただけるお客様専用IDです。Room1048登録対象の東芝デジタル商品をご購入されたかたが対象で、インターネット経由でご登録いただけます。

「Shop1048」でご購入の際にお手続きのなかで、TIDをご登録いただいたお客様は、あらためてご登録いただく必要はありません。また、TIDをご登録後は、はがきでのご登録は不要です。

【 東芝ID（TID）でご利用いただけるサービス 】
- お客様専用個人ページ「Room1048（ルームトウシバ）」をご利用いただけます。
- PCオンラインによるメールでの技術相談をお受けいたします。
- アンケートなどでご取得いただくポイントで、プレゼントの抽選にご応募いただけます。
- 「Shop1048」でお買い物時には、便利でお得なTID会員メニューをご利用いただくことができます。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

**お願い** ご登録にあたって

- TID登録には、メールアドレスが必要です（携帯電話のメールアドレスはご遠慮ください）。
- 上記のサービス項目のうち、個人ページおよびポイント制度については、個人のお客様のみ対象となります。
- ご登録住所は、日本国内のみに限らせていただきます。
- この記載内容は2006年7月現在のものです。内容については、予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

### 登録方法

お客様の環境に応じて、登録方法を選択できます。

【 方法1 -［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法 】
インターネットに接続後、登録用のホームページに簡単にアクセスできます。
すでにインターネット接続の設定が行われており、インターネットを使ったことがあるかた向けの方法です。

【 方法2 - インターネットからのご登録方法 】
インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。
すでにインターネット接続の設定が行われており、インターネットを使ったことがあるかた向けの方法です。

【 方法3 - インターネットにすぐに接続されないお客様 】
まだインターネット接続の予定がないかたは、『お客様登録カード』（はがき）で仮登録を行ってください。後日インターネットで正式なTID登録を行っていただく必要があります。

商品の追加登録は「方法1」または「方法2」で行います。
続けてそれぞれの登録方法を紹介します。

## 1 ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダとの契約をしている場合に、本製品に添付のアプリケーションを利用して、TID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続している間の通信料金やプロバイダ使用料などの費用はお客様負担になりますので、あらかじめご了承ください。

**お願い**　操作にあたって

あらかじめ、次のことを行ってください。

- コンピュータウイルスへの感染を防ぐために、ウイルスチェックソフトをインストールし、有効状態に設定しておいてください。

参照 「7章 3 マカフィー・ウイルススキャンによるウイルス対策」
参照 「4章 1-② ダイヤルアップで接続する」

- 複数のユーザを登録している場合は、「コンピュータの管理者アカウント」のユーザで操作してください。

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。
- 初めて「Internet Explorer」を起動したときは、操作の途中で「gooスティック」の利用を確認する［東芝dynabookをご利用の皆様へ］画面が表示されます。
  「gooスティック」を利用する場合は、［利用規約を表示］をクリックし、利用規約を確認したあと［便利なgooスティックを利用する］をクリックしてください。利用しない場合は、［利用しない］ボタンをクリックし、あとで「gooスティック」をアンインストールしてください。

**1 デスクトップ上の［東芝お客様登録］アイコン（ ）をダブルクリックする**

［「お客様登録」のお願い］画面が表示されます。

**2 内容を読んで［お客様登録へ進む］ボタンをクリックする**

**3 ［インターネットアクセス環境をお持ちの方はこちらをクリック］をクリックする**

インターネットに接続し、「Room1048」のページが表示されます。

**4 ［東芝ID（TID）新規登録・商品追加登録］欄で今回お買い上げの商品「パソコン」を選択する**

［セキュリティの警告］画面が表示された場合は、［OK］または［はい］ボタンをクリックしてください。

画面のご案内に従ってください。

- 初めてTIDをご登録される方
  ［新規TID登録に進む］ボタンをクリックしてください。
  画面のご案内に従ってご登録いただきますと、すぐにTIDを発行いたします。
- すでに他商品でTIDを取得された方
  TID、パスワードを入力し、［商品追加登録に進む］ボタンをクリックしてください。
  商品の追加登録を行っていただくことができます。

## 2 インターネットからのご登録方法

**1 「http://room1048.jp/」にアクセスする**

**2 ［東芝ID（TID）新規登録・商品追加登録］欄で今回お買い上げの商品「パソコン」を選択する**

［セキュリティの警告］画面が表示された場合は、［OK］または［はい］ボタンをクリックしてください。

画面のご案内に従ってください。

- 初めてTIDをご登録される方
  ［新規TID登録に進む］ボタンをクリックしてください。
  画面のご案内に従ってご登録いただきますと、すぐにTIDをご取得、ご利用いただけます。
- すでに他商品でTIDを取得された方
  TID、パスワードを入力し、［商品追加登録に進む］ボタンをクリックしてください。
  商品の追加登録を行っていただくことができます。

### 3 インターネットにすぐに接続されないお客様

同梱の『お客様登録カード』(はがき)に必要事項をご記入のうえ、ご送付ください。
東芝 TID 事務局より、「お客様登録番号」と TID 登録用の「仮パスワード」をはがきにて通知いたします。はがき通知後、インターネットから TID をご登録ください。
TID はインターネットからのご登録受付になります。

- 初めて TID をご登録される方
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp/」にアクセスし、[「お客様番号」をお持ちのお客様] ボタンをクリックし、通知はがきに記載されている「お客様番号」と「仮パスワード」を入力して TID 登録を行ってください。
- すでに他商品で TID を取得された方
  インターネットに接続されたときに、「http://room1048.jp/」にアクセスし、「Room1048」にログインしたあと、[登録情報変更] → [ハガキを受け取られたお客様] を選択してください。

**お願い**

- TID 登録時点でお客様登録番号は無効となります。TID でのサービス・サポートをご利用ください。
- TID をご登録にならない場合は、お問い合わせなどの際にお客様登録番号が必要になることがありますので、はがきをお手元に保管してください。

## ② その他のユーザ登録

パソコンに用意されている他のアプリケーションのユーザ登録については、同梱の『ユーザ登録用紙』または各アプリケーションのヘルプを確認してください。
また、各アプリケーションの問い合わせ先については、「9 章 4 問い合わせ先」を確認してください。

# 快適に使い続けるコツ

パソコンと長くつきあうために、あらかじめ知っておいていただきたい内容を紹介します。
ここで紹介している以外にも、各マニュアル冊子をお読みになり、パソコンを正しくお使いください。

## 1 使える周辺機器を確認しよう

パソコンには、プリンタやスキャナ、PC(ピーシー)カードなどの周辺機器を接続することができます。周辺機器を接続することによって、より便利にパソコンを活用できます。
ただし、周辺機器はインタフェース（接続方式）が違うと接続できません。
購入するときは、マニュアルで本製品のインタフェースを確認のうえ、本製品で使用できるかどうかを周辺機器の取り扱い元や販売店で確認してください。

参照 周辺機器について 「5 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

## 2 お手入れも忘れずに

パソコンはちりやホコリが苦手です。日常の手入れを行ってください。
パソコンは精密機械です。**故障や感電を防ぐために、CD ／ DVD などを取り出してからパソコンや周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、手入れを始めてください。**詳細については、「本章 3 日常の取り扱いとお手入れ」で紹介しています。

## 3 ちょっとおかしな動作のとき

『安心してお使いいただくために』に、本製品を使用するときに守ってほしいことが記述されています。あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
次のようなトラブルが生じた場合は、手順に従って修理に出してください。
故障した状態のままで使用しないでください。

- パソコンを使用中に煙が出た
- 異常な音がした
- 臭いがした
- 水がかかってしまった
- パソコンを落とした

【 修理に出すまで 】
①すぐに電源を切り、電源コードの電源プラグをコンセントから抜く
②安全を確認して、バッテリパックをパソコン本体から取りはずす
③修理に出す

参照 バッテリパックの取りはずしについて 「6 章 バッテリ駆動で使う」
参照 修理の問い合わせについて 『東芝 PC サポートのご案内』

## 4 パソコンと上手に付き合おう

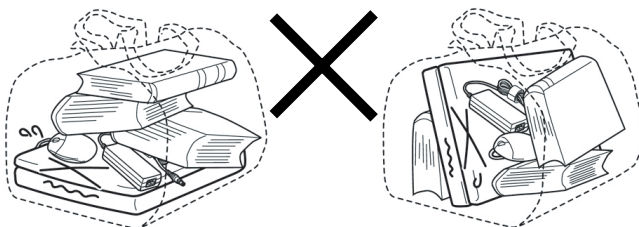
パソコンを長時間使うと、目や肩、首の疲れが気になります。
次のことに注意してください。

- 目を疲れさせないために、ディスプレイ（表示装置）が目の高さより低くなるように置いてください。
- キーボード（入力装置）は肘よりも下にくるよう、椅子の高さを調節してください。
- 前にかがんだり背もたれに寄りかからないよう、姿勢に注意してください。
  特に首や肩の疲れを防ぐため、背中を楽にして入力することが大切です。
  椅子の位置などを調節しておきましょう。
- 長時間、ディスプレイ（表示装置）を見続けないようにしてください。
  15 分ごとに 30 秒ぐらいの割合で遠くを見るようにしましょう。

参照 詳細について 『安心してお使いいただくために』

## 5 ちょっと待って。持ち運びですか？

パソコンを持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを必ず守ってください。

- 電源を必ず切り、AC アダプタを取りはずしてください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。結露が発生し、故障の原因となる可能性があります。やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。また、CD ／ DVD がセットされている場合は取り出してください。
- パソコンを持ち運ぶときは、不安定な持ちかたをしないでください。
- パソコンを持ち運ぶときは、突起部分を持って運ばないでください。
- 各スロットにメディアやカードなどがセットされている場合は取り出してください。
  セットしたまま持ち歩くと、カードが壁や床とぶつかり、故障するおそれがあります。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- ディスプレイを閉じてください。
- パソコンをカバンなどに入れて持ち運ぶときは、パソコン上面がＡＣアダプタやマウス、携帯電話、または、硬い本などの荷物で局所的に圧迫されるような入れかたをしないでください。
  液晶画面の一部にシミ状のムラが発生するなど、破損・故障の原因となり、修理が必要となる場合があります。

# 日常の取り扱いとお手入れ

⚠注 意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜くこと
  電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

**お願い**

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

## 1 パソコン本体／ AC アダプタ／電源コード

- 『安心してお使いいただくために』に、パソコン本体、AC アダプタ、電源コードを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
  あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
- 機器の汚れは、柔らかくきれいな乾いた布などでふき取ってください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってからふきます。
  中性洗剤、揮発性の有機溶剤（ベンジン、シンナーなど）、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。＊[1]
  温度５～35℃、湿度 20 ～ 80％

  ＊1 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
  直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）／強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面や AC アダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。
- 電源コードのプラグを長期間にわたって AC コンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリをふき取ってください。

## 2 キーボード

柔らかい乾いた素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってふきます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。
飲み物など液体をこぼしたときは、ただちに電源を切り、AC アダプタとバッテリパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

## 3 タッチパッド

乾いた柔らかい素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってからふきます。

## 4 液晶ディスプレイ

### 画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
  表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布で軽くふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
  液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。ふき取る際は、力を入れないで軽く行ってください。

### 残像防止について

長時間同じ画面を表示したままにしていると、画面表示を変えたときに前の画面表示が残ることがあります。この現象を残像といいます。残像は、画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると画像が消えなくなりますので、同じ画面を長時間表示するような使いかたは避けてください。
また、次の機能を利用すると、残像防止ができます。

- スクリーンセーバーを設定する

参照 スクリーンセーバーの設定 『ヘルプとサポート センター』

- 「東芝省電力」で「モニタの電源を切る」を設定する

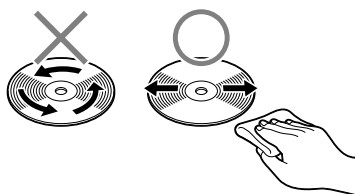
参照 東芝省電力 「6 章 2-① 東芝省電力」

### 表示について

TFT カラー液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られております。非点灯、常時点灯などの画素（ドット）が存在することがあります（有効ドット数の割合は 99.99%以上です。有効ドット数の割合とは、「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」です）。また、見る角度や温度変化によって色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

## 5 CD／DVD

CD ／ DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。

- 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
- CD ／ DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD ／ DVD を読み込むことができなくなります。
- CD ／ DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD ／ DVD の上に重いものを置かないでください。
- CD ／ DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
- CD ／ DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところを持つようにしてください。
  データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
- CD ／ DVD のデータ記憶面／レーベル面ともにラベルを貼らないでください。
- CD ／ DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
- CD ／ DVD のレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。ボールペンなどの硬いものを使用しないでください。
- CD ／ DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布でふき取ってください。ふき取りは円盤に沿って環状にふくのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状にふくようにしてください。乾燥した布ではふき取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。

## 6 データのバックアップについて

重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。
バックアップとはハードディスクやソフトウェアの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルをフロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどにコピーしておくことです。
本製品は次のような場合、スタンバイまたは休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
- 長期間使っていなかったために、バッテリ（バッテリパック、時計用バッテリ）の充電量がなくなったとき
- 故障、修理、バッテリ交換のとき
- バッテリ駆動で使用しているときにバッテリパックを取りはずしたとき
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失については、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

## 7 デフラグ（ディスクの最適化）について

デフラグとは、ハードディスクにあるファイルを先頭から再配置して、ファイルの分割状態を解消し、連続した空き容量を増やす作業のことです。
このパソコンでは「ディスク デフラグ ツール」を使用して、ハードディスクにある断片化されたファイルやフォルダ、ハードディスクの空き容量を整理統合して、より効率的にファイルやフォルダにアクセスしたり、新しく作成するファイルやフォルダを断片化されないように保存することができます。

### 「ディスク デフラグ ツール」の起動方法

**1 ［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システム ツール］→［ディスク デフラグ］をクリックする**

「ディスク デフラグ ツール」の使いかたについては、「ディスク デフラグ ツール」のヘルプを確認してください。

### ヘルプの起動方法

**1 ［ディスク デフラグ ツール］画面で、メニューバーの［操作］をクリックし、表示されたメニューから［ヘルプ］をクリックする**

# 4 アフターケアについて

## 保守サービスについて

保守サービスへの相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。
保守・修理後はパソコン内のデータはすべて消去されます。
保守・修理に出す前に、作成したデータの他に次のデータのバックアップをとってください。

- メール
- メールのアドレス帳
- リカバリ（再セットアップ）ツール
- インターネットのお気に入り
- 自分で作成したデータ　など

## 有寿命部品について

本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境（温湿度など）等の条件により異なりますが、本製品を通常使用した場合、1 日に約 8 時間、1ヵ月で 25 日のご使用で約 5 年です。上記目安はあくまで目安であって、故障しないことや無料修理をお約束するものではありません。
なお、24 時間を超えるような長時間連続使用等、ご使用状態によっては早期にあるいは製品の保証期間内でも部品交換(有料)が必要となります。

【 対象品名 】
本体液晶ディスプレイ ＊1、ハードディスクユニット、CD/DVD ドライブ ＊2、フロッピーディスクドライブ ＊2、キーボード、タッチパッド、マウス ＊3、冷却用ファン、ディスプレイ開閉部（ヒンジ）＊4、AC アダプタ

＊1　工場出荷時から画面の明るさが半減するまでの期間。
＊2　それぞれ内蔵されているモデルが対象です。
＊3　同梱されているモデルが対象です。
＊4　液晶ディスプレイを開いたときに固定するための内部部品です。

社団法人 電子情報技術産業協会「パソコンの有寿命部品の表記に関するガイドライン」について

http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/0503parts/index.html

## 消耗品について

【 バッテリパック 】
バッテリパック（充電式リチウムイオン電池）は消耗品です。
長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。
充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリパックと交換してください。
別売りのバッテリパックと交換する前に、必ず指定の製品（型番）を確認してください。

参照 バッテリパックについて 「6 章 1 バッテリについて」

## 付属品について

付属品（バッテリパック・AC アダプタなど）については、「東芝パソコンシステム・オンラインショップ」でご購入いただけます。

【 東芝パソコンシステム・オンラインショップ 】
TEL　　：043-277-5025
受付時間：10:00 ～ 12:00
　　　　　13:00 ～ 17:00
　　　　　（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
URL　　：http://shop.toshiba-tops.co.jp

## 保守部品（補修用性能部品）の最低保有期間

保守部品（補修用性能部品）とは、本製品の機能を維持するために必要な部品です。
本製品の保守部品の最低保有期間は、製品発表月から 6 年 6ヵ月です。

# 5 捨てるとき／人に譲るとき

## ① バッテリパックについて

貴重な資源を守るために、不要になったバッテリパックは廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へ持ち込んでください。
その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。

Li-ion

【 バッテリパック（充電式電池）の回収、リサイクルについてのお問い合わせ先 】
有限責任中間法人 JBRC
TEL ：03-6403-5673
URL：http://www.jbrc.com

## ② パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、家庭と企業では廃棄方法が異なります。以下の要領にて処理してください。
（本製品は、LCD 表示部に使用している蛍光管に水銀が含まれています。また、鉛を含む部品が使われています。）

【 PC リサイクルマークについて 】

リサイクル

PC リサイクルマーク
製品本体の型番を表示しているシール（本体裏面）に印刷表示します。

### 1 家庭でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、東芝の家庭系使用済みパソコン回収受付窓口へお申し込みください。
東芝は、PC リサイクルマークが表示されている東芝製パソコンは無料で回収と適切な再資源化処理を実施します。

【 パソコン回収受付窓口 】
東芝 dynabook リサイクルセンタ

【 回収方法 】

- 東芝ホームページよりお申し込みの場合
  URL：http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm（24 時間受付）
- 電話にてお申し込みの場合
  東芝 dynabook リサイクルセンタ
  TEL　　　：043-303-0200
  受付時間 ：10：00 ～ 17：00（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
  FAX　　　：043-303-0202（24 時間受付）

【 回収・再資源化対象機器 】
ノートパソコン、デスクトップパソコン（本体）、液晶ディスプレイ／液晶一体型パソコン、ブラウン管（CRT）ディスプレイ／ブラウン管（CRT）一体型パソコン

＊ 出荷時に同梱されていた標準添付品（マウス、キーボード、スピーカ、ケーブルなど）が同時に排出された場合は、パソコンの付属品として併せて回収します。
ただし、周辺機器（プリンタ他）、マニュアル、CD-ROM などの媒体は回収の対象外です。

## 2 企業でパソコンを使用しているお客様へ

本製品を廃棄するときは、産業廃棄物として扱われます。
東芝は、廃棄品の回収と適切な再使用・再利用処理を実施しております。
PC リサイクルマーク表示のある東芝製パソコンを産業廃棄物として回収・処理を行う場合の費用については、東芝パソコンリサイクルセンターにお問い合わせください。

【 お問い合わせ先 】
東芝パソコンリサイクルセンター
TEL　　：045-510-0255
受付時間 ：9：00 ～ 17：00（土・日・祝日、当社指定の休日を除く）
FAX　　：045-506-7983（24 時間受付）

【 東芝ホームページでご紹介 】
URL：http://dynabook.com/pc/eco/recycle.htm

## 3 パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに使われているハードディスクという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。
したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。
ところが、このハードディスクに書き込まれたデータを消去するのは、それほど簡単ではありません。
「データを消去する」という場合、一般に

◆データを「ごみ箱」に捨てる
◆「削除」操作を行う
◆「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
◆ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
◆再セットアップ（リカバリ）を行い、購入時の状態に戻す

などの作業をしますが、これらの作業では、ハードディスク上に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの状態です。
つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS のもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、実際のデータは、まだ残っているのです。
したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
お客様が、廃棄・譲渡などを行う際に、ハードディスク内の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、標準添付しているハードディスクデータ削除機能や市販されている専用ソフトウェア、有償サービスの利用や、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、読めなくすることをお勧めします。
なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認をする必要があります。

本製品では、パソコン上のデータをすべて消去することができます。

参照 「本項 5 ハードディスクの内容をすべて消去する」

この機能は Windows などの OS によるデータ消去や初期化とは違い、ハードディスクの全領域にデータを上書きするため、データが復元されにくくなります。
ただし、本機能を使用してデータを消去した場合でも、特殊な装置の使用によりデータを復元される可能性はゼロではありません。あらかじめご了承ください。

データ消去については、次のホームページも参照してください。

URL：http://dynabook.com/pc/eco/haiki.htm

## 4 お客様登録の削除について

●ホームページから削除する

東芝 ID（TID）をお持ちの場合はこちらからお願いします。

① インターネットで「http://room1048.jp/」へ接続する
② ［ログイン］ボタンをクリックする
［セキュリティの警告］画面が表示された場合は、内容を確認し、［OK］ボタンをクリックしてください。
③ ［東芝 ID（TID）］と［パスワード］に入力し、［ログイン］ボタンをクリックする
お客様専用ページにログインします。
④ ページ右上の［登録情報変更］をクリックする
［登録情報変更メニュー］画面が表示されます。
⑤ ［退会］をクリックし、登録を削除する

※ 退会ではなく、商品の削除のみのお客様は「登録情報変更」メニューで、商品削除を行ってください。
※ TID を退会されますと、「Shop1048」での TID 会員メニュー、およびポイントサービスなどもご利用いただけなくなりますので、あらかじめご了承ください。

●電話で削除する

「東芝 ID 事務局（お客様情報変更）」までご連絡ください。

- 東芝 ID 事務局（お客様情報変更）
TEL　　：0570-09-1048
受付時間：10：00 ～ 17：00（土・日、祝日、東芝特別休日を除く）

紹介しているホームページ、電話番号はお客様登録の内容変更、削除に関する問い合わせ窓口です。
保守サービス、修理などの技術的な相談は、『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

法人のお客様の場合は、ログインで表示される画面が異なります。登録情報の変更および退会は「登録情報変更」のメニューで、ご自身で行っていただくことができますが、商品の削除ができませんので、その場合は東芝 ID 事務局までお電話でご連絡くださいますようお願いいたします。

- 詳しくは、次のホームページを参照してください。
URL：https://room1048.jp/onetoone/info/business.htm

## 5 ハードディスクの内容をすべて消去する

パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。

（ハードディスクのリカバリツールを使用する場合）

なお、ハードディスクに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできませんので、注意してください。

## 操作手順

ハードディスクの内容を削除するには、ハードディスクのリカバリツールまたは作成したリカバリディスクを使用します。
ハードディスクのリカバリツールを使用すると、ハードディスク内のデータはすべて消去されますが、リカバリツールは残ります。
作成したリカバリディスクを使用すると、ハードディスク内のデータと共にリカバリツールも消去されます。

ここでは、ハードディスクのリカバリツールから行う方法を例にして説明します。リカバリディスクから行う場合は、手順1の前にリカバリディスク（ディスク1）をセットしてください。

**1** **パソコンの電源を切る**

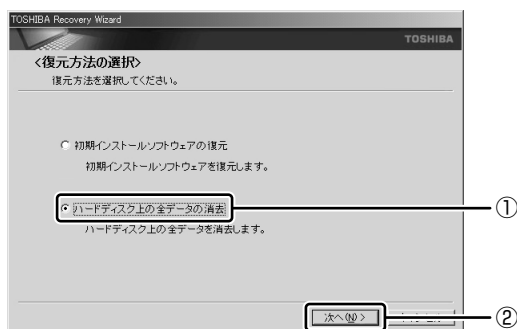
**2** **ACアダプタと電源コードを接続する**

**3** **キーボードの(0)（ゼロ）キーを押しながら電源スイッチを押し、「TOSHIBA」画面が表示されてから手をはなす**

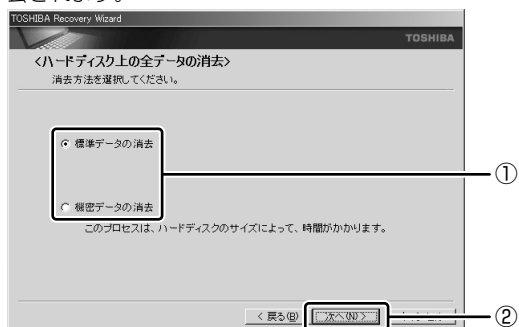
このとき、「TOSHIBA」画面が表示されてもすぐに手をはなさず、数秒おいてから手をはなしてください。

リカバリディスクをセットしている場合は、キーボードの(F12)キーを押しながら電源スイッチを押し、「TOSHIBA」画面が表示されてから手をはなします。
その後、(↓)または(↑)キーで［CD/DVD］を選択し、(Enter)キーを押してください。

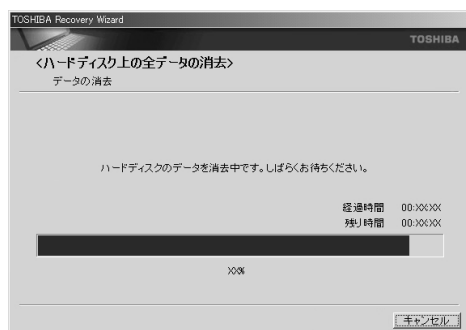
ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。ユーザパスワードを入力して、(Enter)キーを押してください。
［復元方法の選択］画面が表示されます。

**4** **［ハードディスク上の全データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

消去方法を選択する画面が表示されます。

**5** **目的に合わせて、［標準データの消去］または［機密データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②**

通常は［標準データの消去］を選択してください。データを読み取れなくなります。
より確実にデータを消去するためには、［機密データの消去］を選択してください。数時間かかりますが、データは消去されます。

［ハードディスクの内容は、すべて消去されます。］画面が表示されます。

**6** ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
消去が実行されます。
消去中は、次の画面が表示されます。

消去が完了すると、終了画面が表示されます。

**7** ［終了］ボタンをクリックする

リカバリディスクから行った場合は、自動的にディスクトレイが開きます。リカバリディスクを取り出してください。

# 付録

本製品のハードウェア仕様や、技術基準適合などについて記しています。

# 本製品の仕様

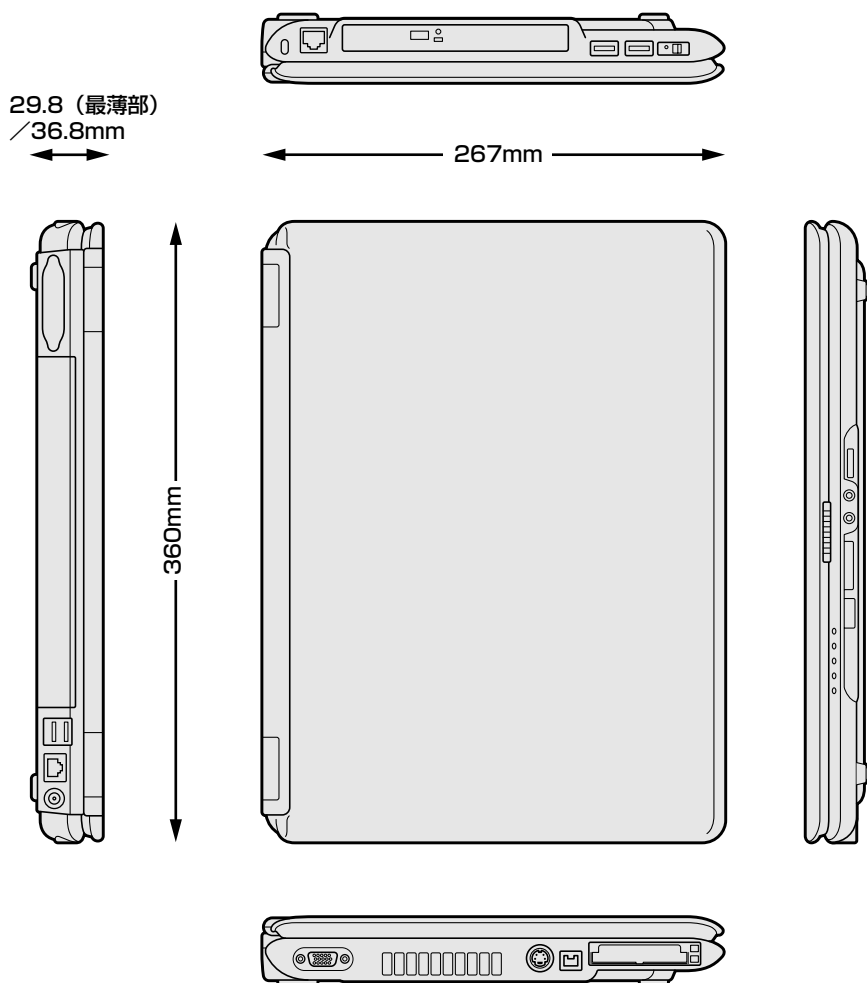
仕様についての詳細は、別紙の『dynabook Satellite AW6 シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

## 1 外形寸法図

＊ 数値は突起部を含みません。

29.8（最薄部）
／36.8mm

267mm

360mm

## 2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。
本製品では次のビデオモードをサポートしています。

| 65,536色 | | | 1,677万色 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 色数 | 解像度 | リフレッシュレート | 色数 | 解像度 | リフレッシュレート |
| 16 | 800 x 600 | 60 | 32 | 800 x 600 | 60 |
| | | 75 | | | 75 |
| | | 85 | | | 85 |
| | | 100 | | | 100 |
| | 1024 x 768 | 60 | | 1024 x 768 | 60 |
| | | 75 | | | 75 |
| | | 85 | | | 85 |
| | | 100 | | | 100 |
| | 1280 x 800 | 60 | | 1280 x 800 | 60 |
| | 1280 x 1024 | 60 | | 1280 x 1024 | 60 |
| | | 75 | | | 75 |
| | | 85 | | | 85 |
| | | 100 | | | 100 |
| | 1600 x 1200 | 60 | | 1600 x 1200 | 60 |
| | | 75 | | | 75 |
| | | 85 | | | 85 |
| | | 100 | | | 100 |
| | 1920 x 1440 | 60 | | 1920 x 1440 | 60 |
| | | 75 | | | 75 |
| | 2048 x 1536 | 60 | | 2048 x 1536 | 60 |

注1) リフレッシュレートは外部ディスプレイのみに適応されます。
注2) 本体液晶ディスプレイでは、1280 × 800 を超える高解像度表示は仮想ディスプレイでの対応となります。
注3) 1,677 万色はディザリング表示です。
注4) 1,677 万色設定での本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイによる同時表示の場合、外部ディスプレイの最大解像度は 1280 × 800 までになります。

## 3 ハードウェアリソースについて

メモリマップ、I/O ポートマップ、IRQ 使用リソース、DMA 使用リソースは次の方法で確認できます。
使用している環境（ハードウェア／ソフトウェア）によって変更される場合があります。

**1** **［スタート］→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［システムツール］→［システム情報］をクリックする**

**2** **画面左側のツリーから［ハードウェアリソース］をダブルクリックする**

**3** **調べたい項目をクリックする**

メモリマップ　　　：［メモリ］
I/O ポートマップ　：［I/O］
IRQ 使用リソース　：［IRQ］
DMA 使用リソース：［DMA］

付録

## 4 内蔵モデムについて

モデムボードを取り付けることによって、モデム機能を使用できます。あらかじめモデムボードが取り付けられているモデルの場合は、取り付け／取りはずしの作業は必要ありません。また、モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。

### ⚠警 告

- **本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと**
  内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。
- **取りはずしたネジは、幼児の手の届かないところに保管すること**
  誤って飲み込むと窒息のおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師に相談してください。

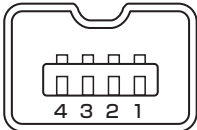
### ⚠注 意

- **モデムボードの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、AC アダプタのプラグを抜き、バッテリパックを取りはずしてから作業を行うこと**
  電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- **電源を切った直後には、モデムボードの取り付け／取りはずしを行わないこと**
  内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後 30 分以上たってから、行ってください。
- **パソコン内部にネジや異物を残さないこと**
  火災、発煙のおそれがあります。

**お願い**

- モデムボードの取り付け／取りはずし、PTT ラベルの確認以外の目的でパソコン本体のモデムカバーを開けないでください。
- モデムボードを取りはずした状態で本製品を使用しないでください。故障の原因になります。
- モデムボードを強く押したり、曲げたり、落としたりしないでください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

### モデムボードの取り付け／取りはずし

【 取り付け 】
①データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
②パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
③ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
④モデムカバーのネジ 1 本をはずす
⑤モデムカバーをはずす
⑥接続コードをモデムボードに取り付ける
⑦モデムボードを固定用の 2 本のネジでパソコン本体に取り付ける
⑧モデムカバーをはめ、手順 4 ではずしたネジ 1 本でとめる
⑨バッテリパックを取り付ける

【 取りはずし 】
①データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
②パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
③ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリパックを取りはずす
④モデムカバーのネジ 1 本をはずす
　モデムカバーをはずします。
　規格（PTT ラベル）を確認することができます。
⑤モデムボードを固定しているネジ 2 本を取りはずす
　ネジはなくさないように大切に保管しておいてください。
⑥モデムボードをパソコン本体から取りはずす
⑦接続コードをモデムボードから取りはずす
⑧モデムカバーをはめ、手順 4 ではずしたネジ 1 本でとめる
⑨バッテリパックを取り付ける

# 2 各インタフェースの仕様

## 1 i.LINK（IEEE1394）インタフェース

| ピン番号 | 信 号 名 | 意　味 | 信号方向 |
|---|---|---|---|
| 1 | TPB− | ストローブ受信／データ送信（2対の差動信号） | |
| 2 | TPB＋ | ストローブ受信／データ送信（2対の差動信号） | |
| 3 | TPA− | データ受信／ストローブ送信（2対の差動信号） | |
| 4 | TPA＋ | データ受信／ストローブ送信（2対の差動信号） | |
| コネクタ図 | | | |

4 3 2 1

信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

## 2 S-Video 出力インタフェース

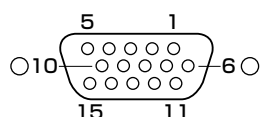
| ピン番号 | 信 号 名 | 意　味 | 信号方向 |
|---|---|---|---|
| 1 | C信号 | 色信号 | O |
| 2 | Y信号 | 輝度信号 | O |
| 3 | GND | 信号グランド | |
| 4 | GND | 信号グランド | |
| コネクタ図 | | | |

1 2
3 4

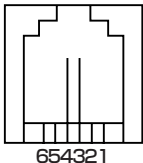
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

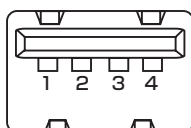
## 3 RGBインタフェース

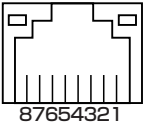
| ピン番号 | 信 号 名 | 意　味 | 信号方向 |
|---|---|---|---|
| 1 | CRV | 赤色ビデオ信号 | O |
| 2 | CGV | 緑色ビデオ信号 | O |
| 3 | CBV | 青色ビデオ信号 | O |
| 4 | Reserved | 予約 | |
| 5 | GND | 信号グランド | |
| 6 | GND | 信号グランド | |
| 7 | GND | 信号グランド | |
| 8 | GND | 信号グランド | |
| 9 | +5V | 電源 | |
| 10 | GND | 信号グランド | |
| 11 | Reserved | 予約 | |
| 12 | SDA | SDA通信信号 | I/O |
| 13 | -CHSYNC | 水平同期信号 | O |
| 14 | -CVSYNC | 垂直同期信号 | O |
| 15 | SCL | SCLデータクロック信号 | I/O |
| コネクタ図 | | | |

5 1
10 6
15 11

高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

## 4 USBインタフェース

| ピン番号 | 信 号 名 | 意　味 | 信号方向 |
|---|---|---|---|
| 1 | VCC | +5V | |
| 2 | -Data | マイナスデータ | I/O |
| 3 | +Data | プラスデータ | I/O |
| 4 | GND | 信号グランド | |
| コネクタ図 | | | |

1 2 3 4

信号名　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

## 5 モデムインタフェース

| ピン番号 | 信 号 名 | 意　味 | 信号方向 |
|---|---|---|---|
| 1 | − | ノーコンタクト | |
| 2 | − | ノーコンタクト | |
| 3 | TIP | 電話回線 | I/O |
| 4 | RING | 電話回線 | I/O |
| 5 | − | ノーコンタクト | |
| 6 | − | ノーコンタクト | |
| コネクタ図 | | | |
| 654321 | | | |

信号名　　　　：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

## 6 LANインタフェース

| ピン番号 | 信 号 名 | 意　味 | 信号方向 |
|---|---|---|---|
| 1 | TX | 送信データ（+） | O |
| 2 | -TX | 送信データ（−） | O |
| 3 | RX | 受信データ（+） | I |
| 4 | Unused | 未使用 | |
| 5 | Unused | 未使用 | |
| 6 | -RX | 受信データ（−） | I |
| 7 | Unused | 未使用 | |
| 8 | Unused | 未使用 | |
| コネクタ図 | | | |
| 87654321 | | | |

信号名　　　　：−がついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

# 3 技術基準適合について

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

「9 章 3 Q&A 集 その他 -Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい」

高調波対策について

本装置は、「JIS C 61000-3-2 適合品」です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

省電力設定について 「6 章 2 省電力の設定をする」

## FCC information

Product name : dynabook Satellite AW6 series
Model number : PSAA8 series, PSAA9 series

### FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

**WARNING** : *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's RGB connector, USB connector, i.LINK(IEEE1394) connector and Microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

## FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

## Contact

**Address** : TOSHIBA A:5rica Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697
**Telephone** : (949) 583-3000

**TOSHIBA**　　EU Declaration of Conformity

TOSHIBA declares, that the product: PSAW6******** conforms to the following Standards:

Supplementary Information : "The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC."

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

**モデム使用時の注意事項**

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項を守ってください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第 50 条 1 項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。

**●対応地域**

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

（2006 年 9 月現在）

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。
内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。
内蔵モデムに接続する回線が PBX 等を経由する場合は使用できない場合があります。
上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

参照 設定について 「4 章 1-②-3 海外でインターネットに接続するときには」

付録

●自動再発信の制限
内蔵モデムは２回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を２回以下または再発信間隔を１分以上にしてください）。

＊内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は２回以内（但し、最初の発信から３分以内）」に従っています。

### Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).
However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.
In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

### Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to confirm with the additional requirements conditional in EG 201 121.

| | |
|---|---|
| Germany | - ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17 |
| Greece | - ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04 |
| Portugal | - ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10 |
| Spain | - ATAAB AN005,007,012, and ES01 |
| Switzerland | - ATAAB AN002 |
| All other countries/regions | - ATAAB AN003,004 |

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.
The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

## Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
  For the REN of your modem, refer to your modem’s label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

## Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.
Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

## Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can.
In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

## If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.
In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

## Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

## Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.
In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

## Instructions for IC CS-03 certified equipment

1 NOTICE : The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection. The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.
Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.
Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.
Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

2 The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:
The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem’s label.

NOTICE : The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

3 The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.
CANADA:4005B-ATHENS

# Notes for Users in Australia and New Zealand

## Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia. The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.
To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of $12,000 for the connection of non-permitted equipment.

## Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
  a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
  b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.
- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC
  Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
  a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
  b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
  c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:

  ATB0 (CCITT operation)
  AT&G2 (1800 Hz guard tone)
  AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
  ATS0=0 (not auto answer)
  ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
  ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
  ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)

- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value between 3 or 4. This ensures:

(a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.

(b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.
  Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
  Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1
  Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal.
  Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.

- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.

- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.

- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as Fax Ability.

NOTE THAT FAULT CALL OUT CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

**General conditions**

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is $337.50. An additional charge of $337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. $112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for $NZ1237.50 will be sent under separate cover.

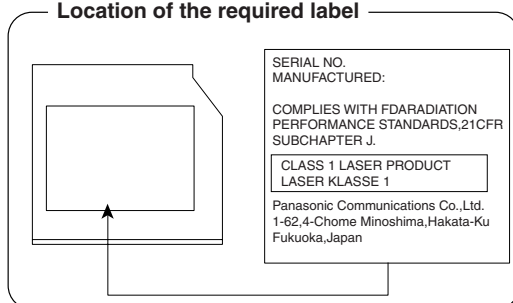
# Panasonic DVD スーパーマルチドライブ UJ-850
# （DVD スーパーマルチドライブ　DVD+R 2 層式メディア対応）
# 安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

## ⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

| | |
|---|---|
| **CAUTION** | CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM. |
| **ATTENTION** | CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU. |
| **VORSICHT** | KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN. |
| **ADVARSEL** | KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING. |
| **ADVARSEL** | KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN. |
| **VARNING** | KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG. |
| **VARO !** | KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEN. |

## HITACHI LG DVDスーパーマルチドライブ GMA-4082N（DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

### ⚠注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
   本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1

| | |
|---|---|
| **CAUTION** | CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM. |
| **ADVARSEL** | KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING. |
| **ADVARSEL** | KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN. |
| **VARNING** | KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG. |
| **VARO !** | KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN. |

## Pioneer DVD スーパーマルチドライブ DVR-K16T
## （DVD スーパーマルチドライブ DVD ± R 2 層式メディア対応）
## 安全にお使いいただくために

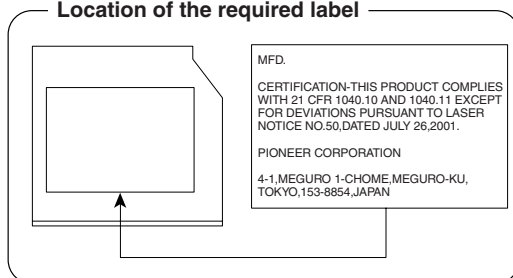
本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

### ⚠注 意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で“クラス 1 レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。

   CLASS 1 LASER PRODUCT
   LASER KLASSE 1
   クラス 1 レーザー製品

2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

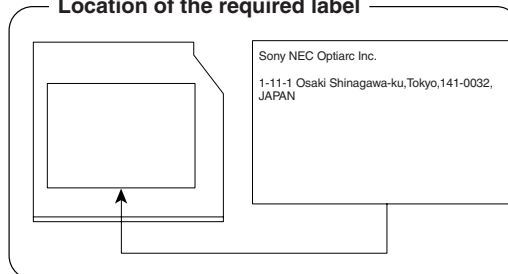
| | |
|---|---|
| **CAUTION** | CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN, AVOID EXPOSURE TO THE BEAM. |
| **ATTENTION** | RADIATIONS LASER VISIBLES ET INVISIBLES DE CLASSE 3B QUAND OUVERT. ÉVITEZ TOUT EXPOSITION AU FAISCEAU. |
| **ADVARSEL** | KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDSÆTTELSE FOR STRÅLING. |
| **VARO !** | AVATTAESSA OLET ALTTIINA NÄKYVÄLLE JA NÄKYMÄTTÖMÄLLE LUOKAN 3B LASERSÄTEILYLLE. ÄLÄ KATSO SÄTEESEEN. |
| **VARNING** | KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPNAD. UNDVIK AT T UTSÄTTA DIG FÖR STRÅLEN. |
| **VORSICHT** | BEI GEÖFFNETER ABDECKUNG IST SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG DER KLASSE 3B IM GERÄTEINNEREN VORHANDEN. NICHT DEM LASERSTRAHL AUSSETZEN! |
| **PRECAUCIÓN** | CUANDO SE ABRE HAY RADIACIÓN LÁSER DE CLASE 3B VISIBLE E INVISIBLE. EVITE LA EXPOSICIÓN A LOS RAYOS LÁSER. |
| **注意** | ここを開くと CLASS 3B の可視レーザ光及び不可視レーザ光が出ます。ビームを直接見たり、触れたりしないこと。 |

## ソニーNECオプティアーク DVDスーパーマルチドライブ ND-7550A（DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応）安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
また、お読みになった後は、必ず保管してください。

### 注 意

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1
LUOKAN 1 LASERLAITE
KLASS 1 LASERAPPARAT
クラス1レーザ製品

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
   本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格EN60825で“クラス1レーザー機器”に分類されています。
   レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因になります。信頼性、安全性、性能の保証をすることができなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあります。従って、本装置を使用するシステムには、これらの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデータの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発する可能性があるシステムには、本装置を使用しないでください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

| | |
|---|---|
| **CAUTION** | CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN, AVOID EXPOSURE TO THE BEAM. |
| **VORSICHT** | SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG DER KLASSE 3B, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN. |
| **VARNING** | SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING AV KLASS 3B FÖREKOMMER NÄR DENNA DEL ÄR ÖPPEN. UNDVIK STRÅLEN. |
| **VARO !** | LUOKAN 3 NÄKYVÄÄ JA NÄKYMÄTÖNTÄ LASERSÄTEILYÄ AVATTUNA. VÄLTÄ ALTISTUMISTA SÄTEELLE. |
| **注意** | ここを開くと クラス 3B の可視レーザ光及び不可視レーザ光が出ます。ビームに身をさらさないでください。 |

# 無線LANについて

## 1 無線特性

無線 LAN の無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない 5GHz 帯および 2.4GHz 帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。
IEEE802.11a は、屋内でのみ使用できます。

| | | |
|---|---|---|
| 無線周波数帯 | IEEE802.11a | 5GHz（5150-5350MHz） |
| | IEEE802.11g,<br>IEEE802.11b | 2.4GHz（2400-2497MHz） |
| 変調方式 | IEEE802.11a,<br>IEEE802.11g | 直交周波数分割多重方式<br>OFDM-BPSK, OFDM-QPSK,<br>OFDM-16QAM, OFDM-64QAM |
| | IEEE802.11b | 直接拡散方式<br>DSSS-CCK, DSSS-DQPSK,<br>DSSS-DBPSK |

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る " 障害物 " がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

## 2 サポートする周波数帯域

無線 LAN がサポートする 5GHz 帯および 2.4GHz 帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線 IEEE802.11 チャネルセット」参照）。
各地域で適用される無線規制については、「本節 5 お客様に対するお知らせ」を確認してください。

【 無線 IEEE802.11 チャネルセット 】
- IEEE802.11a（5GHz）の場合

| 周波数帯域 | | 5150-5350 MHz |
|---|---|---|
| | チャネルID | |
| J52 | 34 | 5170 |
| | 38 | 5190 |
| | 42 | 5210 |
| | 46 | 5230 |
| W52 | 36 | 5180 |
| | 40 | 5200 |
| | 44 | 5220 |
| | 48 | 5240 |
| W53 | 52 | 5260 |
| | 56 | 5280 |
| | 60 | 5300 |
| | 64 | 5320 |

J52 ：従来のCh34（5170MHz）、Ch38（5190MHz）、Ch42（5210MHz）、Ch46（5230MHz）に対応する場合
W52：新たに規定されたCh36（5180MHz）、Ch40（5200MHz）、Ch44（5220MHz）、Ch48（5240MHz）に対応する場合
W53：新たに規定されたCh52（5260MHz）、Ch56（5280MHz）、Ch60（5300MHz）、Ch64（5320MHz）に対応する場合

アクセスポイント側のチャネル（J52/W52/W53）にあわせて、そのチャネルに自動的に設定されます。

● IEEE802.11b/g（2.4GHz）の場合

| 周波数帯域 | 2400-2497 MHz |
|---|---|
| チャネルID | |
| 1 | 2412 |
| 2 | 2417 |
| 3 | 2422 |
| 4 | 2427 |
| 5 | 2432 |
| 6 | 2437 |
| 7 | 2442 |
| 8 | 2447 |
| 9 | 2452 |
| **10** | **2457** ＊1 |
| 11 | 2462 |
| 12 | 2467 |
| 13 | 2472 |

＊1 購入時、アドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。

無線LANをインストールする場合、チャネル設定は、次のように管理されます。

● インフラストラクチャで無線LAN接続する場合、ステーションが自動的に無線LANアクセスポイントのチャネルに切り替えます。異なるアクセスポイント間をローミングする場合は、ステーションが必要に応じて自動的にチャネルを切り替えます。無線LANアクセスポイントの設定チャネルもこの範囲にする必要があります。

付録

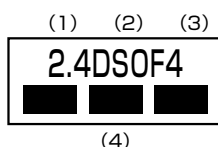
## 3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。
電波法により、5GHz帯無線LANの屋外での使用は禁止されています。

【 ステッカー 】
本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に同梱されている次のステッカーをパソコン本体に貼付ください。

> この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用 の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア 無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。
> 1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
> 2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
> 3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

【 現品表示 】
本製品と梱包箱には、次に示す現品表示が記載されています。

(1) (2) (3)
2.4DSOF4
■■■
(4)

（1）2.4 ： 2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
（2）DS ： 変調方式がDS-SS方式であることを示す。
　　OF ： 変調方式がOFDM方式であることを示す。
（3）4 ： 想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
（4）■■■ ： 2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

【 東芝PCあんしんサポート 】
技術相談窓口 受付時間 ：9:00～19:00（年中無休）
修理相談窓口 受付時間 ：9:00～22:00（年末年始12/31～1/3を除く）
電話番号 ：0120-97-1048（通話・電話サポート料無料）

## 4 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、以下の認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

【 Intel a/b/g対応モデル 】
無線設備名：WM3945ABG
株式会社　ディーエスピーリサーチ　　認証番号：D05-0082003

【 Atheros b/g対応モデル 】
無線設備名：AR5BXB61
株式会社　ディーエスピーリサーチ　　認証番号：D05-0110003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピュータ）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備を他の機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触する恐れがありますので、十分にご注意ください。

## 5 お客様に対するお知らせ

【 無線製品の相互運用性 】
Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection／Atheros AR5006EG Wireless Network Adapter製品は、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthogonal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用する無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs(Revision A/B/G)（無線LAN標準規格(版数A/B/G)）
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証

【 健康への影響 】
Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection／Atheros AR5006EG Wireless Network Adapter製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection／Atheros AR5006EG Wireless Network Adapter製品の動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

【 規制に関する情報 】
Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection／Atheros AR5006EG Wireless Network Adapter製品のインストールと使用に際しては、必ず製品付属のマニュアルに記載されている製造元の指示に従ってください。
Atheros b/g対応モデルは、次に示す無線周波基準と安全基準に準拠しています。

### ● Canada - Industry Canada (IC)

This device complies with RSS 210 of Industry Canada.
Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of this device."
L ' utilisation de ce dispositif est autorisée seulement aux conditions suivantes : (1) il ne doit pas produire de brouillage et (2) l' utilisateur du dispositif doit étre prêt à accepter tout brouillage radioélectrique reçu, même si ce brouillage est susceptible de compromettre le fonctionnement du dispositif.
The tern "IC" before the equipment certification number only signifies that the Industry Canada technical spacifications were met.

To reduce potential radio interference to other users, the antenna type and its gain should be so chosen that the equivalent isotropically radiated power (EIRP) is not more than that required for successful communication.
To prevent radio interference to the licensed service, this device is intended to be operated indoors and away from windows to provide maximum shielding. Equipment (or its transmit antenna) that is installed outdoors is subject to licensing.

Pour empecher que cet appareil cause du brouillage au service faisant l'objet d'une licence, il doit etre utilize a l'interieur et devrait etre place loin des fenetres afin de Fournier un ecram de blindage maximal. Si le matriel (ou son antenne d'emission) est installe a l'exterieur, il doit faire l'objet d'une licence.

## ● Europe - EU Declaration of Conformity CE ⓘ

Marking by the above symbol indicates compliance with the Essential Requirements of the R&TTE Directive of the European Union (1999/5/EC).

### Europe - Restrictions for Use of 2.4GHz Frequencies in European Community Countries

| | |
|---|---|
| België/ Belgique: | For private usage outside buildings across public grounds over less than 300m no special registration with IBPT/BIPT is required. Registration to IBPT/BIPT is required for private usage outside buildings across public grounds over more than 300m.For registration and license please contact IBPT/BIPT. |
| | Voor privé-gebruik buiten gebouw over publieke groud over afstand kleiner dan 300m geen registratie bij BIPT/IBPT nodig; voor gebruik over afstand groter dan 300m is wel registratie bij BIPT/IBPT nodig.Voor registratie of licentie kunt u contact opnemen met BIPT. |
| | Dans le cas d'une utilisation privée, à l'extérieur d'un bâtiment, au-dessus d'un espace public, aucun enregistrement n'est nécessaire pour une distance de moins de 300m. Pour une distance supérieure à 300m un enregistrement auprès de I'IBPT est requise.Pour les enregistrements et licences, veuillez contacter I'IBPT. |
| Deutschland: | License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow |
| | Anmeldung im Outdoor-Bereich notwendig, aber nicht genehmigungspflichtig. Bitte mit Händler die Vorgehensweise abstimmen. |
| France: | Restricted frequency band: only channels 1 to 7 (2400 MHz and 2454 MHz respectively) may be used outdoors in France. |
| | Bande de fréquence restreinte : seuls les canaux 1- 7 (2400 et 2454 MHz respectivement) doivent être utilisés endroits extérieur en France.Vous pouvez contacter I'Autorité de Régulation des Télécommuniations (http://www.art-telecom.fr) pour la procédure á suivre. |

| | |
|---|---|
| Italia: | License required for indoor use. Use with outdoor installations not allowed. |
| | E'necessaria la concessione ministeriale anche per l'uso interno.<br>Verificare con i rivenditori la procedura da seguire. |
| Nederland | License required for outdoor installations. Check with reseller for procedure to follow |
| | Licentie verplicht voor gebruik met buitenantennes. Neem contact op met verkoper voor juiste procedure |

To remain in conformance with European spectrum usage laws for Wireless LAN operation, the above 2.4GHz channel limitations apply for outdoor usage. The user should use the wireless LAN utility to check the current channel of operation. If operation is occurring outside of the allowable frequencies for outdoor use, as listed above, the user must contact the applicable national spectrum regulator to request a license for outdoor operation.

## ● USA-Federal Communications Commission(FCC)

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy. If not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by tuning the equipment off and on, the user is encouraged to try and correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the distance between the equipment and the receiver.
- Connect the equipment to outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

TOSHIBA is not responsible for any radio or television interference caused by unauthorized modification of the devices included with this Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection／Atheros AR5006EG Wireless Network Adapter, or the substitution or attachment of connecting cables and equipment other than specified by TOSHIBA.
The correction of interference caused by such unauthorized modification, substitution or attachment will be the responsibility of the user.

**Caution: Exposure to Radio Frequency Radiation.**

The radiated output power of the Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection／Atheros AR5006EG Wireless Network Adapter is far below the FCC radio frequency exposure limits. Nevertheless, the Intel(R) PRO/Wireless 3945ABG Network Connection／Atheros AR5006EG Wireless Network Adapter shall be used in such a manner that the potential for human contact during normal operation is minimized. In normal operating configuration, the LCD in the upright position, the distance between the antenna and the user should not be less than 20cm. This device and its antenna(s) must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.
The installer of this radio equipment must ensure that the antenna is located or pointed such that
it does not emit RF field in excess of Health Canada limits for the general population; consult
Safety Code 6, obtainable from Health Canada’s website www.hc-sc.gc.ca/rpb.

## ● TAIWAN

Article 12
Without permission granted by the DGT, any company, enterprise, or user is not allowed to change frequency, enhance transmitting power or alter original characteristic as well as performance to a approved low power radio-frequency devices.

Article 14
The low power radio-frequency devices shall not influence aircraft security and interfere legal communications; If found, the user shall cease operating immediately until no interference is achieved.
The said legal communications means radio communications is operated in compliance with the Telecommunications Act.
The low power radio-frequency devices must be susceptible with the interference from legal communications or ISM radio wave radiated devices.

## 6 ご使用になれる国／地域について

**お願い**

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

【 Atheros b/g 対応モデル 】
- 802.11b モードおよび 802.11g モードでのアドホック接続は、チャネル 1 〜チャネル 11 で使用できます。
- 802.11b モードおよび 802.11g モードでのインフラストラクチャ接続は、チャネル 1 〜チャネル 11 で使用できます。

● 802.11b/g（2.4GHz）

| | | |
|---|---|---|
| アイスランド | スイス | ハンガリー |
| アイルランド | スウェーデン | フィリピン |
| アメリカ合衆国 | スペイン | フィンランド |
| イギリス | スロバキア | フランス |
| イタリア | スロベニア | ベルギー |
| インド | タイ | ポーランド |
| エジプト | 台湾 | ポルトガル |
| エストニア | チェコ | 香港 |
| オーストラリア | 中国 | マルタ |
| オーストリア | デンマーク | マレーシア |
| オランダ | ドイツ | ラトビア |
| カナダ | 日本 | リトアニア |
| キプロス | ニュージーランド | リヒテンシュタイン |
| ギリシャ | ノルウェー | ルクセンブルク |
| シンガポール | バーレーン | ロシア |

【 Intel a/b/g 対応モデル 】
- 802.11b/g モードのアドホック通信は、チャネル 1 〜 13 で使用できます。
- 802.11a モードでのアドホック通信は、チャネル 36、40、44、48 で使用できます。
- 802.11b/g モードのインフラストラクチャ通信は、チャネル 1 〜 13 で使用できます。
- 802.11a モードでのインフラストラクチャ通信は、チャネル 34、36、38、40、42、44、46、48、52、56、60、64 で使用できます。

● 802.11b/g（2.4GHz）／802.11a（5GHz）
日本でのみ使用できます。

# Internet Explorerのバージョンについて

「PC引越ナビ」でデータを以降するときに必要な、「Internet Explorer」のバージョンの確認方法と、バージョンアップ方法について説明します。

なお、これらの操作は、「PC引越ナビ」を使用するときに引っ越し元PC（前のパソコン）で行う操作です。

ここでは、システムが「Microsoft Windows 98 Second Edition operating system 日本語版」であることを例にして説明します。

参照 「PC引越ナビ」「2章 2 前のパソコンのデータを移行する」

## 「Internet Explorer」のバージョンの確認方法

「Internet Explorer」のバージョンの確認方法は、次のとおりです。

**1 「Internet Explorer」を起動する**

**2 メニューバーの［ヘルプ］→［バージョン情報］をクリックする**

［Internet Explorerのバージョン情報］画面が表示されます。

［Version］が「6.X」、［更新バージョン］が、「SP1」または「SP2」の場合は、バージョンアップする必要はありません。
この他のバージョンの場合は、引き続き、「Internet Explorer 6 SP1」へのバージョンアップを行ってください。

## 「Internet Explorer 6 SP1」へのバージョンアップ方法

「Internet Explorer 6 SP1」へのバージョンアップは、インターネットに接続して行います。あらかじめインターネットに接続する設定を行ってから操作を始めてください。

**1 ［スタート］→［Windows Update］をクリックする**

■初めてWindows Updateを実行したとき■
「セキュリティ警告」の確認画面が表示されます。［はい］をクリックしてください。

［Windows Updateへようこそ］画面が表示されます。

**2 ［更新をスキャンする］をクリックする**

［インストールする更新の選択］画面が表示されます。

**3 ［更新の確認とインストール］をクリックする**

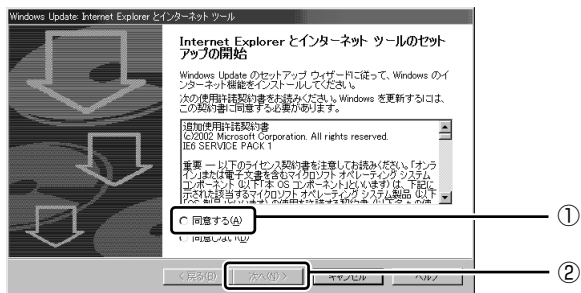
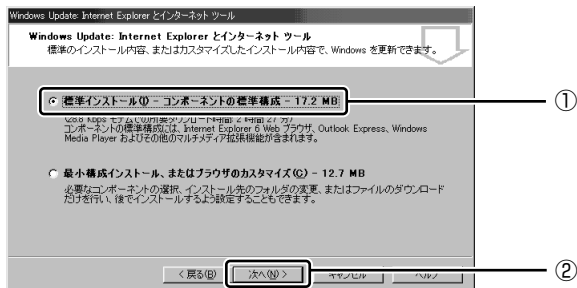
「インターネットへ情報を送信」の確認画面が表示されます。

**4 ［はい］をクリックする**

**5 「Microsoft Internet Explorer 6 Service Pack 1」が表示されていることを確認し、［今すぐインストール］をクリックする**

**6 ［OK］をクリックする**

「使用許諾契約書」が表示されます。

**7** ［同意する］をチェックし①、［次へ］をクリックする②

**8** ［標準インストール］をチェックし①、［次へ］をクリックする②

「Microsoft Internet Explorer 6 Service Pack 1」のインストールが開始します。
インストールが完了すると、パソコンを再起動する確認画面が表示されます。

**9** ［OK］ボタンをクリックする

パソコンが再起動します。

# リカバリ(再セットアップ)チェックシート

リカバリは、本ページをコピーするなどして、次の項目を順番にチェックしながら実行してください。
本ページに記載されている各チェック項目の詳細は、「10章 リカバリをする」で説明しています。

## ① リカバリをする前に確認すること

□ ウイルスチェックソフトで、ウイルス感染のチェックを実行する
□ セーフモードで起動できるかどうか実行してみる
□ 周辺機器をすべて取りはずし、再度確認してみる
□ 他のトラブル解消方法を探してみる

参照 「9章 パソコンの動作がおかしいときは」

## ② リカバリをはじめる前にしておくこと

□ **①準備するもの**

□『取扱説明書』
□ このリカバリチェックシートをコピーしたもの
□ リカバリディスク(作成したリカバリディスクからリカバリする場合)

□ **②必要なデータのバックアップをとる**

バックアップをとることができる場合は、とっておいてください。リカバリをすると、購入後に作成したデータはすべて消失します。

□ マイドキュメントのデータ
□ 購入後にデスクトップに保存したデータ
□ インターネットエクスプローラのお気に入り
□ メール送受信データ
□ メールアドレス帳
□ プレインストールされているアプリケーションのデータやファイル
□ 購入後にインストールしたアプリケーションのデータ
□ 購入後に作成したフォルダやファイル

参照 バックアップについて「7章 1 CD／DVDにデータのバックアップをとる」

□ **③アプリケーションのセットアップ用のメディアを確認する**

「Microsoft Office」や、購入後にインストールしたアプリケーションなどは、リカバリ後にインストールする必要があります。リカバリした直後は、お客様がインストールしたソフトなどは復元されません。ご購入されたメディアなどから再度インストールしてください。

□ **④各種設定を確認する**

□ **⑤あらかじめ、音量を調節する**

□ **⑥周辺機器をすべて取りはずす**

## ③ リカバリ(再セットアップ)の流れ

リカバリをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。

□ リカバリ(再セットアップ)
□ アプリケーションやドライバのインストール*
□ ウイルスチェックソフトのインストール*
□ Office Personal 2003(Word、Excelなど)のインストール*
□ 周辺機器(マウス・メモリ・プリンタなど)を取り付けて、設定する
□ インターネットの設定
□ ウイルスチェックソフトの更新
□ Windows Update
□ データの復元やメールの設定

＊ 必要なモデルの場合